



月刊 もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

2021年6月1日 第105号 初版

www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通って
あなただけの番地に届きます

化娘 ……「国を出たとき、十七人、戻って来たのは、二人半」どこかで読んだ、ウタの文句です……数はちがうけど、いまの私の気持ちに、ぴったりね……父ちゃんが消えてしまって、私は一人ぼっちになったのです……私は、昔住んでいた川の底に帰ろうと思いました……でも、理由はよく分からないんだけど、駄目でした……いくら、水の中にもぐって行こうとしても、ピンポン玉みたいに、プカプカ浮かんでしまうのです……

(『お化けが街にやって来た 後編 [ラジオドラマ]』全集第14巻、9ページ)



化娘製「二人半」弁当

[日本文化をトポロジーで解説する「内なる境界」シリーズ(1)：幕内弁当といふ名前のトポロジー弁当。]よく観察すると、この弁当は結局、**包む、凹に入れる、仕切る**(切断ではない)、**穴を開けて通す、といふ四つのこと**から成り立っていることが判る。包むのは『水中都市』や『洪水』の海の水といふ存在、存在の凹に入れられるのは『砂の女』の仁木順平や『他人の顔』の事故で窪んだ顔の凹に落ちる主人公や『方舟さくら丸』の地下核シェルターの凹に潜(もぐ)る渾名がもぐらの主人公、凹で仕切るのは『箱男』の箱男。箱男は存在の箱で世界を仕切っている。刺し通すのは『カンガルー・ノート』の自走ベッドによる地獄巡りの数珠繋ぎ、自走ベッドは焼き鳥や肉団子の串(私たちにとってtopologicalには焼き鳥も串だんごも数珠や真珠の首環と同じである)。あるひは『S・カルマ氏の犯罪』で逃走を続けるS・カルマ氏自身が幾つもの世界を数珠繋ぎにする世界の仕切り屋。権力とは何か。さて即ち、この幕の内弁当は全体が1、即ち一つの凹といふ箱でできてゐる存在弁当、いつてみれば入籠構造のネスト弁当にフラクタル弁当、もつと云へば、安部公房弁当であり、箱男弁当である。

[謎々] ところで上に引用した化娘の歌ふ「国を出たとき、十七人、戻って来たのは、二人半」の半分つてなあに?この半分は幕の内弁当の何処にある?これはあなたの祖国を失はぬための謎々です。シャーマンは存在の祖国を歌ふ。

[ヒント] 折り紙すること。「幕内弁当そつくり」なものを見つけて、これを二つに折ってみること。「人間そつくり」なものを見つけて、これを二つに折ってみること。「火星人そつくり」なものを見つけて、これを二つに折ってみること。「●●そつくり」なものを見つけて、これを二つに折ってみること。安部公房のtopologicalな汎神論的存在論、是也。即ち、古事記冒頭に叙述されてゐる高天原トポロジーです。詳細は『Mole Hole Letter(22)：Topologyとは何か〜《わたし》は何処にゐるのか〜』の連載をご覧ください。



目次

- 0 目次…page 2
 - 1 記録&ニュース&掲示板…page 3
 - 2 初期安部公房新発見書簡三通と其の解説：岩田英哉…page 9
 - 3 全自動ベビーカーのデッドヒート：第二回 死んだ少女とそれぞれのうたげ：木石岳…page 3 1
 - 4 『周辺飛行』論（18）：ゴム人間のことなど——周辺飛行15：岩田英哉…page 3 5
 - 5 リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（48）：第2部 XXIII：“お前に絶えず反抗しているお前の時間に、わたしを呼びなさい。”：岩田英哉…page 4 5
 - 6 ネット・メディア論（1）：国家とは何か：岩田英哉…page 5 1
 - 7 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（1）：岩田英哉…page 9 5
 - 8 Mole Hole Letter（22）：「日本安楽死クラブ設立準備会」参議院選挙に立候補す：岩田英哉…page 9 6
 - 9 編集後記…page 1 0 5
 - 10 次号予告…page 6 6
-
- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 1 0 3
 - ・本誌の主な献呈送付先…page 1 0 6
 - ・本誌の収蔵機関…page 1 0 6
 - ・編集方針…page 1 0 6

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

ニュース&記録&掲示板

The best tweets 10 of the month



該当なし。どうしたコーボーズ。



該当なし。どうしたコーボーズ。

今月の安部公房書簡新発見

うすぼてち@usupoteti 3 hours ago

昭和22年6月28日②

日付は祖父が封筒に書き入れたもので②は安部公房から来た手紙に振ってあった番号だと推測してます

うすぼてち@usupoteti 3 hours ago

何年もやらないといけないと思っていたけど面倒で放置していた安部公房の書簡をスキャンしました
(たった3通しか無いのにな!) ついでに凄く面倒な事になりそうだけど僕が秘蔵していても仕方ないので公開します。安部公房ファンの方の目に留まればいいね。

これ、なにかににてると思ってたら、安部公房「箱男」た

【編集部】

『初期安部公房新発見書簡三通と其の解説』として今月号の巻頭で解説をしましたので、お読み下さい。

今月の読書会

Woody Allen@wlallen・14h

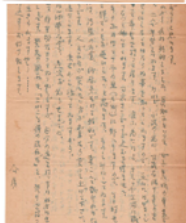
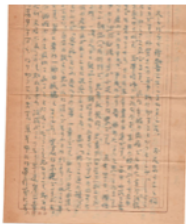
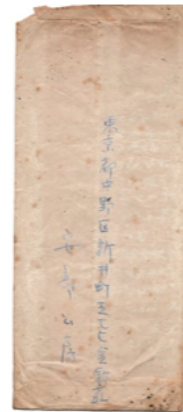
【9/29開催】安部公房『友達・棒になった男』読書会

前は主宰者2人の寂しい読書会でした。それなりに楽しかったのですが、やはり寂しかったです(苦笑)

今回も人が集まらない予感を感じますが、この告知を読んで、参加を検討してくれるだけでもありがたいと感じます。(link: <http://wlallen.seesaa.net/article/467754706.html>)

wlallen.seesaa.net/article/467754...

第17回関西安部公房オフ会(略称KAP)の読書会の開催が決まりました。KAP読書会の紹介や過去の読書会の映像もご覧いただけるとありがたいです。



うすぼてち @usupoteti
昭和22年11月④

日時：2019年9月29日（日） 午後1時～5時
開場：12時50分
場所：「高槻現代劇場」内・高槻市立文化会館（市民会館）集会室301号
アクセス 高槻市立文化会館の地図
<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/bunka/theater/access/index.html>
京阪電車からは、枚方市駅から京阪バスで阪急高槻へ約20分です

今月のS・カルマ氏の犯罪

日本文学振興会@shinko_kai・Jul 18
昨日 #直木賞 を受賞した大島真寿美さんの『渦 妹背山婦女庭訓魂結び』ですが、そういえばサブタイトルのある受賞作ってあったかなと思って調べたところ、直木賞では初めてでした。#芥川賞でも一作のみ。それは安部公房の「壁 -S・カルマ氏の犯罪」...!

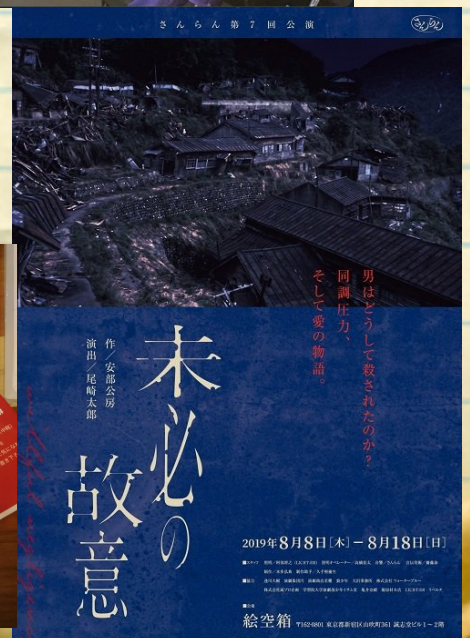
今月の闖入者

すっぴん！@nhk_suppin・Jul 19
終戦の日に、特集番組「高橋源一郎と読む『戦争の向こう側』2019」を放送します。
日時は8月15日、夜8時5分。
取り上げる作品は、太宰治『トカトントン』、武田泰淳『審判』、安部公房『闖入者-手記とエピローグ』ぜひ、お聴きください。(link: <https://www4.nhk.or.jp/P5017/>) www4.nhk.or.jp/P5017/
#nhk_suppin



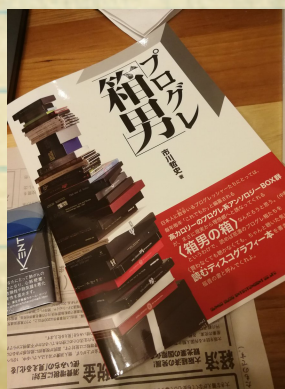
今月の上演

さんらん公演「未必の故意」
作：#安部公房
8/8(木)～18(日)
#絵空箱
東京都新宿区山吹町361
稽古場風景です。左から順に、増田宏祐、堀元宗一朗
(株式会社ウォーターブルー)、馬渡亜樹 (#演劇集団円)。
閉鎖的な島で起こる、同調圧力と愛の物語。
ご予約受付中です：<https://ticket.corich.jp/apply/100662/>



今月の箱男

道化師A-METAL@norm_cedar Jul 19
安部公房も、プログレも好きなので、
買うしか選択肢なかった。



今月の内田栄一（安部公房の唯一のお弟子さん）の作品発見

「内田栄一 創作「洋服を脳いだ馬の骨」と題して佐伯彰一編集人の季刊『批評』（昭和35年1月15日発行。第6号）に発表してある短編小説を編集部が発見。次号以降に掲載の予定。

「若い頃には安部公房に師事。新日本文学会に入会して小説家としてデビューする。1974年には金子正次らとともに、劇団東京ザットマンを旗揚げするなど、アングラ演劇の活動も盛んに行っていた。」

([https://ja.wikipedia.org/wiki/内田栄一_\(作家\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/内田栄一_(作家)))



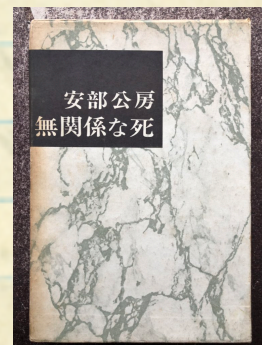
今月の砂の女

夏はなぜか人を狂おしくする。肌を灼く暑熱のせい、それとも、これから来る秋と冬のもの寂しさを予感するからか。少なくともわたしの人生が「狂った」のは、ある夏のことだ。ある作家との出会いが契機となった。15歳の夏、軽井沢の山荘。その作家とは安部公房であり、その本とは、『箱男』と『砂の女』だ。中学で所属していた文芸部の夏合宿で軽井沢へ行き、連日この二冊を徹底して読まされた。それまで『赤毛のアン』や『風と共に去りぬ』のような少女文学や古典名作を読んでいたわたしに、このとき文学の悪魔が囁いてきた。（「鴻巣友季子さんが選んだ5冊」：

<https://www.harpersbazaar.com/jp/lifestyle/books/a28347689/summer-reading-club-yukiko-konosu-190711-hbr/>

今月の無関係な死

古書 柘榴ノ國 (ザクロノクニ)@奈良@zacronokuni Jul 19
新着。安部公房「無関係な死」新潮社S43年4刷。
署名入り。函背ヤケ気味。



今月の三島由紀夫

高島都@somichi Jul 19

大映東京の撮影技師で三島由紀夫の『憂国』も手がけた渡辺公夫は新宿に軍歌酒場・潜水艦をオープン。三島直筆の大掛軸「至誠」を譲り受け、店では軍服に身を包む。安部公房の『時の崖』も渡辺の撮影であり、東京パラリンピックのドキュメンタリーでは監督を務めた。

「映画と愛国」の一断片。



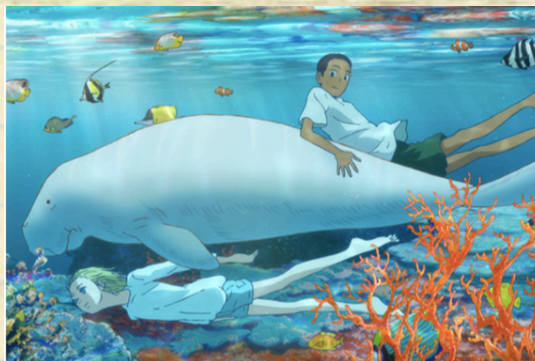
今月の岡本太郎

岡本太郎美術館20周年記念展
前期/岡本太郎・縄文から現代へ

<http://www.taromuseum.jp/exhibition/current.html>

映画『海獣の子供』と安部公房『第四間氷期』に見る水棲人類とは

「水棲人類」を描く、安部公房『第四間氷期』
 原作漫画もさぞ美麗で細かいストーリーが丁寧に綴られているであろうが、私がこの映画を観て真っ先に読みたくなかったのは原作ではなく安部公房の『第四間氷期』であった。1959年発表のこの近未来小説は、東西冷戦の最中に開発された「予言機械」(今で言う AI)が予言した第四間氷期(間氷期=氷河時代のうち、氷期と氷期の間に挟まれた、気候が比較的温暖な時期)に備え、海底に適応した未来の人類「水棲人」を造り出すお話である。物語後半で、水棲人たちは問題なく進化を遂げ、陸棲人類は過去の生き物となるが、ある日突然、水棲人の1人の少年が陸上に恋い焦がれ陸に還ろうとするのである。一方は38億年前に発生した命の鍵を解き、一方は絶滅する人類が海底に活路を見出して自らの肉体を造り変え子孫を繋いでいくという、全く異なったストーリーであるが、「水中をどこまでも自由に往き来できる子供」という共通のキャラクターが出てくるのが面白い。この夏必見の映画と小説である。」



今月の旭川東鷹栖安部公房の会

柴田望@NOGUCHIS7 21 minutes ago

「安部公房たより」2019年7月6日(土) 特別講演
 「安部公房を語る」 村田先生、誠にありがとうございました
 ございました!! 東鷹栖安部公房の会一同、心より御礼申し上げます。柴田さんツイート

今月の立川志の輔師匠

立川志の輔公演情報 志の輔が初めてPARCO劇場で落語を行ったのは1996年。それから今年で18年目となった。「こんなに続くなんで全然思ってませんでしたよ。今でこそ『PARCO プロデュース』なんて言ってもらってるけど、最初は劇場が空いている日を3日間 借りただけでしたから。私が富山から東京へ出てきて、最初に演劇というものを見たのが西武劇場、今のPARCO劇場だったんです。その時上演していたのは、山口果林・仲代達矢主演の安部公房作『友達』。東京のど真ん中の渋谷で、右も左もわからない田舎者は「ああ、こんな良いものを毎晚上演しているのが東京なのか」と、えらく感激してね」と当時を振り返る。



安部公房の会たより 2019年 東鷹栖安部公房の会
7月6日 特別講演『安部公房を語る』

講師 北海道教育大学 准教授 村田 裕和 先生

■2019年7月6日(土) 13時30分より、東鷹栖公民館2階講堂にて、北海道教育大学准教授村田裕和先生による特別講演「安部公房を語る」が行われました。「安部公房と現代社会」について、「いほから六〇年も前に書かれたこの寓意的小説は、『予言機械』(それ自体まさにAIの先駆的な予言!)によって見通された自分自身の未来に翻弄される主人公を描いて、日常的連続性への依存を厳しく批判する。比今福地太氏が語る『第四間氷期』(1959年)は監視社会、グローバル化(経済利用・格差是正)の問題、環境化やローン技術、AI技術、人造人間(ロボット)も登場。宇宙回廊な時代、AI社会が人間の生と死をどのように支配するの?といった問題を扱っている。また、『カガールノート』(1991年)では1冊の閉鎖的から、創作的なケアー自己放棄を求めるとは正しいことなのだろうか? 正しい介護のあり方、求め方は? と問いが生じる。「書の内容だけで石を積み上げてきた歌、長い時間、様々な話を語りあわす、一人の人間の身体・時間をえがくこの作品も、「生きて、死ぬ」ことを見つめ直すきっかけを与えてくれる。安部公房が生きているときには存在しなかった現代社会の最先端の問題にも、安部公房作品の普遍性は様々なヒントを与えてくれるのだという貴重な気づきを得ることができました。

東鷹栖安部公房の会 特別講演
安部公房を語る
 講師 北海道教育大学 准教授 村田 裕和 先生

■講演内容 1959年発表の小説『予言機械』(1959年)は、AIの先駆的な予言として、未来を予言する機械が人間の生と死をどのように支配するの?といった問題を扱っている。また、『カガールノート』(1991年)では1冊の閉鎖的から、創作的なケアー自己放棄を求めるとは正しいことなのだろうか? 正しい介護のあり方、求め方は? と問いが生じる。「書の内容だけで石を積み上げてきた歌、長い時間、様々な話を語りあわす、一人の人間の身体・時間をえがくこの作品も、「生きて、死ぬ」ことを見つめ直すきっかけを与えてくれる。安部公房が生きているときには存在しなかった現代社会の最先端の問題にも、安部公房作品の普遍性は様々なヒントを与えてくれるのだという貴重な気づきを得ることができました。

会場: 東鷹栖公民館 2階講堂
 東鷹栖公民館 2階講堂 2019年7月6日

今月のスペインの読者の安部公房

類いまれな芸術環境の日本【スペイン人の目、驚きの日本】第1回：

<https://artexhibition.jp/topics/features/20190726-AEJ93249/>

「驚きの日本」

私は、スペイン中部のカスティーリャ・ラ・マンチャ州のトレド県タラベラ・デ・ラ・レイナで生まれました。トレドの最大の古代都市ですが、ラ・マンチャの女は、頑固な性格で有名です。

3歳の時に母は、毎日、車で私を幼稚園に送り迎えしてくれました。でも、幼稚園に行くよりもためになると、ピカソの友人がやっている大人の絵のアトリエにたびたび連れていかれて、そこで大人たちが絵を描いているのを何時間も見つめていました。その頃の夢は、オペラ歌手、ストリッパーでした。そして11歳になったときに、芸術家になろうと決心しました。芸術家になるには、現存する世界で最も古い3つの大学の1つ、サラマンカ大学で、勉強したいと思い、美術史と美術を専攻しました。博士課程のときに、日本のデジタルアートを研究するための奨学金を獲得して、横浜のフェリス女学院大学に留学しました。

日本に初めて来たとき、日本人たちが私を見て、いつもニコニコしていたのには驚きました。その微笑がどういう意味なのかまったく理解できず、とても戸惑ったのを覚えています。あまりに日本人の考え方がミステリアスだったので、清少納言、川端康成、**安部公房**など日本文学を読み漁りました。それで、日本人の心性が、少し理解できるようになったかも知れません。

横浜から帰国した後、スペイン政府から2つの奨学金を獲得して、モロッコ・テトゥアンとイタリア・サルディニアに芸術家派遣されました。その後、再び東京に戻り、在日スペイン大使館やインスティトゥト・セルバンテス東京で、個展を開きました。日本に魅せられ、現在は東京に移住して、作品制作、芸術家たちと美術史の研究や講演活動を行っています。

(以下略) 」

<https://artexhibition.jp/topics/features/20190726-AEJ93249/>

第104号の訂正

ニュース&記録&掲示板：P4

最初の「編集部」の次に、次の文言と写真を追加する：

今月の公然の秘密 高菜loves2x3x17 安部公房「公然の秘密」

ダウンロードは<https://docdro.id/4qoEKkr>





初期安部公房新発見書簡三通と其の解説

岩田英哉

目次

- 0 はじめに
- 1 初期安部公房の住所の変遷について
- 2 外賀さんといふ友人について
- 3 長篇小説『客死』
- 4 書簡三通

0 はじめに

マルチメディア作家である、如何にも安部公房の読者らしい事件が、私たちの身に起こりました。Twitterでの、うすぼてちさんのツイートのお蔭で、初期安部公房の書簡三通が新たに発見されたのです。勿論、全集未収録資料です。そして、私たちは、うすぼてちさんの本名を知らないといふこと、これが更に輪をかけて、安部公房らしいことでした。

発見された初期安部公房の書簡は三通あり、これはうすぼてちさんの祖父の方が持つてゐた手紙であり、この方による整理番号①②③の数字に丸括弧を付された其の日付は次の通りです。書簡の写しは後掲します。

- (1) 昭和22年6月28日②
- (2) 昭和22年11月④
- (3) 昭和23年4月10日⑧

お孫さんのうすぼてちさんのお持ちの書簡は此の三通のみですが、しかし其の付番からいつて他にも書簡のあつたことが判ります。其の最大の書簡の数を⑧といふ整理番号からいつて八通だとしても、この方は単に一過性の知人ではなく、それも此の付番と日付の月の時間の短さから云つても此の時期相当に頻繁にやり取りをした、このことでは日常的な生活感覚で親しい友人であつたことが判ります。そして、書簡の転載の後で解説を致しますが、実際その通りの、満州は奉天で出遇ひ、満州での経験の如何なるものかを共有し、引き揚げの苦勞と帰国後の苦勞をそれぞれに経験した親しい友人でありました。以下、書簡の写真の転載と私の文字起こしをした本文をご覧下さい。本文には註釈を付しました。

1 初期安部公房の住所の変遷について

三通の書簡の書かれた年を中心に初期安部公房の住所の変遷を整理します。

その理解のためにこの時期の初期安部公房の定義を掲げます。また初期安部公房の「詩人のままだに詩人から小説家へ」図は次のURLへ：

<https://www.docdroid.net/PnAMHBO/v11.pdf>

『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について（1）』の中の「I 安部公房の自筆年譜と『形象詩集』の関係について」（もぐら通信第56号）より以下に引用します：

初期安部公房の定義

『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』といふ題でお話を致しますが、ここでいふ安部公房文学の「初期」といふ言葉の定義について最初に簡単に説明をして読者のご理解を得てから本題に入ります。

この場合の「初期」とは、既に「『デンドロカカリヤ』論（前篇）」（もぐら通信第53号）にて明らかに致しました「詩人から小説家へ、しかし詩人のままだに」図に基づいて定義をすると、次のやうになります。この図のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/PnAMHBO/v11.pdf>

1. 狭義の定義

狭義には、初期安部公房とは、3つの問題下降の時期、即ち詩人から小説家への変身に3回の問題下降によつて美事に成功する時期、即ち全集によれば詩集『没我の地平』を著した西暦1946年（昭和21年）安部公房22歳から『デンドロカカリヤB』〔註1〕を著した西暦1952年（昭和27年）安部公房28歳までの期間を言ひ、

2. 広義の定義

広義には、初期安部公房とは、3つの問題下降以前の時期、即ち西暦1942年（昭和17年）安部公房18歳から西暦1944年（昭和19年）安部公房20歳までの問題下降論確立の時期及び、西暦1945年（昭和20年）安部公房21歳までの1年間を含んだ時期を併せた全体の時間を言ひます。

[註1]

「『デンドロカカリヤ』には二種類あります。一つは、全集によれば「雑誌「表現」版」と呼ばれてゐるもの、もう一つは、「書肆ユリイカ版」と呼ばれてゐるもの、この二つです。便宜上、前者を『デンドロカカリヤA』と呼び、後者を『デンドロカカリヤB』と呼ぶことにします。前者の発行は1948年8月1日、安部公房25歳の時、後者の発行は1952年12月31日、安部公房28歳の時です。この二つの作品の間に、『S・カルマ氏の犯罪』で芥川賞を受賞してゐます。」（「『デンドロカカリヤ』論（前篇）」もぐら通信第53号）

初期安部公房 (広義)										初期安部公房 (狭義)	
シャーマン安部公房の秘儀の式次第は、下図の①から③の3つの問題下降の結果、詩の世界のみならず、小説の世界でも確立したといふことである。さうすると、詩集『没我の地平』は、問題下降して詩集『無名詩集』に至るための上位の謂はば「概念詩集」として大変重要な詩集だといふ事になる。											
『問題下降』論の確立	詩形式による「今後の問題の定立」=詩と散文の統合				何ががあった	散文形式(小説形式)の確立					
1944/6/8 20歳	1944/11/21 20歳	1946年冬 22歳	1947/1 23歳	1947/5 23歳	1948/1 24歳	1948/5 24歳	1949/8/1 25歳	1950/5/5 26歳	1950/12/1 26歳	1951/2/1 27歳	
詩と詩人 (意識と 無意識)	没落の書 散文と詩の統合の 試み=小説の構造の モデルの提示	詩集『没我の地平』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』	詩集『無名詩集』
『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論
1944/4 or 5 老村長の死	1946 (引揚船中で起稿) 天使	1947/1/2 第一の手紙~ 第四の手紙	1948/3/8 牧草	1948/3/25 悪魔ドゥペモオ	1948/3 憎悪	1948/4/16 果敢者の告発	1949/3/9 キンドル氏と ねこ	1949/3/15 詩「世紀の歌」	1949/9/16 ミイラにならう	1951/5/19 大きな砂ふるい	1951/6/1 保護色
『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論
1944/4 or 5 老村長の死	1946 (引揚船中で起稿) 天使	1947/1/2 第一の手紙~ 第四の手紙	1948/3/8 牧草	1948/3/25 悪魔ドゥペモオ	1948/3 憎悪	1948/4/16 果敢者の告発	1949/3/9 キンドル氏と ねこ	1949/3/15 詩「世紀の歌」	1949/9/16 ミイラにならう	1951/5/19 大きな砂ふるい	1951/6/1 保護色
『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論	『問題下降』論

上記の初期安部公房の定義のうち、この新発見書簡は狭義の定義により「3つの問題下降の時期、即ち詩人から小説家への変身に3回の問題下降によつて美事に成功する時期」に書かれた三通の書簡だといふことが判ります。この時期の書簡で全集収録のものは、中埜肇宛のもの(全集第1巻と第2巻)と埴谷雄高宛のもの(全集第30巻)と高谷治(全集第29巻)、中田耕治(全集第2巻と第29巻)の四人の書簡です。この四人の書簡の隙間を埋める重要な書簡だといふことになります。以下、安部公房の住所の変遷です。

(A) 1947年(昭和22年) : 23歳 : 世紀の会結成(春)。『無名詩集』を自費出版(5月)。正確な住所の変遷については全集第30巻の「作品ノート」に詳しい。以下は「作品ノート」に拠った。この新発見の友人宛の手紙の書かれた時期は、転居の激しい次のやうな期間に書かれたものです。西暦はみな「遅くとも此の日付から～」といふ意味です。

- (a) 1947.6.17~ : 中野 : 東京都中野区新井町五七七 金鈴荘 : 昭和22年6月28日
- ② [中埜肇宛書簡第9信(1947.6.17) 全集第1巻267ページ]
- (b) 1947.9.8 : 箱根 : 東京都千代田区神田小川町一ノ一 赤塚方 [埴谷雄高宛書簡第1信(1947.9.8) ; 全集第30巻11ページ : 「今強羅の友人の家に間借りしてゐるのです。」]
- (c) 1947.10.22~ : 本郷 : 東京都文京区本郷根津須賀町七 藤田西湖方 : 昭和22年11月④

(B) 1948年(昭和23年) : 24歳 : 夜の会に参加(1月)。東京大学医学部医学科を卒業(3月)。『終りし道の標べに』を刊行(10月)

(a) 1948.4.10～：小日向台町：東京都（小石川局区内）文京区小日向台町1-30：昭和23年4月10日⑧

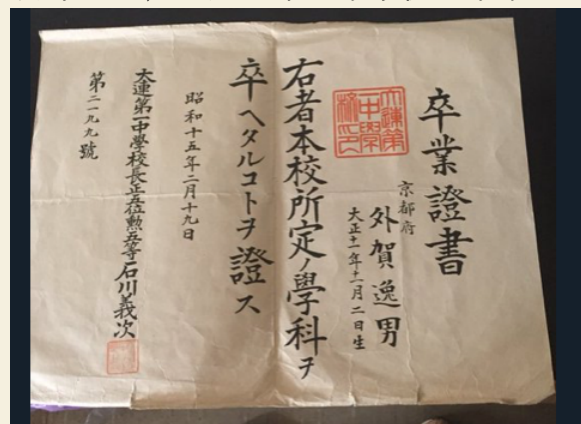
(b) 1950.10～：茗荷谷：東京都文京区茗荷谷五七〔埴谷雄高宛書簡第14信（1951.3.28）；全集第30巻30ページ〕「そこ〔小日向台〕に二年一〇ヶ月程いて、家賃が払えなかったのか追い立てを食らい、昭和二五年一〇月に、近くの茗荷谷にある小さな小屋に越してきた。」「ここで芥川賞受賞作『S・カルマ氏の犯罪』を書く（安部ねり『茗荷谷の安部公房』（『新潮』2017年1月7日発売の2月号、218ページ）。

2 外賀さんといふ友人について

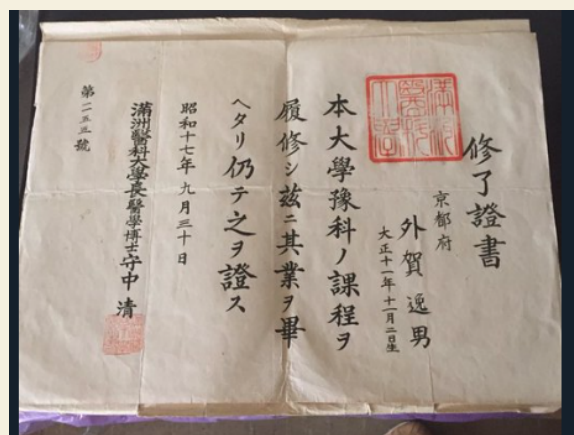
中埜肇が大日本帝国内地の東京は成城高校での哲学上の親しき友であつたのに対して、この友人は満州帝国奉天での絵画の、そして文面から察するに文学をも解する、親しき友であつた。生年月日は、大正十一年十一月二日。大正十三年（1924年）生の安部公房より二年歳下です。西暦1926年生まれといふ事になります。

うすぼてちさんより戴いた此の祖父の方の卒業証書二通によれば、即ち、

(1) 卒業証書（昭和十五年二月十九日）：大連第一中学校を卒業



(2) 修了証書（昭和十七年九月三十日）：満洲醫科大學予科を修了



といふ事です。

うすぼてちさんに尋ねたところ、この時祖父の父親、即ち曾祖父が満鉄に在職してゐたとのことですから〔註1〕、次の二つの可能性が此の転居についてはあり得ると考へることが

できます。大連には子供ですから親と同居といふ前提で考えます。

- (1) 一人で奉天に転居した。
- (2) 親と一緒に奉天に転居した。

[註1]

以下うすぼてちさんからの回答を引用します：

「祖父と公房の関係についてはほとんど私も知りません。

- ・満州時代の学友（相部屋か居候かは分かりませんが一緒に暮らしていた時期もあったそうです）
- ・祖父が公房宅へ遊びに行き帰ってきたら祖母に「茗荷谷の安部公房」新潮土産話した

母に祖父の出自を尋ねた所、生まれは日本で曾祖父が満鉄なので家族で満州に引っ越したようです。」

上記(2)の場合は、家がある筈ですから「満州時代の学友（相部屋か居候かは分かりませんが一緒に暮らしていた時期もあったそうです）」といふ言ひ伝へは残らない筈です。さうであれば、うすぼてちさんのお祖父さんは親元を離れて単身で奉天の満洲医科大学に入学した事になる。そして、大学に寮があれば、そこに入ったでせうから、上の言ひ伝へのやうにはならない。安部公房側の資料に誰かを下宿させたといふ資料はありませんので、この情報の欠落が正しいとしたら、あるひは奉天に下宿先を探すまでの間一時的な仮住まいをしたのかも知れない。この場合、この祖父さんと安部浅吉は満鉄の同僚として土地は離れていても、同僚の職員の子弟を預かる関係の知己ではあつたといふことになります。あるひは面識はなくとも、同じ満鉄の職員同士といふ事で同僚の子弟を預かることもあつたかも知れない。二人が親しくなつた機会が奉天であるとすれば、このとき外賀さんが昭和15年2月19日中学校卒業後満洲医科大学入学の時から二人の交友は始まり、安部公房が東京の成城高校に入学した同じ年に軍事教練で肺浸潤に罹り同年奉天に戻つて療養した昭和15年（1940年）の冬からの翌一年間の間、成城高校に復学するまでの間といふ事になります。また更に、昭和19年（1944年）に金山時夫と二人で敗戦間近の噂を聞いて奉天に戻つた後引き揚げまでの間も交友があつて同じ辛い経験を共有したことは、二つ目の書簡「4.2 昭和22年11月④」によつて明らかです。この方は絵が好きで画家になる希望をもつてゐたとのことです。[註2]、さうであれば、1978年の安部公房に次の回想がありますので、きっと二人は話ができて、三通の書簡の示す通りに親しい友人になつたこととせう。

[註2]

うすぼてちさん曰く：

「趣味に関しては知っています。

画家になりたかつたけど画家では食べていけないから医者になつたと常々言つてたらしく、今でも祖父の使つていた画材や絵が大量に残っています。」

「安部 僕は、なぜ自分が芝居をやるかということがずっとわからなかつた。ただ、過去をふり返つてみて、自分の文学的関心がだんだん結晶していったプロセスを思い出してみると、その一つに中学二年頃にみた「百科事典」の”現代美術”という項目が思い出される。未来派やシュルレアリスムというのが、小さいザラザラの写真で、学校で習う絵とまったく違う絵が出ているんだ。ものすごい衝撃だつた。その絵がいいと思つたのでは

なく、その絵の前でそれまでの絵という概念が完全に崩壊したわけだ。それともう一つは「世界戯曲全集」か何かの中の表現主義の芝居に異様なショックを受けた。これもやはり中学の二、三年の頃だったと思う。（略）」
（『都市への回路』全集第26巻210ページ上段）

恐らく安部公房が非ユークリッド幾何学に初めて触れた時の不安を回顧して次のやうに述べる時期は、この、「百科事典で未来派やシュルレアリスム」の絵画を見、「世界戯曲全集」か何かの中の表現主義の芝居に異様なショックを受けた」時期と同時期だと私は考へます。

「『記録と写真』(1957年4月21日)に次の言葉がある(全集第7巻、139ページ):

「こどものころ、はじめて「非ユークリッド空間」というものの存在を知ったとき、私はひじょうな不安ととまどいを感じたものだった。私にはまだ、現実そのものと現実の説明とを、区別する方[引用者:方法又は仕方の誤植であると思はれる]がなかったのだ。平行線が交わる世界と、交わらない世界とが、同じ一つの世界であり、それぞれその同じもののちがった説明にしかすぎないなどという考えにどうしてもなじむことができなかった。」
(傍線引用者)

また、「祖父が公房宅へ遊びに行き帰ってきたら祖母に「あいつら夜空が見える家に住んどった」と土産話した」とある家とは、小日向台町の家ではないかと思はれます。うすぼてちさん曰く、祖父は引き揚げ後は京都大学に入り医学を学んで岐阜で開業をしたといふことですので[註3]、この間その通りに三通の書簡はみな京都の住所宛になつてゐる。この奉天にて親しき友は、わざわざ京都から東京に出てきて、安部公房の封書の裏の住所が小日向台町であれば、この家に泊まつた事になります。しかし、後述するやうに屋根が破れて星空の見える家は同じ小石川ではあつても次に移り住んだ茗荷谷の家です。

[註3]

うすぼてちさん曰く「戦後は祖父は満州から引き揚げて曾祖父の実家である京都の福知山に帰ったようです。京大に入ったので最終学歴は京大。その後、師事していた岡本道雄と共に岐阜に来て、岐阜で開業して岐阜で没しています。」

3 長篇小説『客死』

「来年早々、個性といふ雑誌（一月創刊で、思索社発行・思索や哲学を出してゐるところ、一流文ゲイ誌として期待されてゐるらしいです）の二号に僕の處女作が出ることに決定しました。題は「終りし道の標べに」といふので「客死」といふ長ヘンの第一章です。出たら是非読んで下さい。」とある箇所を読みますと、実は『終りし道の標べに』は最初は読者周知の通り『粘土塀』といふ題名で第1章が書かれ、総体としては『終りし道の標べに』の題名の元にその後の章も書かれて出版されたわけですが、これはしかし、この書簡によれば、全体の題名は『客死』であり、この題名の元に『終りし道の標べに』を其の第1章として含むもつと長大な小説の構想であつたことを示してゐます。この題名の元での章建ては、全集第1巻の巻末「作品ノート」に詳しい（同巻11ページ）。「作品ノート」によれば、『客死』といふ長編小説の目次は次の通り：

1. 終りし道の標べに
2. 灰色のノート
3. 知られざる神
4. 想念の襖に潜みて

4 書簡三通

4.1 昭和22年6月28日②

(1) 安部公房の住所

東京都中野区新井町577金鈴荘〔註4〕

〔註4〕

この住所と同じ住所が、成城高校時代の哲学談義を交はし、後京都帝国大学哲学科に入つてヘーゲル研究者となつた中埜肇宛の手紙（1947年6月17日付）に地図入りで書かれてゐる（全集第1巻、268ページ下段）。

(2) 本文（縦書き）

又しばらく御無音してしまひました。お元気らしく何よりです。外賀さんのお手紙に切するといつもしみじみとたうれしさを感じます。僕は年限の関係で九月に全部試験を受けきれず、五単位残つてゐたのを、来月の始めから十九日までに受けるも〔註5〕、十二月末卒業のヨ定です。毎日小説を書いて疲れてゐますので、半月ばかり骨休めによいと思つてゐます。やはり試験勉強の方が小説よりは楽です。来年早々、個性といふ雑誌（一月創刊で、思索社発行・思索や哲学を出してゐるところ、一流文ゲイ誌として期待されてゐるらしいです）の二号に僕の處女作が出ることに決定しました。題は「終りし道の標べに」といふので「客死」といふ長ヘンの第一章です。出たら是非読んで下さい。自分の親しく思ふ人に読んでもらふのは何よりうれしい事です。第二章は一昨日脱稿しました。発表は未定ですが、多分個性に少し後れて出ることになるだらうと思ひます。或ひは近代文学に出るかも知れません。試験が了つたら早速第三章に著手す可く、はり切つてゐます。来年中には単行本になるだらうと思ひます。

それから、僕は結婚しました。眞知子といつて、女子美術の卒業です。二人で苦勞してゐます。けれど、小説の為に、可能な限りのものをギセイにしなくてはならぬ事を知つてくれますので、互ひにはげまし合つて希望を持つて居ります。食ふ為にはと、オモチャ工場に職工になつて働いてくれます。可哀さうですが止む得ません。

今年の正月はマチ子の里（九州）に歸へりますので〔註6〕、その時せめて驛ででもお遇ひしたいと思ひます。たのしみにしてゐます。尚ほ、詩集のお金、御厚意だけで結好です。喜こんで戴ければ何よりです。又どなたか買ひたい方が出来たら賣つて上げて下さい。お送りします。未だ少し残つてゐますから。

では簡単ながら、近次お知らせまでに。

〔註5〕

「つもり」の「り」の字の欠落と読むか、又は、「つ」の字を修正で消して、「受けるも」と読むか。後者を採りました。

〔註6〕

「歸へり」の歸の字は推量。確信はない。「歸」は略体字「帰」の正体字。

(3) 原稿本体および封筒裏

No. 1.

又しばらく御無音にしてしまひました。お天気らしく何
 りです。お貸さくのお手紙に切すところも、しつこく
 右の山にすそ見します。依り年限の肉後で九月に金や法強
 ち多々やります。五層作持つておのき。来月の始めから十九日
 まいご受け了つて。十二月末まで作業の日定めます。毎日山次を考
 へて度山をぬきます。半月ばかり島林めにようと思つてあります。
 やはり御返強の方か山次より楽です。来年中々、個性
 としお雑誌(二月刊)で、思案社発行。思案社お返さすお返し
 了所。一流文がい雑誌として期待されるお返さす(お返し)の二と
 後の虎女休が来ることに決まりました。お返し「終りに道の標」
 としお返さす「客死」としお返さす「二の巻」第一章です。山次は是非
 下さす。自分の扱こく思案社に返さすお返しは何より山次
 です。第二章は一昨日版稿しました。お返しは未定です。お返し
 分個性に少し後山に出ることになりました。お返しは未定です。お返し
 山の文に書くか、お返しは未定です。お返しは未定です。お返しは未定
 にはお返しは未定です。お返しは未定です。お返しは未定です。お返しは未定
 にはお返しは未定です。お返しは未定です。お返しは未定です。お返しは未定

八 書 店

子だらうと思ひます。

と山が、後れ終つたしました。眞知子とソツて、す子美八所の卒業を

す。二人で卒業してのめます。けれど、小沢の爲に、可能な限りのものを

キセイにしないでいたらめ事を知らなくてくわすので、互山にはがまし

合つて希望を待つて居ります。食ふ爲に口と、オモケや工場に職

工になつて働いてくわす。可哀さうですが止むを得ませへ。

今年の正月はマサ子の里(丸柳)に野入りします。より町を

めと野で、もあ遊ばしたつと思ひます。左めしみにしてあります。

今は、清集のお金、仲厚を付けて結婚です。喜ぶ二人で裁りかたは

よりです。又、どなたか買物をツカか山来をうきつて上げて下さる。

お送りします。未だ少し残つてありますから。

では、仲厚ながら、近況をお知らせせまてに。

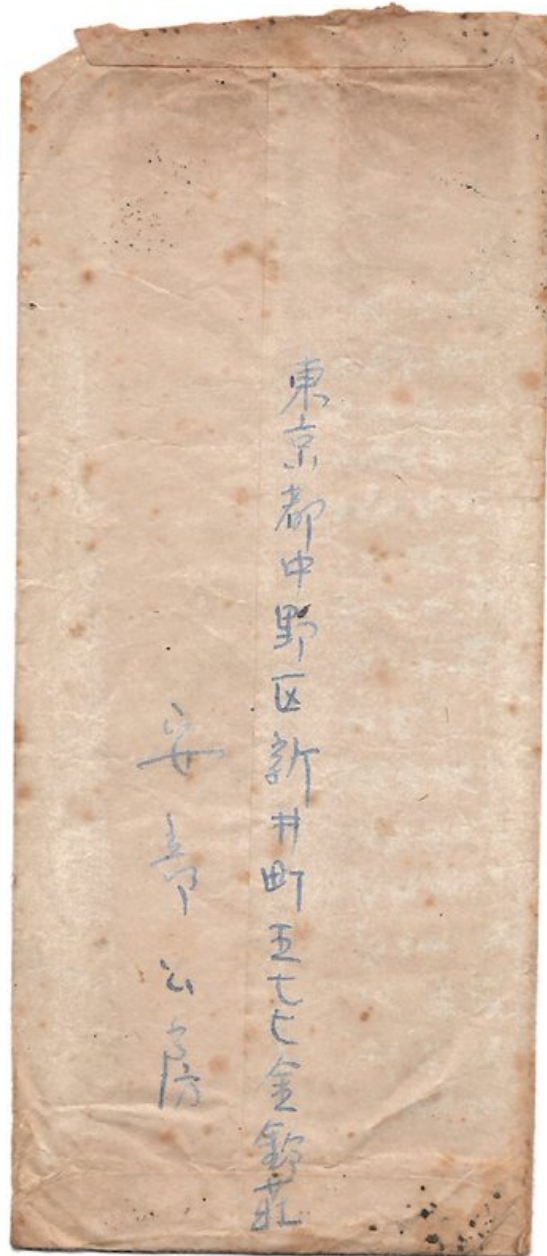
色々仲厚がなつたので、かうですが、自分の金と打つたりは任せ

なことです。貴方より現在も、このこと俵の政を、と、送りを持って

て生きたら水ます(や)……

仲厚車お打ち致します。

今度



東京都中野区新井町五七七金鈴荘

安部公房

4.2 昭和22年11月④

(1) 安部公房の住所

東京文京区根津須賀町七 藤田方

(2) 本文（縦書き）

御手紙戴きました。早く御返事しようと思ひながら、試験や何かでついで無サタして終わりました。

御手紙については何と申して良いか解りません。唯非常にうれしく思ひました。僕には満州時代の事は一切唯悪夢の様にしか思ひ出せません。きつとあれは本当に夢だつたのでせう。一切は唯人間の拙さに閉ぢ込められて、我を失つた行為に沈み乍ら、果して誰が人間である事の責任を持ち得たでせうか。僕は何も彼も忘れたいと思ひます。恐らく母だつて、あの想出の中に何を留める事が出来得ませうか。覚めて見れば、僕達のおびえてゐたものがどんなに小さなつまらぬものであつたかに気付くものです。

北海道へいらつしやつたら、機会があつたら家によつて見て下さい。貧いながらも生きなければならぬ意志を見て戴けると思ひます。僕もせつせと仕事をして居ります。紙シバイの画を書く内職です。

小説を書きたいと言ふ気持ちはやはり捨てられません。相変らず書いて居ります。先日、方々から借金をして、やつと詩集を自費で出しました。賣れないし、借金はさい即されるし、青くなつたり赤くなつたりしてゐます。

若し東京に出られる機会があつたら是非よつて見て下さい。一つ驚かせてあげる事がありますから。

では簡単ながら。

外賀●●様 [註7]

[註7]

うすぽてちさんの要望により姓名の全部は敢へて論考中には明示せず。外賀●●の下の姓は本文にて読むことができます。

(3) 原稿本体および封筒裏

御手紙載きました。早く御返事しようと思ひながら、
試験や何かのでつゝ御無サリして終りました。

御手紙にッソは何人と申して良ツが解りません。唯
非常にうれしく思ひました。後には満洲旅行の事は
一切唯悪夢の様には思ひ出せません。きっとあれは本夢に
夢だつたのでせう。一切は唯人間に掛さるに因らぬ。我
き夫の行爲に決み乍ら。果して誰が人間である事の責
任を持ち得たでせうか。後は何も彼も人出たと思ひま
す。恐らく母を。あの想ひの中は何を留めたる事か出
来得ませうか。覺めて見れば。後道にあつておたもの
がどなたに小さなつきらぬものであつたか。氣付くもので
す。

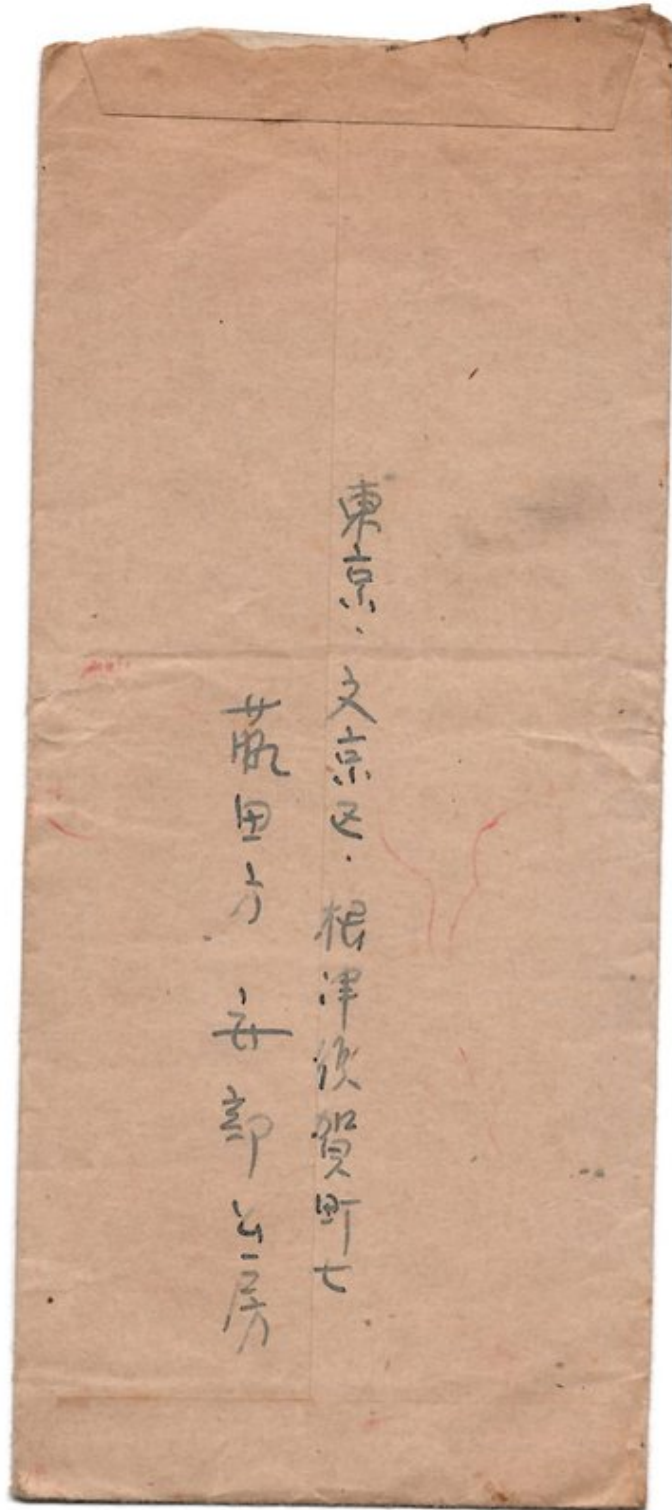
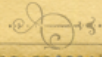
北海道へいらつていらつたら。機会があつたらう家によ
つて見て下す。食ひなからも生きなけ川はならなつて見え
を見て成けると思ひます。後きせつせと任事をさして
居ります。紙にバインの画を書き内藏です。

小説を書きさつと云ふ氣持けやけり捨てら小ません相
変らず書いて居ります。先日、方々から借金をさして、や
つと持集束を自費で出しました。其小なつし。借金は
さつとくす小し。其同くなつたり赤くなつたりしておます。
若し東京に出ら小る機会があつたら是れよつて見て
下す。一々驚かさせてあげて事がありますから。

つての御座なから。又、御返事下す。

外郎送りの様

ご返



東京

文京区 根津波賀町七

藤田方 井部七房

4.3 昭和23年4月10日⑧

(1) 安部公房の住所

東京都（小石川局区内）文京区小日向台町

（封筒は近代文学社の封筒を使用してゐる。近代文学社の印刷済みの住所は、東京都中央区築地二丁目四番地（築地ビル）電話築地（55）三、〇七九番）

(2) 本文（横書き）

本当に御ぶさたしてゐます。その後御元気でせうか。もつとも病気をした外賀さんは一寸想像できないのですが……僕たちは至極元気でゐます。二三日、ちよつと下痢をしたほか。アツペの手術は〔註8〕、豫防(?)のをためだつたのですか、それとも?でも、とにかくなくなつて安心なものですから。

それから、外賀さんの御言葉は、と言つても、大分時間が経つてゐるのでお忘れかもしれませんが、僕の立つてゐる限界線と、それに「死」へよりも「生」への関心のはうが先なのではないかとの御言葉について、少し書いてみませう。さうです。そのとほりだと思ひます。一体、どうして「生」を耐えていくのか。それこそ、本当に問題ですね。僕自身にとつても。それが一番の問題であつたと思ひます。でもそれが「死」への関心のように受取られ、又そのやうな表現をとらねばならなかつたことには、理由があつたやうに思つてゐるのです。若し、一番満ち足りた「生」を生きてゐるとき、一番澤山の「死」を持つており、死によつて「生」を失ふとき、同時に「死」をも失つてゐるのだと考へてみたらどうでせうか。実際に、そして普通に生きてゐるといふ外賀さんが（むろん僕もその一人ですが）死よりも復活だといはれるのは、当然すぎるくらひ当然で、僕自身さう叫び得るやうになつたために〔註9〕あの作品を書いたといつても良いのです。実は、あの「異端者の告発」の「私」は、僕の逆説でもあつたのです。むしろあの「X」と交はるところに、新しい人間像があるのです。けれど、あの中に出て来る死は、むしろ充満した生の中の死を意味するもので、死が、Xといふ生そのもの、姿をかりて現れ、「私」を苦しめるのは、つまり自我の内的な予告を示してゐるのです。むろん、その死に対してすら、死よりも復活を叫ばなくてはなりません。しかし、もう一歩進んで、僕らがすでに、現在、復活しえおり、だがそれに気づかないだけだとした……さう、僕は、本当はそのことが書きたかつたのです。僕らはすでに、この日常生活に於いて復活しえゐるのだと。

それは、今 総合文化に連サイしてゐる「名もなき夜のために」にもつと直さいに書いてゐます。1、2、3回と総合文化、4回は近代文学10月号、です。これは二部作の第一部で、次いで来年から、晝のための歌（題未定）を書くつもりです。各部一冊づつの単行本にして、近代文学か、実業の日本社から出します。

「終りし道の標べに」は来月出版されます。

では簡単でしたがまた。お便り待つてゐます。

病院のはう、具合よくいつているのでせうか？

[註8]

アツペ は、促音便で アッペと発音したと思はれるので、調べると医療業界用語で、ラテン語の appendicitisをドイツ語でAppeといひ、即ち虫垂炎のことであるので、これは此の友人が盲腸で手術をしたと判る。手術オペラツィヨーンをオペと云ひ、メッサーをメスといふが如し。

[註9]

原文「叫び得るやに」は「叫び得るやうに」と解して文字にした。

(以下このページは余白)

(3) 原稿本体および封筒裏

本、当に御お心をいぬます。その後御元気でせうか。
もつとも、病気をしを外費は一寸想像できなものです
が……僕を少しは重症元気でみます。二三日、ちよつと下
痢をしをほか。アツへの牛筋は、豫材(?)のもめ
をうたわのですか。それとも? でも、とにかくなくなつて安心なもので
すから。

それから、外費はの御言葉は、と言つても、大分時間が経
つてゐるのでおそれかもしれませうが、僕の立つてゐる限界致と、
それには「死」へのよりも「生」への肉へのほうか又なのではないかとの
御言葉について、少し書してみませう。まづです。それと「死」を
思ふます。一併どうして「生」を耐えたりするのか、それこそ、本當に肉路で
すね。僕自身にとつても、それが一番の肉路であつたと思ひます。でも
それが「死」への肉へのやうに受取られ、まゝそのやうな表現をさしおは
なうなかつたことには、理由があつたやうにも思ひます。もし、一番満
ち足りた「生」を生きてゐると、一番渾身の「死」を持ってあり、死によ
つて「生」を失ふとき、同時に「死」をも失つてゐるのをと考へてみるやう
にせうか。実際に、それと普通に生きてゐるといふ外費は、(ま
づ人係もその一人ですが) 死よりも後生をとりはれるのは、當然すま
くは当然で、僕自身すうやうか得たかになつたためにあの作命を君とと
つてもよいのです。実は、あの「豊後藩の書院」の中「死」は、僕の逆境

でもあつたのです。むしろあの「X」と交はるところに、新しい人間性があるのです。けれど、あの中に出て来た死は、むしろ老死と生の中の死とを意味するもので、死が「X」といふ生の中のもの、安んじて死ぬ。「死」とまじりののは、つまり自我の内的な予備を示してゐたのです。むしろ、その死に対してすら、死期も後生ととらへてはなれません。さう、さう一歩進んで、後生がすでに、致仕、後生にあり、をいふかに気がある、いふだけととらへら……さう、後生、本当はそのことが要求をかつたのです。後生はすでに、この日常生に於て後生にゐるのをと。

これは、今新令文化に連さいにゐる「鳥もなき裡のそめに」にもつと直すりに書つておます。1, 2, 3回と新令文化、4回だけ代文と10月号です。これは二部作の第一回で、次つて来月から、書のをめの歌（題未定）を書くつもりです。各節 ~~一冊~~ づきの単行本にして、代文するが、実業の日本社から出します。

「新りに通のこぼに」は来月出版されます。

では高岸でながさね。お便り行つておます。

高岸のは、貝合スクリつておるのでせうか？

公房

昭和
年
月
日

東京都 (山手川内) 文京区 山手向台町
7-31
近 代 文 學 社

東京都中央区築地二丁目四番地
(築地)
電話築地(55)三〇七九番

中田耕治さんによる連載『安部公房を巡る思い出（連載第6回）』（もぐら通信第37号）より、この小石川時代の安部公房の姿を引用します：

「安部公房の処女作、「終わりし道の標べに」は、「個性」（23年2月号）に発表されて、すぐに「真善美社」から出た。「アプレゲール・クレアトリス」というシリーズの一冊だった。この「アプレゲール」という単語だけが切り離されて、「アプレ」という流行語になった。「広辞苑」には――

アプレゲール(戦後の意) 1.第一次大戦後、フランスを中心として興った文学上・芸術上の新しい傾向。日本では、第二次大戦後、新しい文学を創しようとした若い作家の一部をいう。2.転じて、第二次大戦後の放恣で頹廢的な傾向 (の)にもいう。戦後派。アプレ。

誰がこの「アプレゲール・クレアトリス」ということばを考えたのか。

ある日、私はこの出版社にいた。

「真善美社」は、赤坂にあって、溜池という停留所のすぐ近くにあった。山王下といったほうが、わかりが早い。このあたりは、戦災をうけたため、焼け跡の空き地はまだ瓦礫が片付けられず、かなり大きなどぶ池がひろがっていた。

黒沢明の映画、「野良犬」は、三船敏郎が、戦後はじめて登場した映画として知られる。この映画に、戦後の風景が描かれている。大きなどぶ池の表面に、メタンガスのアブクが浮かんで消えるシーンが戦後のすさまじい荒廃を感じさせる。この大きなどぶ池が、「真善美社」のすぐ近くの風景にそっくりだった。「真善美社」は、この池の空き地の奥まったバラック建てだった。ここに、顧問というか編集長格の花田清輝がいて、ほかに、中野達彦、中野泰彦の兄弟が「総合文化」の編集を担当していた。神田の「近代文学社」と並んで、戦後文学の拠点の一つだったので、人の出入りもたえず、狭い応接室には、いろいろな作家、評論家が立ち寄っては、花田清輝と会うのだった。私は、安部君とっしょに「真善美社」に行った。

私は「総合文化」に原稿を届けたのだった。安部君も私もこの日はじめて花田清輝と会ったのだが、安部君はおもに花田さんと、私は中野泰彦と話をした。中野君は、安部君と同年だった。つまり、私より3歳上ということになる。

このとき、中野泰彦の机に、英文のカフカの短編集があった。私は、たまたま戦時中にはじめて出たカフカの長編を読んでいたもので、中野泰彦がカフカを読んでいることに驚いた。中野泰彦も、私がカフカを知っていると知って興味をおぼえたようだった。

じつは、カフカはよくわからない作家だった。カフカについては何も知らなかったし、不思議なことを書く作家だと思った。つまり、たしかにカフカを読んだには違いないが、中野泰彦が理解しているほどカフカがわかったとはいえないのだった。しかも、中野泰彦が、苦もなく英語を読んでいることに驚いていた。

私はドイツ語はおろか英語も読めなかったからである。

その帰りに、安部君は出たばかりの「終わりし道の標べに」にサインをして贈ってくれた。

「中田君、きみ、その本、もっているの？ カフカっていう作家の？」
「うん、もってるよ。きみが読むんなら、このつぎももってこよう」
「さっき、きみと中野君の話を聞いてたんだ。おもしろそうだと思うって」
「うん。君ならわかるんじゃないかな」

二日ばかりたって、小石川の安部君の部屋に遊びにいった。このとき、カフカを持って行ったのだが、安部君がジッドの「贗金作り」と交換してくれた。

私はこのときからジッドの影響を受けたわけではない。しかし、当時の私にとってジッドの批評は、ひそかな目標だった。

ときどき考えた。私がジッドをほんとうに「発見」したのは安部君のおかげだった、と。逆に安部君がカフカを「発見」したとすれば、私のカフカの1冊のせいではなかったか、と。」

この中田耕治さんの回想する時期は昭和23年（1948）の二月号発売の『個性』に『終りし道の標べに』を発表した時から昭和24年（1949）10月の真善美社からの単行本として同作を刊行するまでの（この時期の前後も含む）時期と考へられる。宮西忠正著『安部公房・荒野の人』によれば、小日向台町の安部公房の住まひは次のやうなものでした。

「公房と真知は、文京区小日向台町の図画教科書の画家、板倉賛治の玄関脇の洋間一間に移り住んだ。かびくさい絨毯の匂いのする、昼なお薄暗い、およそ世帯道具のない簡素な部屋で、〈ある日、芋粥をご馳走になったことがあって、その粥が、食べるという感じよりも、ほとんど箸を使う必要のない、飲むという感じに近かった〉と池田龍雄は回想している（『夢・現・記——一画家の時代への証言』一九九〇・五、現代企画室）

同じ『安部公房・荒野の人』によれば、その記述の順序から云つて1950年（昭和25年）のこととなりますが（同書92ページ）同年、

「この間の一〇月、公房と真知は、文京区茗荷谷町五七に転居した。物置を半分借りて改造した三坪の住まいだった。

又従兄弟の種田邦彦の回想——

〈水道橋と大塚を結ぶ当時の都電の竹早町で下りて、直前の区役所の裏手から少しガラガラ坂を登った辺りであったと思う。戦災ですっかり焼け野原、あまり復興が進んでいなかった頃なので、とても見晴らしがよかった記憶がある。どんなご縁ご縁でそうなったか聞き漏らしたが、当時の東大薬学の落合教授のそんな戦災屋敷跡に、公房さん手作りのワン・ルーム・バラックはあった。床には端布を撚って編んだ段通を敷き、間仕切りにはペラペラなキャラコ地のカーテンを張っていた。いずれも女子美出身の真知子夫人の作品で、敷物にもカーテンにも美しい模様や楽しい線があった。〉（「公房さんとワラジ虫」一九九三・七《あさひかわ》）

勅使河原宏の回想——

〈それからしばらくして同じ町内に物置を借りることになった。(中略)真知さんは感激のあまり逆立ちをして勢いあまり、したたかに頭を打ったと云うので僕たちを笑わせた。

その物置がまたすごいバラックで下見に行った僕は驚いた。だが僕は、ようやく独立家屋にありついたよろこびにひたっている夫妻に「ひどいですねー」とも云えず、その時とても困ったのを覚えている。屋根のすき間からは乾き切った冬の星空が妙に鮮明に見えた。〉

(「赤い繭」の頃)一九六〇・一二〈新鋭文学叢書『安部公房集』付録七、筑摩書房〉(傍線引用者)

《サン写真新聞》(一九五一・四・二五)には、二～三面見開きで「生活と芸術に体当たりの『巣箱』の新進作家」と題して、公房と真知のインタビューと八枚の写真が、その住まいと生活をつたえている。」

また同じ池田龍雄の一章「エントロピー」(『蜻蛉の夢』海鳥社)によれば、「新婚の住まいも画家の家の間借りだった。板倉賛治——わたしたちの世代では図画の教科書などにも載っていたので名前を知っていた画家で、家は文京区茗荷谷、即ち東大からそれほど遠くない。そこに、わたしは時々遊びに行った。」とある。

この時期の茗荷谷の生活については、安部ねりさんが『茗荷谷の安部公房』と題して2017年1月7日発行の文藝月刊誌『新潮』に当時の家屋の手書きの平面図とともに文章を寄稿してあります。その家の中の様子は『新潮日本文学アルバム 安部公房』(新潮社、29ページ)に、赤ん坊のねりさんの写真とともに三人家族の姿を見ることができます。

「父、安部公房は一九五一年「壁—S・カルマ氏の犯罪」で芥川賞を受賞し、一躍時代の寵児となった。「壁」を書いたのは茗荷谷の小さな小屋に住んでいた時だった。

父と母は最初住むところが無く、旧制高校時代の友人の赤塚徹さん(医師)が文京区小日向にある水彩画家の板倉賛治の玄関横の部屋を見つけてきた。

そこに二年一〇ヶ月程いて、家賃が払えなかったのか追い立てを食らい、昭和二五年一〇月に、近くの茗荷谷にある小さな小屋に越してきた。ここで旺盛な執筆活動を行い、芥川賞を受賞し、じきに経済的に安定し、そして子供(私)の誕生を迎えた。昭和三一年のはじめまでの五年間半、ここに暮らした。」といふ、ねりさんの描いた茗荷谷の「小さな小屋」のある地所の図が次の図です(安部ねり『茗荷谷の安部公房』(『新潮』2017年1月7日発売の2月号、218ページ)。偉大なる父親の一人娘であるが故に著作権承継者の立場にあつて誠に孤独であつた安部ねりさんと共に、安部公房、安部真知子夫妻を二十一世紀の今偲びたい。

全自動ベビーカーのデッドヒート

第二回 死んだ少女とそれぞれのうたげ

木石岳

ぼくは会社で働いていた頃、毎日もう絶対に明日は会社になんか行くものかと思うのだが、でも朝になったら足の先から頭のとっぺんまで絶望しながら電車に乗り込んでいた。気分は曾根崎心中。もうこんな会社になんか決して行くものか！ 行くものか！ それでも電車に乗り込んで、目から血を吹き出すようにしてカバンから取り出した文庫本のジョージ・オーウェルをかつ開く。のうみそはしくしく泣いているが、四肢は暴発寸前の機関銃だ。憤死一步手前で体毛を逆立て、フィクションのディストピアに全力で没頭する。そうした日々のある夜、大雪が降る。朝になってカーテンを開けるとあらまあまあ！ 一面真っ白だ。ぼくは雪が降ろうがなんだろうが、今日の出勤に絶望していることはかわりない。バスがやってくる気配はないから、歩いて駅までいくが、どこまでが歩道でどこまでが車道か区別がつかない。信号はほとんど意味がなかった。交差点で、のろのろと車が進んでいて、その間に信号の色が変わるのだけどそれどころじゃない、みんなおそろおそろまわりを見ながら、ゆっくりと申し訳なさそうに進む。ブレーキはたぶんほとんど効き目がなさだろうから、運転手は足の先で赤ん坊をさするほどの力でアクセルを踏んで、慣性の法則で交差点を乗り切るのだ。歩行者も、今では氷の張っている歩道らしき部分を歩くことをやめて、車道のまんなかをやはり申し訳なさそうに一步ずつ踏みしめる。それでも滑って転んでしまう。なんて自由なんだ！ 車道も歩道もない！ 信号は無視だ！ それに、今日はただの一人だって定刻出社できないぞ！ みんな遅刻で、みんな凍えて、みんな肘か膝を打撲してるんだ。なんて自由なんでしょう！

世界はフォースとダークフォースのとめどないせめぎ合いで動いているのだから、またはアフラ・マズダとアーリマンの半永久的な戦いに突き動かされているので、ぼくらの自由意志なんか決して入り込む余地なんかないのだ。フィリップ・K・ディックによると、ぼくら人類はトラルファマドール星人がまるで意味のない任務を遂行するためだけに発展していったわけだし、マトリックスの救世主たるネオはかつて、モーフィアスから彼の自由意志でもって二つの道を選択させられた（ひとつはマトリックスでの出来事をすべて忘れて今まで通りの生活が再開するという道、もうひとつは受け入れがたい現実に目覚めて巨大なコンピュータと戦うという道）が、ネオには初めから自由意志なんかなかったのだ。初めから自由意志なんがなく、もしあるとしたらせいぜい、喫茶店でいつものブレンドコーヒーを選ぶか、ちょっと財布と相談して魅力的なコロンビア・ブレンドに挑戦するかとか、女性蔑視のように取れる芸能人の発言をボロカスにこき下ろすツイートをリツイートするののかしないのかとか、その程度のこと。それに、熱力学の第二法則（すべてのエネルギーは必ずどんづまりにむかっている）が正しいとしたら、ぼくらは常に、何かかどんどん悪い方向へ向かっているように感じるわけで、事態がどんどん良い方向に向かっているとは実感しないのだ。

そうしてどんどん閉塞感とどんづまりに絶望してもう決して後戻りはできないと気付いたとき、「それ」はやってくるのだ。

ものが落ちてくる
人々は見上げる
そして降る どしゃぶりに

それはやってくる。突然やってくる。上の三行の詩は現代俳句の作品ではなくて、ポール・トーマス・アンダーソンの映画『マグノリア』の宣伝文句だ。どんづまりを打開するためには何か激しい仕掛けが必要だ。ぼくの祖父は小説家で、『雪のうたげ』という出版されていない傑作を書いていた。今ではこの素晴らしい小説の存在を知っているものは、ぼくと、ぼくの兄と、母と父、くらいのものだらう。この小説は、戦前から大戦、そして戦後の兄弟の物語だ。祖父と、その弟の話。祖父の弟は体が悪かったから、祖父が結婚したあともずっと祖父の家に同居していた。祖父と祖父の弟は、戦後ずっと微妙な関係が続いていて、子供の頃のように兄弟で何かに熱狂してはしゃいだりすることはない。だけどもある日、窓ガラスを叩く音がする。弟がリビングにやってくる。「雹（ひょう）だ」という。祖父も窓ガラスに近づいて外を見る。二人で、なんとも珍しい大気現象をじっと見る。どんどん雹は激しくなってきた、屋根やガラス窓を激しく叩く。ガラスが割れないかと心配になる。二人はなんだか楽しくなってくる。雪のうたげというタイトルは、このことなのだ。二人の関係性は、このときになんとか救われたような気がする。

安部公房の短編に『死んだ娘が歌った……』という話があつて、それは町が海のように感じる少女の物語だ。彼女にとって、かつて働いていた工場も、それから新しく働くことになった東京の街も、違いがわからないし、歩けばすぐに迷ってしまう。彼女にとってはどの場所も違いなんかなくて、海のように思えるのだ。彼女はまだ少女だったけど、製糸工場で過酷な労働をさせられている女工だったし、操業短縮でクビになった後は、あるお店の手伝いをするのだけど、実際はほとんど売春宿のようなものだった。

その晩は逃げて帰ろうかと思いました。主人が怖かったのではありません。自由意志が怖かったのです。でも街は海のように、私は迷ってしまうにちがいないのです。

みんな自由であろうとするし、他人に自由であることを求めるが、その自由ってえのは、あんた、一体なんだってえんだい？ 誰かによって、社会によって、こうあるべきだと求められる自由を、求めるように強要されるってえことじゃねえのか、あんたよお！

『死んだ娘が歌った……』は、少女がまず最初に薬を飲んで自殺するところから始まる。恋人のKが置いていった薬を、自分の意思で、飲む。でも、彼女は本当に自分で自由に死を選びとったのだろうか？

私はKさんが眠り薬にかわって、私に死ねと言っているのだと思いました。そう思うと、ほっとして、急に死にたくなりました。

ぼくはすっぽんぽんの赤ん坊。自動ベビーカーに乗せられて滑走を続けている。最近比以前に比べるとほんのすこしだけ生活が安定してきたので、もしその気になればコロンビア産の少し値段の高いコーヒーを注文することもできる。ぼくは自由意志で会社を辞めたので、毎朝手足が機関銃になることはなくなった。会社で働いていた頃、雪がシステムをシャットダウンさせて、ぼくは本当に解放されたのだ。誰かが巨大なマザーコンピュータをレーザー銃で破壊した瞬間、マイクロチップを頭に埋め込まれて屍のような表情で会社に向かっていたぼくは正気を取り戻す。雪が降ったり、雹が降ったり、または『マグノリア』のように「あるもの」が降ることによって、救われることがあるものだ。ちょっと不謹慎なことをいうと、数年前の東日本大震災はある意味で大解放だった。たくさんの人が死んでるから、そんなことは言っちゃいけないんだけど。

『R62の発明・鉛の卵』という短編集の中に、街が海にみえてしまう少女の物語は収録されている。この話は、戦後日本の状況をドキュメンタリーな雰囲気描いているので、安部公房の中では異質な物語に思える。もちろん主人公である少女が死ぬところから始まるっていう不思議さは持ち合わせてはいるけど。あの頃、製糸工場で働く女工は過酷だった。みんな幼くて、まだまだ子供のようなもので、貧乏な家庭の口減らしで働きにいかされてた。死んだ人もたくさんいる。それに、絹糸は最大の輸出国だったアメリカと戦争をしましてから売れなくなって、戦後はアメリカからナイロンのストッキングが輸入されたせいで需要はほとんどなくなってしまった。

それで、この少女はどうしたか。どういうわけか、この短い物語の中で死んだ少女は、最後に歌って踊る。他の幽霊たちと一緒に。自分を散々苦しめてきた工場で、どんちゃん騒ぎをして、大声で歌うのだ。それでなんだか良い気分になる。それで、工場では今でも泣いている少女がいるのだけど、ひょっとすると、この楽しい歌声が、泣いている少女の夢の中まで届くんじゃないだろうか、と妄想して物語はおわる。タイトルそのまま、死んだ少女が歌った、というわけ。汐街コナという漫画家が、『「死ぬくらいなら会社辞めれば」ができない理由』という作品を描いていて、その中で、電車で飛び込もうとする人たちの心理描写を、ペンで真っ黒に塗りたくって表現していた。ページのほとんどが真っ黒に塗りつぶされていて、それで一言「気がつかないうちにその人の視界はこんなことになっています」。だから、死んだ少女が歌って踊る、という行為をしたとき、ぼくは、彼女はもう街が海には見えなくなったんじゃないかと想像する。海のようになんの境界線もなく、平坦で違いのない、永遠に続くように見えるそれが、汐街コナの描く「こんなことになっています」っていう真っ黒な状態だとしたら、彼女はもう、海からは解放されている、そしてもっとクリアにいろんなものが見えるんじゃないかと思う。雹がふっていないなくても、彼女は彼女なりのうたげをしたんだから。

こうしてぼくは、それぞれの人たちによる、それぞれの雪のうたげを観察したいと思うようになった。ポイントはいくつかある。ひとつは、それが何か問題を解決するための論理的な生合成を保っていない、ということ。なるべくシュールで、なるべく予想不可能で、なるべく無意味なこと。雪が降ってのろのろと歩かざるを得なくなったように、なるべく時間の無駄遣いで、近道ではなくて遠回り。そして突発的に、劇的に起こるもの。デッドヒートは相変わらず続くようだけど、想定外のシュールリアリスティックなうたげが、それぞれのう

たげがどこかで起こるとしたら、その瞬間に、少女の海は消えるし、ジョディ・フォスターの頭の中の羊は鳴きやむんじゃないかと思う。

『周辺飛行』論

(18)

3. 『周辺飛行』について (13)

『ゴム人間のことなど——周辺飛行15』

岩田英哉

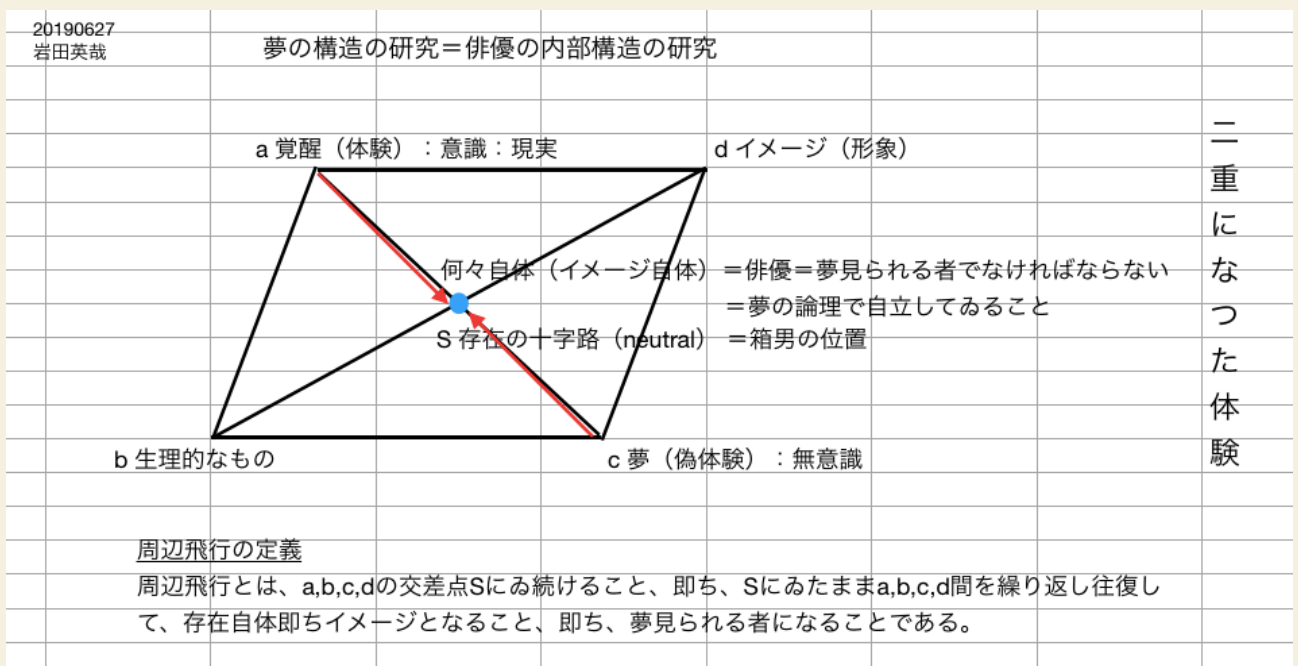
目次

1. 夢の構造研究は俳優の内部構造の研究である
2. 「周辺飛行」を定義する
3. 「周辺飛行の定義」の正しさを吟味する
4. 安部公房が俳優たちに示した例題を解題する

1. 夢の構造研究は俳優の内部構造の研究である

最初に、この「周辺飛行」で安部公房が書いてゐることを図で示します。いつもの、安部公房の言説を理解するために、といふよりも安部公房自身がtopologyで考へてゐるために論理構造としてはかうなるといふ並行四辺形に纏掛けのトポロジーです。

図形の真ん中にできる存在の交差点を存在 (Sein) の頭文字をとつてSと名付け、四つ隅を反時計廻りにa,b,c,dと記号を当てました。



安部公房はいつものやうに対立する二項を立てる。曰く、覚醒と夢、現実の体験と夢の体験、現実体験と偽体験、意識と無意識、イメージと生理的なもの。これらの二項対立を挙げ、論じながら、安部公房が俳優に要求するのは、交差点Sに立つて夢と現 (うつつ) の中間

であり、この実現を夢の論理で自立してゐることと、と呼んでゐます。これがニュートラルといふ概念です。

この対立する二項を見れば、これは22歳の論文『詩と詩人（意識と無意識）』の論理に、依然として、ほかならない。交差点Sに立つ生理的なものとイメージの融合経験を、安部公房は二重になつた体験と呼んでゐます。経験ではなく体験と呼ぶのは、これが以下この「周辺飛行」で例題となして俳優のニュートラルといふ演技概念の習得訓練のためには、どうしても概念といふ論理構造からではなく、生理的な感覚を通して体感体得してもらふ事に主眼があるからです。これは安部公房スタジオ立ち上げと同時期に執筆してみた小説『箱男』の主人公箱男になる/であるといふ訓練でもあるのです。何故なら、安部公房は「さいわい、一週間前に「箱男」を書き終えたので、今回からはあらためてぼく自身の周辺飛行に戻る事にしたい」と最初に述べてゐるからです。

作家自身の周辺飛行が、引用した此の一行の前後に書いてゐることをまとめた上図であり、この交差点が箱男のゐる位置である以上、俳優もまた箱男にならねばならず、いつて見れば作中の一章《それから何度かぼくは居眠りをした》で登場する貝殻草の匂ひを嗅いで鰐魚になること、これが五つの例題を俳優たちに提示することの意義なのです。

上図で明らかなやうに、安部公房は俳優たちに存在自体になることを要求してゐる。このことをイメージ自体になる、と言つてゐます。「～自体」といふ言ひ方から自明の通り、これは再帰的な論理であり、再帰的とは繰り返す其れが其れ自体に回帰することですから、安部公房の言葉と論理を使つて定義の形式に落とし込み図中に明示した「周辺飛行の定義」が、さうなつてゐることは納得ではないでせうか。図中下辺にある定義を此の本文に再掲します。

2. 「周辺飛行」を定義する

周辺飛行の定義

周辺飛行とは、a,b,c,dの交差点Sにみ続けること、即ち、Sにみたままa,b,c,d間を繰り返して往復して、存在自体即ちイメージとなること、即ち、夢見られる者になることである。

この1970年代の周辺飛行が、22歳の『詩と詩人（意識と無意識）』に叙述されてゐる、詩人が存在自体になるといふ究極の姿であることを思ひ出してもらひたい。

安部公房の名付けた新象徴主義哲学といふ「この哲学とは『詩と詩人（意識と無意識）』に拠つて簡潔に言へば、二項対立の両極端の項を否定して、自己喪失による記憶の喪失を代償に（この否定の中に自分自身の否定を、この否定とは自己喪失と記憶喪失と意識喪失のことにほかなりませんが、このやうな否定を含むといふことです）、果てしない垂直方向（時間の存在しない方向）に次元展開を繰り返した果ての究極に観る（自己の反照としての）第三の客観、即ち存在の創造をするといふ方法論でありました。ここで

- (1) 観ることと
- (2) 自分自身が存在になることと

(3) 存在自体の出現

これら三つが一つになつてみます [註1]。ここにも3といふ数字があります。

安部公房の、これが創作の秘密であり、一生を貫く創作のための方法論です。これは、コンピュータの基礎であるブール代数による二進数の論理演算の論理によれば、否定論理積といふ論理に当たります。これが、一生の安部公房の生きる論理であり、安部公房の「現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学」であるのです。

[註1]

(1) 観ること

これもリルケに学んだ事です。以下中埜肇宛書簡より引用します：

「中埜君、
御變りありませんか。昨日やつと旅行から歸つて参りました。永い旅でした。丁度リルケがロダンから學んだ如く、僕もリルケから「先ず見る事」を學びました。」（『中埜肇宛書簡第5信』全集第1巻、92ページ）

安部公房の詩に『観る男』といふ詩がある。（全集第1巻、133ページ）ここには、既に「明日の新聞」が「書き了へた」「未来の日記」とし出てくる。

また、汎神論的存在論の形象（イメージ）が、後年の海や洪水などに通ずるものとして、次のやうに歌はれてゐる。

「此の果てしない存在にとりかこまれて、あふれ出た透明な涙を両手に受けるのは……？唯一未来の日記を書き了へた時に……。」

此の詩には、これ以外にも、転身、沈黙、「僕の中の「僕」」の話法、出発、忘却といふ、安部公房文学にとって本質的な用語が書かれてゐる。

(2) 自分自身が存在になること

「詩人、若しくは作家として生きる事は、やはり僕には宿命的なものです。ペンを捨てて生きるという事は、恐らく僕を無意味な狂人に了らせはしまいかと思ひます。勿論、僕自身としては、どんな生き方をして、完全な存在自体——愚かな表現ですけれど——であればよいのですが、唯その為に、僕としては、仕事として制作と言ふ事が必要なのです。これが僕の仕事であり、労働です。」

（『中埜肇宛書簡第8信』（1946年12月23日付）、全集第1巻 188ページ下段）

(3) 存在自体の出現

『詩と詩人（意識と無意識）』より引用します。ここでいふ第三の客観こそが、安部公房のすべての主人公の最後に観る究極の存在のことなのです：

「諸々の声は吾等の魂が夜の本質にふれた所から始まる。それが様々な次元に展開されて言葉となる。それは自己否定＝自己超越の形を以て意識の中に捉えられる。物それ自体、云い代えれば夜の直覚が展開する自体として或種の象徴的予感を産みつける。その中にこそ実存的意義を失わない、客観なる言葉を生み出した本源的な内面的統一に反しない、第三の客観が覗視されるのではないだろうか。」

如何なる表現も主観を通してのみなされ得ると云う事は明かである。主観的体験のみがあらゆる意識を言葉たらしめるのである。そして当然、生存者としての人間各個の内的展開次元の相異に従って、その言葉の重さ（含まれている次元数）の相異が考えられる。主観はその魂の夜の本質にふれる程度によって様々な重さを持つ。

では此の主観のつもり行く次元展開の究極は、一体何を意味するのであろうか。その時人間の魂は限りない夜への切迫を体験するのである。夜の直覚は単なる概念ではなくなり、行為・体験・方法の中に現実的な姿を表すのである。そして、此の永遠の距離を以てはるかへだたっている究極を、吾等は第三の客観として定義する事は出来ぬものであろうか。」

（全集第1巻、107ページ）」

かういふ次第で、『箱男』の作中の《それから何度かぼくは居眠りをした》の章の中の冒頭第二段落の最初の一行「貝殻草のおいを嗅ぐと、魚になった夢をみるという。」を声に出して読ませてニュートラルといふ概念の生理的な体感体得を俳優たちに例題として与へて演技訓練として課し、「鰐魚のエピソード——周辺飛行24」で例題の一行として言葉を安部公房の存在論の記号で《例題》と表記してゐることは、以上のことから相応の意味のあることだと判るのです（全集第24巻、420ページ上段）。これは其処で論じたい。

3。「周辺飛行の定義」の正しさを吟味する

安部公房の云ふ周辺飛行については、今この連載を振り返つて見ると、これまでの個々の「周辺飛行」の文脈に応じて様々な視点から論じて来ましたが、ここでは趣向を変へて、安部公房スタジオの後期の舞台の一つ『GUIDEBOOK IV S・カルマ氏の犯罪』で安部公房が俳優たちに示した四つの要求に、果たして上記の「周辺飛行の定義」が適用できるかどうかの吟味をして、定義と上図の正しさを検証してみませう。1978年10月13日西武劇場初演の此の作品の稽古中に示された要求は次の四つです（『安部公房の劇場 七年の歩み』編集発行（株）安部公房スタジオ。22ページ）：

S・カルマ氏の犯罪(GUIDE BOOK IV)
1978年10月13日初演 西武劇場

安部公房スタジオ公演 GUIDEBOOK IV 『晩ゆ』
S・カルマ氏の犯罪

田中一光デザイン

- 風景を体で表現すること
風景を覚えている人間にはなく、風景
そのものから受け取りたい。
- UFOに因して、乗取者と受け手に分れ
てのディスカッション
- 存在した場所との電音による対
話の練習
- 暗号として暗く読む練習

上掲の安部公房の筆跡になる四項目を以下に転記して論を進めます。

- (1) 風景を体で表現すること
風景を見ている人間にではなく、風景そのものにならなければいけない。
- (2) UFOに関しての、賛成者と反対者に分れてのディスカッション
- (3) 存在しない場所との電話による対話の練習
- (4) 暗号として詩を読む練習

上記(1)は指示通りに、俳優は風景を見る者にではなく、風景自体に、即ち自体とある以上、どんなものになれ其れ自体、即ち存在自体になることを要求してゐることがお判りでせう。

上記(2)は、存在のペテン師としては登場人物を飛翔させたり透明人間にしたりする安部公房ですが(虚構の世界)、しかし科学者としては超能力を信じない安部公房ですから(現実の世界)、この指示は、存在しないUFOについての二項対立の議論の訓練と理解することができます。

上記(3)は、UFOがはつきりと「存在しない場所」と呼ばれて、この場所との電話による対話をせよと云ふ指示である。あなたは多分類の例を安部公房の作品群の中に思ひ出すことができるでせう。今私が思ふのは戯曲『友達』の主人公の若い男が部屋の中から婚約者に掛ける電話であり、小説『砂の女』で砂の女が内職をしてお金を貯めて買いたいと思つてゐるラジオが、これに当たります。また『S・カルマ氏の犯罪』の最後に砂漠の中のユルバン教授がドクトルと話をする「小型無線電話」がこれですし、『カンガルー・ノート』の第6章「風の長歌」で主人公が、死に瀕してゐる老人のために安楽死クラブに連絡する電話もまた同じです。

この安楽死クラブに電話をする時に主人公が「マリモに変身した自分を思い浮かべながら、「ただし、結果に責任はとれないからね」と縄文人にいふ此のマリモとは、その形状からいつでも両端の無いゴムまり人間であることは、この一連の「周辺飛行」の安部公房の記述から明らかです。存在とは両端の無い何かである、即ちゴムまり、マリモ、気球、惑星、と挙げれば切りが無い。さう云へば、惑星と云へば『詩と詩人(意識と無意識)』の冒頭に掲げられてゐる詩に次の行がありました。

「総ての霧、黄昏は解き放たれて
総ての高貴なる魂を押し包む可く
白熱せる天体が
やがて生まれ出るであらう。
そしてその時
此の書は自らの熱によつて

焼け亡びるであらう。」

この「周辺飛行」の文脈で読むと、この天体といふ球体は、実に再帰的なゴムまり人間であるマリモではありませんか。『カンガルー・ノート』の主人公も、かうしてみると、確かに最終章第7章の最後に「自らの熱によつて/焼け亡びるであらう」通りになつてみる。「自らの熱によつて/焼け亡びる」再帰的な歌が人さらいの歌なのです。勿論、「総ての高貴なる魂を押し包む可く」あるのは「大型冷蔵庫でも入りそうな、ダンボール箱」といふわけです。かくして、詩人とは箱男であり、箱男は詩人である、といふ事になります。思ひもかけない発見になりました。

さて、上記(4)の「暗号として詩を読む練習」とは、詩が暗号であると安部公房は言つてゐるのですし、前の段落で考察したやうに、『詩と詩人(意識と無意識)』の冒頭の詩にあるが如く詩とはゴムまり人間でありマリモであり再帰的に自らの白熱により消滅する天体であるのならば、確かに俳優が自分自身を(といふことは再帰的に)両端の無い球体としての暗号として解読すること、それは即ち存在自体となつて二項対立の交差点に「大型冷蔵庫でも入りそうな、ダンボール箱」を被つて存在する事に他なりません。箱の中は迷路であり、謎の暗号です。『鞆』といふ短編を思ひ出しても良いでせう。

周辺飛行の定義

周辺飛行とは、a,b,c,dの交差点Sにみ続けること、即ち、Sにみたままa,b,c,d間を繰り返して往復して、存在自体即ちイメージとなること、即ち、夢見られる者になることである。

といふ定義、即ち二項対立を繰り返して往復して存在自体になる、即ちイメージになる、箱男になる、夢見られる者になる、といふ定義は正しいと思はれる。

この二項対立の問題に対して解決としての第三項、即ち存在としてある此の生理的な感覚を、この周辺飛行では「二重になった体験」と呼んでみますが、しかし、これは処女作『終りし道の標べに』で「二重感覚」と呼んでゐるものですので、誠に安部公房の希求の思ひは首尾一貫して、年代年齢に依らずに、この二項対立といふ論理を感覚として云ふ場合には同じ表現をしてゐることが判ります。『終りし道の標べに』での例の一つを挙げませう。思ひもかけない展開になつて来ました。やはり、安部公房スタジオの演技概念ニュートラルを論ずることは、前期20年、即ち安部公房の其れまでの人生の集大成なのです。これが何故1970年代後半に集中的に前期20年の作品を舞台に掛けたかの理由です。

「それはそうと僕は陳を色々しらべるうちに、次第に奴の人間に興味を持ち始めたんだ。考えて見るとそれは党员という立場からの興味ばかりではなく、どうやらあの二重感覚の一方がさかんに触手を動かし始めていたような気もするのさ。僕は先ず奴の非人間的なものに打たれた。そして奴を一つの人間の限界であり、偉大の建設者だなどと思ひ込んだのだ。だがそれと同時に、何故か奴が憎くてならなくなつて来た。興味を持てば持つほど憎

しみが強くなってくるんだ。」（全集第1巻、363ページ下段）（傍線引用者）

上図に於いて、安部公房が此の図の全体を指して「二重になった体験」と呼んでゐることを再度ご確認ください。「二重になった体験」の考察と体感体得とは、繰り返しますが、この図の題名になつてゐる安部公房の言葉「夢の構造の研究」なのであり（これが小説『箱男』）、同時に「俳優の内部構造の研究」（これが安部公房スタジオの活動）なのです。

さて、以上を踏まえた上で、6つの例題について、これを読み解いて、安部公房の求めたところを知ること努めませう。

4. 安部公房が俳優たちに示した例題を解題する

ゴムまり人間ゲームに関する個々の例題の目的と例題同士の目的と手段の関係は次のやうになつてゐます。二人の俳優が背中の隙間にゴムまりを挟んで、次の例題を解くのです。

(1) 例題1

これは過去の芝居の悪い例である。この悪い理由をなす過去の芝居の類型を「型芝居」と「気持芝居」の二つに分類して、さう呼んでゐる。

この型芝居と気持芝居といふ二項対立の型を超越する第三項を求める此の練習の目的は『終りし道の標べに』の主人公と同じく、この二項対立を生理的な感覚として「興味を持つてば持つほど憎しみが強くなってくる」ことを知つてもらふ事にあります。これが、ゴムまり人間と呼ぶ両端の無い球体として、敢へて此の練習を通じて支配と被支配の関係を知つた上で超越するニュートラルの体感であり、体得であり、これを「繰り返し往復して、存在自体即ちイメージとなること、即ち、夢見られる者になる」のが、この練習の目的であり、そのための例題といふわけです。

例題の出題者が期待してゐることは、例題3によれば、この練習によつて敢へて型芝居や気持芝居を演ずることで、この類型の原因分析をすることです。

(2) 例題2： $A+B=K$ （ K は定数）

「 K は定数である。つまり、 A が大きくなれば、その分だけ B が縮小し、逆に B が大きくなれば、 A が縮小する」。

これは全体の値 K が固定した上での、互ひが互ひに対して足し算と引き算の関係にあるといふ関係を知るための例題です。安部公房は、これを「シーソー・ゲーム」と呼んでゐる。

(3) 例題3

「例題2をさらに反復させてみる。」そして、例題1での二つの過去の芝居類型に戻ることがあうから、その場合には其の原因分析をすること。

(4) 例題 4 : $A=KB$ (K は定数)

例題 4 は例題 2 の応用問題である。「 $A+B=K$ が支配する者とされる者の関係なら、この $A=KB$ は支配者どうしといった単純なものでないことは、実際に試してみればすぐに分かることだ。/まず、相互に [体表面を] 拡大したまま、可能なだけ距離をとってみよう。その位置で自分の内部をのぞき込んでみよう。解答は各自紙に書き込んで、ふせておくこと。」

これも謂はば、存在体得練習なのですが、このことを次のような上掲の式の変形によつて説明します。

$A=KB$ といふ左右等価交換可能な (といふ意味は既に此処でtopologicalな) 式を次のやうに等価交換して変形させます。斜線/は割り算を示します。 $A=KB$ の基本形を入れて三つの場合について考へます。

- (a) 基本型 : $A=KB$
- (b) 変形 1 : $K=A/B$
- (c) 変形 2 : $B=A/K$

リルケの詩の例で諸処記述の通り、鳥の群れ、水脈と噴水、海、無時間の空間の中で成長する植物、薔薇、呼気と吸気の二つ方向の息、空気、風、これらは、別れても (人間ならば別離しても) 向かうで一つに、即ち数字の 1 で表現されるもの又は何かになる、即ち存在になる、即ちメビウスの環になつて天地の間を循環するのでした。これらは存在の形象なのでした。同様に、今度は数学者安部公房にとつては上記の式を見て、 K といふ定数を存在の値 1 にすると、三つの式は次のやうになります。

- (a) 基本型 : $A=KB \rightarrow A=1 \times B \rightarrow A=B$
- (b) 変形 1 : $K=A/B \rightarrow 1=A/B \rightarrow B=A \rightarrow A=B$
- (c) 変形 2 : $B=A/K \rightarrow B=A/1 \rightarrow B=A \rightarrow A=B$

これが、安部公房が支配・被支配の関係ではないといふ意味です。例題 4 は例題 2 とは、この点で大いに異なるのです。

これを A と B の距離をできるだけ大きくすることによつて体感することが、この例題 4 の主旨です。

(5) 例題 5

例題 4 の状態で体表面を拡大したまま接近 (距離を縮小して)、例題 5 では、生理的感覚を調節しながら (これを安部公房は「体表面の開き具合」と呼んでゐる)、相手に対する

信頼を体感するための例題です。

結局例題4と例題5は、二人の距離の長短と体表面の拡張・縮小との二つの関係の調節を、拡張を主体として行ふことによつて、生理的感覚と攻撃・防御の限界点の体感体得といふことが共通項だといふことになります。これが安部公房の意図するニュートラルな演技です。

(6) 例題6

上記例題4と5に対抗して、例題6は、二人の距離の長短と体表面の拡張・縮小との二つの関係の調節を、接近しながら、縮小を主体として行ふことによつて、生理的感覚と攻撃・防御の限界点の体感体得する例題です。

これによつて、「体表面の縮小にも、服従と攻撃という、まったく相反する心理が対応している」ことを知るのです。これによつて（支配、被支配）、（命令、服従）といふ二項対立が動的に、それも生理的且つ心理的にも自らに知られて解決するといふこと、即ちニュートラルの状態を知ることが成果となる。

これによつて「型芝居や気持芝居が、意味や解釈は伝達しえても、イメージを伝達しにくいことは、以上の例題からだけでも十分に体得できたはずである。」即ち、

役者は「意味や解釈の伝達」人になつてはいけない。イメージの伝達人になれといふことです。即ち、これが6つの例題を通じて体得するに至る上掲図の交差点に立つといふ意義であるのです。これを「周辺飛行15」の最後に安部公房は次の一行で締めてゐる。

「俳優の演技とは、要するに繰り返しゴム人間にもどつて、そこから再生しなおす作業のことなのである。」

この作業といふ言葉に触れて、私は18歳の成城高校時代の安部公房の論文『問題下降に依る肯定の批判』の次の言葉を連想するのです。この論文の都市設計がtopologyといふ一筆書きの数学でなされてゐるといふことは諸処既述の通りです。これはtopologyといふ文字は出してゐないが、位相幾何学の論理によつて批評又は批判の本質を説いた論文である。

「動かなくてはならない。そして動かさなくてはならない。手を、指を、そして目と鼻を。今こそ君は自由なのだ。」

（全集第1巻、15ページ上段）

あるひはまた、

「今こそ、総ての判断は指で触れ、目を見た上で為されねばならぬ。其の時に始めて総てのものに価値が、一切のものは無価値であると云う判断にすら価値が生じて来るのである。その日から真の歴史は書かれ始めるのである。その時にこそ、太陽は輝き始めるのである。」（全集第1巻、15ページ下段）

太陽系の中心にある太陽が球体であり、従ひ此の天体をtopologyで観れば、両端の無いゴム人間とはうか、ゴム天体であることはいふまでもありません。Topologyは形象と形態に着眼するので、有機物・無機物を問はないのです。これで初期安部公房を含み、何故安部公房の作品が変形の産物なのかがお分かり戴けるのではないでせうか。

この「周辺飛行15」は冒頭自らいふやうに作者自身の周辺飛行であるといひ、「ぼく自身の周辺飛行に戻ることにしたい」といふのであれば、安部公房自身が箱男であり、ゴム人間である。

といふことで次回の「周辺飛行16」は、「前回の「ゴム人間」につづいて、ふたたび心理的なものと生理的なものとの相違について考えてみたい」といふ前口上の意図あることから、またしても5つの例題が俳優に提示されてゐるのです。この場合、俳優といふのは読者であるあなたのことですから、次回までに今回の「周辺飛行15」を完璧に習得しておくように。といふ私の命令に対して不快感を感じたあなたは即座にゴム人間に変身しなければならないのです。それともあなたは安部公房の命令に絶対服従の「志願囚人」では、まさか、ないでせうね？ [註2]

[註2]

「志願囚人」は安部公房1984年発表の長篇小説「方舟さくら丸」の当初の題名。

追記：

この「周辺飛行15」での二項対立をおさらひすると次のやうになります。これらの対立二項の隙間に第三項が隠れてゐて、それが「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面に常に君臨している、特権的重症患者一名」[註3]といふ汎神論的存在として等価交換可能な《箱男》あることはいふまでもありません。

ニュートラルなあなた [(支配者、被支配者)、 (敵、味方)、 (信頼、不信)、 (体表面大、体表面小)、 (互ひの距離極小、互ひの距離極大)、 (快感、不快感)、 (生理、心理)]

[註3]

この遍在する特権的重症患者については「周辺飛行5」（全集第23巻、246ページ）で論ぜられてゐる（もぐら通信第95号）。

リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む

(48)

第2部 XXIII

～安部公房をより深く理解するために～

岩田英哉

XXIII

RUFE mich zu jener deiner Stunden,
die dir unaufhörlich widersteht:
flehend nah wie das Gesicht von Hunden,
aber immer wieder weggedreht,

wenn du meinst, sie endlich zu erfassen.
So Entzognes ist am meisten dein.
Wir sind frei. Wir wurden dort entlassen,
wo wir meinten, erst begrüßt zu sein.

Bang verlangen wir nach einem Halte,
wir zu Jungen manchmal für das Alte
und zu alt für das, was niemals war.

Wir, gerecht nur, wo wir dennoch preisen,
weil wir, ach, der Ast sind und das Eisen
und das Süße reifender Gefahr.

【散文訳】

お前に絶えず反抗しているお前の時間に、わたしを呼びなさい。
お前が、時間をついに捕まえたと思うたびに、しかし、
丁度犬たちの顔がそうであるように、そばで訴え、懇願して、そこにあって、

捕まえようとする、いつも繰り返し、逃げてしまう。
このように逃げてしまうものは、最もお前のものなのだ。
わたしたちは自由だ。わたしたちは、まづ挨拶されたと思ったところで
解き放たれるのだ。

不安な思いで、わたしたちは、支点を欲求する。
わたしたちは、よく、古いものに対しては、若者たちの傍にあり、
そして、一度もなかったものに対しては、年をとり過ぎている。

わたしたちが、それでも、褒め称えるところで
わたしたちは、ただ公平でいるのだ。というのも、
わたしたちは、ああ、大枝であり、鉄であり、
そして、成熟する危険の甘きものであるからだ。

【解釈と鑑賞】

このソネットは、リルケの自註によれば、読者に宛てられて歌われています。そうすると、お前と呼びかけられているのは読者であり、呼びかけている話者は、オルフェウスと考えることができるでしょう。

第1連、第2連は、歌われている通り。時間というものがどのようなものを歌っている。そうして、時間がわたしたちに反抗するときには、そのときにこそ、オルフェウスを、わたしを呼びなさいと呼びかけてくれている。

犬が訴えるように顔をこちらへ向けて、そうして捕まえようとする、首を巡らして逃げてしまうというのは、本当に何か現実感覚があつて、その通りだと思い、目に見えるようです。リルケは犬が好きだったのだと思います。第1部ソネットXVIは、自註によれば、犬に向けられて書かれている位です。犬の好きなリルケ。そういえば、狩のソネットもありました。

第3連では、時間を捕まえられないわたしたちの焦燥を、「不安な思いで、わたしたちは、支点を欲求する」と歌っています。わたしたちは、確かな支点を求めている。日本語の世界の言葉でいうならば、流行に対する不易を求めているということが出来るでしょう。

その試みも、しかし、第3連で歌われているように、なかなかバランスがとれません。新旧というバランスをとることの難しさ、一度もなかったものに対するバランスをとることの難しさが歌われています。後者の場合、一度もなかったものに対しては、わたしたちは往々にして退嬰的な態度をとりがちです。リルケの言葉を使えば、開いていない、受容しない。

第4連で、それではどうしたらよいかのかが歌われています。第3連を受けて、それでもなお褒め称えることが、わたしたちのなすべきことです。何故ならば、わたしたちは枝で

あるから。この枝であるという言葉は、リルケの今まで読み解いてきたヴィジョンによれば明らかです。わたしたちは、死者の眠る大地から垂直に伸びた樹木の枝であり、その次には開いた花から生まれる果実であり、そうして次の種子を残してまた大地に戻る循環の中にある。そうであれば、その摂理を思って、それこそしそれを（リルケのいう運命とは違いますが）運命と呼ぶのであれば、それを受け容れて、その循環を褒め称えること、そのようにある万物を褒め称えることが、わたしたちの尊い仕事だからです。

わたしたちは鉄であるからとは、どのような意味なのでしょう。わたしは、鉄は素材として変わらぬものと理解しました。苦しみに堪えるという意味もあるのではないかと思います。

そうしてまた、わたしたちは「成熟する危険の甘きもの」である。危険は成熟する、熟してその危険が表に現れる。そのような危険の甘きものであるとは、何を意味するのでしょうか。甘きものとは、その危険に陥るととることもできるし、そこまで行かなくともそれに惹かれて危険を冒すものともとることができます。そうであれば、そのような人間の名前は冒険者たちと呼ばれて、次のソネットXXIVに歌われております。

枝と鉄と甘きものは、三つともみなund、ウント、且つという接続詞で接続されております。それは、ach、アッハという叫び声とともに。これら三つが同時にある者が人間なのです。

それゆえに、わたしたちは、褒め称えると言う使命を持っている。これは、詩人だけの使命ではない。それが変化する万物の中で不動の支点を獲得する道であるとリルケは歌っています。

【安部公房の読者のためのコメント】

わたしたちが、それでも、褒め称えるところで
わたしたちは、ただ公平でいるのだ。というのも、
わたしたちは、ああ、大枝であり、鉄であり、
そして、成熟する危険の甘きものであるからだ。

といふ最後の第四連に付した次の理解、即ち、

わたしたちは鉄であるからとは、どのような意味なのでしょう。わたしは、鉄は素材として変わらぬものと理解しました。苦しみに堪えるという意味もあるのではないかと思います。

といふ言葉を読んで、私の想起した安部公房の作品は、あなたは多分意外には思はないでせう、『R6 2号の発明』（1953年）でした。この短編を今読みかへしてみますと、開始早々に、運河のへりをさまよふ自殺願望者の主人公が《自殺おことわり》といふ貼り札をみるといふ、禁止（タブー）の立て札を見たにも拘はらず、これを踏み越えて向かうの世界へと足を踏み入れる。そこで主人公に声を掛ける学生がみて、聞けばアルバイトをしてゐるといふ其のアルバイトとは「《鬼ごっこ》1/4幕のドラマー周辺飛行11」と同じ仕事であり（全集第23号361ページ）、「自殺者から死体をゆずりうけて事務所に紹介し、手数料をもらうアルバイト」であり、「それで、ぜひあなたにも、死体を売っていただくように、たのもうと思つて……」といふ学生の頼みである。

その頼みを聞き入れると、学生は「R6 2号」と書かれたカードを渡して、これが主人公の番号だといふ。これはもはやいふまでもなく、存在への、生きて帰らぬいつもの片道切符である。連れて行かれた部屋は「隅っこにほこりだらけの椅子が一つ、窓のないがらんとした小部屋」である。これは読者お馴染みの死刑囚が死刑執行直前に座つてゐる小部屋の中の椅子である。『魔法のチョーク』のアルゴン君の部屋にあつた椅子であり、1970年代の安部公房スタジオの俳優たちにニュートラルといふ演技概念（生理感覚概念といふべきかも知れない）を説明するにあつて俳優とは何かを教へるために用ひた例である（『周辺飛行18ー再び肉体表現における、ニュートラルなものを持つ意味について。』全集第24巻、146ページ）。といふことは、この部屋には見られてゐる主人公R6 2号からは見えないが、どこかに窓があつて、密かに誰かに見られてゐるといふことなのだ。といふことは、この部屋の外部が箱男の迷路の閉鎖空間であり、この部屋の内部ことは其の窓から箱男の眺めた外部の景色である。といふことは、安部公房スタジオの俳優たちに安部公房の説いた俳優の原理によれば、俳優は夢見られたもの、即ち存在自体でなければならず、結局R6 2号は死ななければならないといふ事になる。確かに、この研究所の所長はR6 2号を双眼鏡で覗いてみてゐるのだ。

R6 2号は「おそらくギブス・ベッドと思われる、装置附の寝台」に寝かされ強制的に括り付けられるとなつては、これは最後の長篇小説『カンガルー・ノート』ではないか。更に先を読み進めると、強引な脳外科手術の結果いよいよ透明感覚が登場して「手ぎわよく皮をむかれたような感じで、全世界が透明になり、地平線だけが残つたような気がした」のであり、「青いしずくが、どこからともなく、規則正しい間隔を置いて、ふつてくるみたいだ」と主人公がいふからには、そして甲高い音が「ふと草笛のような音」で鳴り響くのであれば、いよいよ最終段階である。この後の成り行きを素つ飛ばして其の最後は、R6 2号とR6 2号の発明した機械試運転のお披露目の、貴顕紳士の集まる会場といふ「褒め称えるところ」で、

R6 2号が、それでも、褒め称えるところで
R6 2号は、ただ公平でいるのだ。というのも、
R6 2号は、ああ、大枝であり、鉄であり、

そして、成熟する危険の甘きものであるからだ。

確かに、その発明機械は鉄の大枝の如き腕で人を切り殺すのである。

結局、この物語の主題は後年1984年の『方舟さくら丸』について安部公房のいふ自由と奴隷の二項対立を如何に解決する第三項を求めるかといふ事なのですが（この主題は文中に出て来る）、さうすると、志願囚人となつて生ける死体となつて閉鎖空間の中で誰かに操作されて不自由であることを忘れて生きるか（食料は十分に与えられる）、それとも閉鎖空間を脱出して其の外部に、死を代償に、即ち死を生きる人間として存在となつて脱出して自由を得るか。どうやら、結末を読むと、R62号の発明とは、生きた人間を死体にするといふ発明であるからには、

成熟する危険の甘きものである

といふ恐怖に満ちた発明であるといふ事になります。

要するに、第三連の、

不安な思いで、わたしたちは、支点を欲求する。
わたしたちは、よく、古いものに対しては、若者たちの傍にあり、
そして、一度もなかったものに対しては、年をとり過ぎている。

と鰻のやうに捉へられぬ時間を止めて独占的に所有しようとするれば、生きた人間を死体にするといふ機械を作る製作ロボットになる以外には生きた人間にはなく、R62号の操作箱を所有してゐた筈の所長がR62号の発明によつて死んだ死体となつて自由になるといふ事であらう。この理解の上で、第一連と第二連を読んで、お前とオルフェウスに呼びかけられてゐるのがR62号だと仮定した読めば、

お前に絶えず反抗しているお前の時間に、わたしを呼びなさい。
お前が、時間をついに捕まえたと思うたびに、しかし、
丁度犬たちの顔がそうであるように、そばで訴え、懇願して、そこにあつて、

捕まえようとする、いつも繰り返し、逃げてしまう。
このように逃げてしまうものは、最もお前のものなのだ。
わたしたちは自由だ。わたしたちは、まづ挨拶されたと思つたところで
解き放たれるのだ。

といふ論理は、そのまま、お前と所長といふ操作者によつて呼びかけられるR62号について、

お前に絶えず反抗しているお前の時間に、わたしを呼びなさい。
お前が、時間をついに捕まえたと思うたびに、しかし、
丁度犬たちの顔がそうであるように、そばで訴え、懇願して、そこにあって、

捕まえようとする、いつも繰り返し、逃げてしまう。
このように逃げてしまうものは、最もお前のものなのだ。
わたしたちは自由だ。わたしたちは、まづ挨拶されたと思ったところで
解き放たれるのだ。

とR6 2号に願った所長他の人間たちを自由にするために「褒め称えるところ」である
発明のお披露目の公共の場で殺人を犯す発明であつたといふ事になります。

この詩の論理で、安部公房の小説を理解することができることの証明になつたでせう
か。勿論、いつものシャーマン安部公房の秘儀の式次第によつて様式化されてみますの
で、作品の謎を様式に沿って読み解きながら、あなたが殺されることはないので、安心
して再読することもまた良きことならずや。

『6 2号の発明』を発表した1953年は安部公房が日本共産党院になつてから最も苦
しかつた年の作品ですから（何しろ小説はこれ一つしか書いてみない）、ここには共産
主義ファシズム（100%人間を絶対支配する組織）と、時間といふ支配・被支配の最
も強大強力な手段の独占を打ち破るための第3項を求めたら、以上のやうな生きた人間
を死体にする機械の発明になつたといふ結末になつたのでせう。

『安部公房と共産主義』（もぐら通信第29号）にて、この時代の安部公房の精神史を
詳細に描きましたので、お読み下さい。ダウンロードは：[https://www.docdroid.net/
AbkwEx9/29.pdf](https://www.docdroid.net/AbkwEx9/29.pdf)

ネット・メディア論

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
 - 3.1 マス・メディアとは何か（20世紀）
 - 3.1.1 マス・ジャーナリズムとは何か
 - 3.1.2 マス・メディアとプロパガンダ
 - 3.2 ネット・メディアとは何か（21世紀）
 - 3.2.1 ネット・ジャーナリズムとは何か
 - 3.2.2 ネット・メディアとプロパガンダ
- 4. ネット・モナド論
 - 4.1 ネット・モナドの概念と定義
 - 4.2 世界観としてのメディア
 - 4.2.1 世界観としてのマス・メディア
 - 4.2.2 世界観としてのネット・メディア
- 5. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 6. 私たちは如何に生きるべきか

0. はじめに

この論考では、21世紀の第一年以前の、キリスト教歴でいふ16世紀からの500年を近世と呼び、17世紀のバロック時代からの400年を近代と呼ぶことにします。この論は近代の話です。必要に応じて近世に言及する事があります。16世紀はヨーロッパ白人種キリスト教徒であるスペイン人がインカ帝国を滅ぼした世紀であり、17世紀はヨーロッパ白人種キリスト教徒同士の戦争である30年戦争といふヨーロッパ域内戦争の起きた世紀である。

この世紀は、大は建築物から小は美術品や小説や一篇の詩に至るまで其のジャンル横断的な共通せる様式を備へてゐるが故に、その様式にバロックといふ名前をつけられて呼ばれてゐる。この論考はメディア論であると同時に、追ひ追ひ後述して御解り戴けるやうに、バロック様式論でもあります。バロックといふポルトガル人の命名が此の様式の本質を穿つてゐることについては其処で述べることにします。

さて、20世紀に複数のメディアを同列に扱ふ能力のまだ珍しかつた時代には、安部公房はマルチ・メディア作家だといふ事ができましたし、私たち安部公房の読者は此の藝術家の其のやうな性格に惹かれて読者なのであり、そして読者としても実際にジャンル横断的な思考と嗜好を有し、ジャンル横断的に活動をする読者であるといふ読者の性格が作家の特性を其のまま私たち読者に反映してゐて、ここが他の小説作家の読者とは一線を画する特徴であるといふ事ができます。

しかし、21世紀の今、一桁の学齢の子供をはじめとして誰もがmobile（モバイル）と汎称される小さな携帯用personal computer（パーソナル・コンピューター）即ち通称スマートフォン（略称スマホ）の上で動画や音楽や文章の編集ができてネット上に「いつでもどこでも誰にでも」上梓（発行：publish）できる時代であれば、マルチ・メディアなどといふ言葉は当たり前過ぎて、誰も口にしなくなりました。

この「いつでもどこでも誰にでも」mobileを手にして上記の行為の出来る人を個人（personal）と呼び、この個人の集合を個衆（personals）と呼ぶことにします。personalはマルチメディア人間であり、個衆は集合としても其のままマルチメディア人間の集合です。

このやうに、この個人（personal）は、20世紀までのindividual（個人）と呼ばれてゐた個人とは其の方向性に於いて正反対に異なります。前者は水平方向に個として遍在するといふ形象（イメージ）であり、後者はこれ以上分割できないものとして〔註1〕垂直方向に統合されてゐるといふ形象ですし、後者の場合、そしてあなたも持つてゐる筈の、実際に身分証明書といふものは其のことを証明するものです。後者を統合する唯一のものは、20世紀までは近代国家であり、前者を統合する唯一のものは、無いのです。前者を統合する唯一のものは、無いといふところに、21世紀の今問題としてあるネット・ヘゲモニーまたはネット・ヘゲモニストによる検閲の問題があるので、これは後述の論とします。

かくして、前者の個人（individual）は集合としては、大衆（people）と呼ばれ、後者の個人（personal）は集合としては、個衆（personals）と呼ばれる。前者の社会は大衆化社会と呼ばれ、後者の社会には依然として名前がないが、『S・カルマ氏の犯罪』の読者である私たちは、この社会に個衆化社会と、前者の命名規則に従って、呼ぶことにしませう。

と、このやうに名前の命名規則を見ても、前者は個人（individual）と大衆（people）の間に違いがあるのに対して、後者は個人（personal）と個衆（personals）の間には逕庭はありません。

私は安部公房の読者として、希望を絶望と一体の、（希望を）裏返した言葉としてしか使用するものではありませんが、しかし、後者の個人と組織、部分と全体、小と大の関係には、少しばかりの希望が、18歳の安部公房の論文の副題を引用すれば「是こそは大いなる蟻の巣を輝らす光である」のではないでせうか。あるひは、本文より引用すれば、「しかし此処に新しい問題下降——一体座標なくして判断は有り得ないものだらうか。これこそ雲間より漏れ来る一条の光なのである。」といふ事ではないのでせうか。（『問題下降に依る肯定の批判』全集第1巻、十二ページ上段）（傍線は原文傍点）

かくして、このネット・メディア論は、メディアに関する問題下降論でもあるのです [註2]。

[註1]

individual adjective

in-di-vid-u-al | \ ɪn-də-ˈvɪj-wəl

Definition of individual (Entry 1 of 2)

1

a: of, relating to, or distinctively associated with an individual

an individual effort

b: intended for one person

an individual serving

c: being an individual or existing as an indivisible whole

2

: having marked individuality

an individual style

3

: existing as a distinct entity : SEPARATE

4

obsolete : INSEPARABLE

individual noun

Definition of individual (Entry 2 of 2)

1

a: a particular being or thing as distinguished from a class, species, or collection: such as

(1): a single human being as contrasted with a social group or institution

a teacher who works with individuals

(2): a single organism as distinguished from a group

b: a particular person

are you the individual I spoke with on the telephone?

2: an indivisible entity

3: the reference of a name or variable of the lowest logical type in a calculus

First Known Use of individual

Adjective

15th century, in the meaning defined at sense 4

Noun

15th century, in the meaning defined at sense 1a

[註2]

問題下降と如何なる概念であるかを「『デンドロカカリヤ』論(前篇)」の「2. 「問題下降」とは何か」(もぐら通信第53号)より引用してお伝えします:

「問題下降といふ概念を一番解り易く言へば、次の通りになります。

問題下降とは、哲学用語を使つて書いた認識の世界を、日常生活の中で普通に理解できる用語で垂直方向に書き直す行為、即ち其のやうに下方に向かつて下ろして行く行為である。

前者の認識の世界は、全集第1巻の最初に収録されてゐる、安部公房が18歳の時に書いた『問題下降に抛る肯定の批判』の中で「遊歩場」と呼ばれる、安部公房独特のtopology(位相幾何学)の道といふ線(一次元)又は帯(二次元)によつて描かれる(後者ならば特に視覚的にはメビウスの環)、交易または交換のための道であり、位相幾何学的な一筆書きの世界なのです(全集第1巻、12ページ下段から13ページ上段)。[註1]

[註1] (略)

言語論的・文学的には、問題下降とは、ある体系の中の高次元の概念関係と其のすべての語彙を、もう一つの低次元の体系へと、垂直方向に、前者の体系のすべての対応関係(correspondence)を失うことなく連続的に、後者の個別の意味関係と其の語彙に翻訳する事である。

と云ふこともできます。

これは、topologyです。

これを、私の云ひ方で一言で云へば、既にもぐら通信誌上にて複数回書いたやうに電子計算機のためのOSといふ言葉を使つて、

このやうに考へて参りますと、安部公房はエンジニアとなんら変はらないのです。即ち、『詩と詩人(意識と無意識)』といふOSの基本設計図を描き、あとは、高次元の哲学的な用語を用いた作品を概要設計図として描き、これを更に次元を落として具体的な詳細設計図を描いたと云へるからです。

エンジニアは、基本設計図をを3つまたは4つの基本的な用語と概念で記述をし、概要設計図では機能設計を行い、詳細設計図では機能設計のための仕様に適った具体的な部品の試験をして、上位の設計図通りに機能するかどうかを確かめて最初の検証をしてから、砂や顔や地図や箱や病院や洞窟やノートブックといふ投影体を実際に組み立てるための仕様に適合した部品を調達して、組み立てて製品が完成した後に、出荷前に品質欠陥が、即ち構造上の設計欠陥がないかどうかを最後に検証してから、出版社から出荷するといふ訳です。

ですから、安部公房がチェニジーといふ雪道用のタイヤ・チェーンを發明して西武自動車から商品として販売したり、この發明を更にスイスの国際發明展に出品して銅賞を受賞したりといふのは、安部公房の中では、同じ事なのです。

「終りし道の標べに」立つ私たち安部公房の読者は次のやうにいふ事ができる。

流行は終はつたところから始まる。

同様に、

マス・メディア（20世紀）の終つたところからネット・メディア（21世紀）が始まる。

前者が何処で何故終つたのか、終つたとは何か、何が終つたのか。後者は何処で何故始まつたのか、始まつたとは何か、何が始まつたのか。しかし、後者もまた終るのです。何故なら、後者もまた流行であるから。といふ、これらのことを論じたい。そして大事なことは、歴史はある日突然人間の意志によつて切断できるものではなく、歴史が時間といふ上位概念の下位概念である以上、人間の意志で制禦（コントロール）することは出来ず、従ひ、前の時代は後の時代と常に重層的になつて同時に並行して私たちの目の前に現実としてあるといふことです。私たち人間は歴史の力、即ち時間の力を否定して生きることは出来ません。江戸時代は時代劇として今も生きてゐるといふことです。

さて、二つのメディアを考察するには、まづどうしても近代国家とは何かといふ問いに正面から答へねばなりません。何故なら、近代国家とマス・メディアの生まれと成長は、16世紀のグーテンベルクの印刷機械の発明以来、といふことは近世にあつて、近代400年を閲して、軌を一にしてゐるからです。問いの形式は一般化して、次の章の題は、国家とは何かとしました。

国家とは次章に掲げる立方体で考えることができます。これは、西部邁さんといふ社会経済学者であり批評家であつた方の思考論理構造のモデル（模型）を其のまま拝借して [註3]、私も同じ論理構造で国家とは何かといふ問いに正面から答へたものです。何故、かうしたかといふ問いに対する答へは後述します。いふまでもなく **私の立場は、徹頭徹尾、言語です**。この国家モデルに関する用語の定義は第2章に示しました。

[註3]

西部邁さんといふ方が『まことの保守思想を語り尽くす』（これはご本人の遺書といふべき本です）および『知性の構造』に描いてゐる、社会現象や思考論理展開の解析をしてゐる構造的な立方体を（勿論立方体は構造的ですから構造的な贅語です）、そのまま国家といふ国体に応用しました。勿論、その構成要素の分類は、私の分類です。

これは近代国家構造図と言ふに留まらず、古今東西の国家といふ国家に適用できるモデルです。その場合、場合場合に依じて構成要素の名前が変わります。安部公房の読者には言までもないことですが、同じ概念が、異なる文脈では別の名前で呼ばれるからです。これが安部公房の、ヴィトゲンシュタインの、ソシュールの普遍的な言語機能論である事は諸処既述の通り。それが人間と言語 (language) の関係、人間と名前 (word) の関係です。もし腑に落ちなければ、芥川受賞の、初期安部公房の傑作『S・カルマ氏の

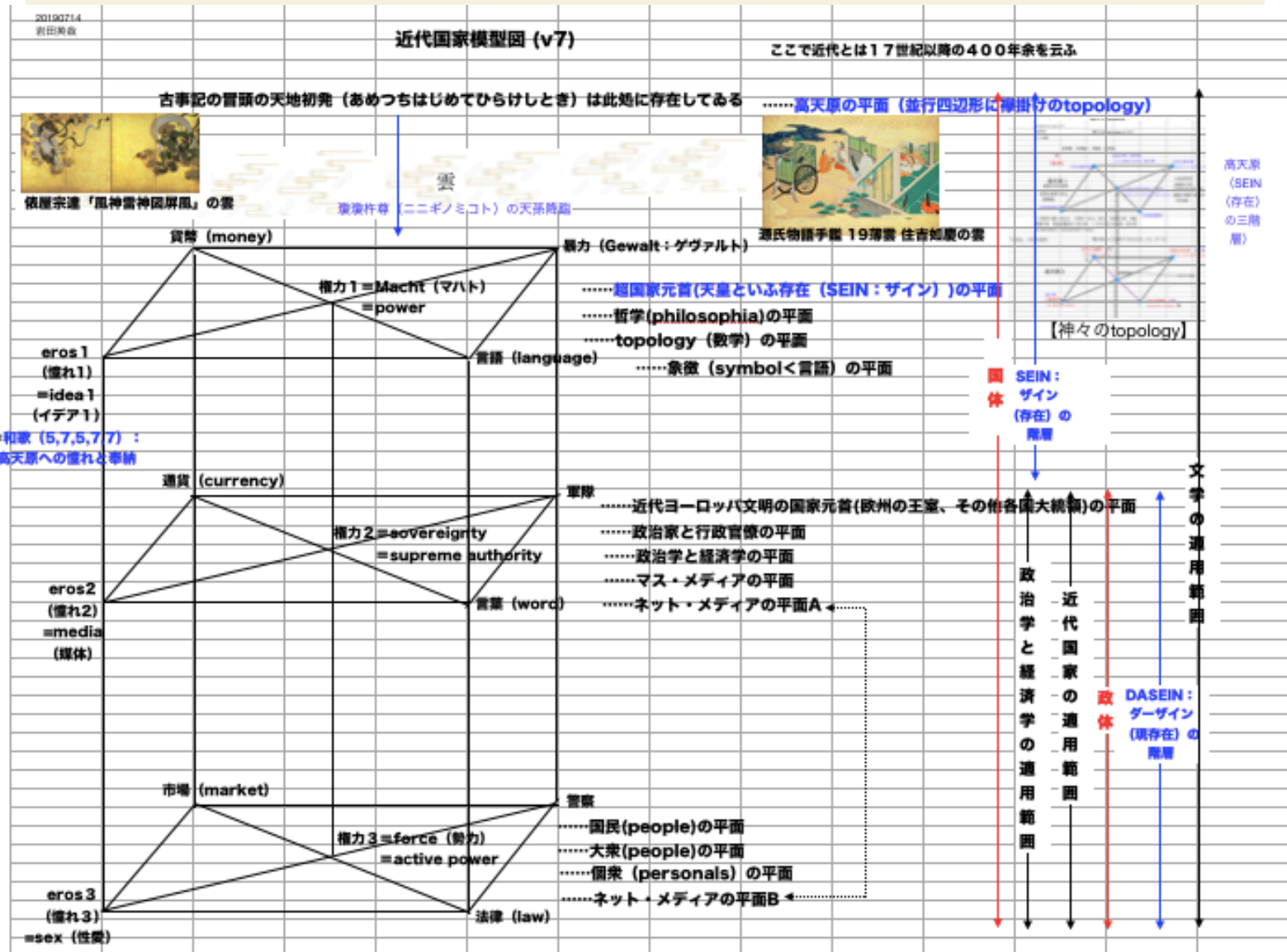
犯罪』を再度お読み下さい。安部公房の言語機能論については『安部公房文学の毒について～安部公房の読者のための解毒剤～』（もぐら通信第55号）の「4. 言語論といふ毒（問題下降の毒）」に、安部公房の言葉を列挙して示し、また「『カンガルー・ノート』論(5)」（もぐら通信第70号）の「5. 1. 4 『カンガルー・ノート』の形象論: (18) 駐車場」では同じ問題を安部公房の詩『詩人』を題材に詳述しました。

1. 国家とは何か

茶室に至るために踏む石畳の石が、私たちの場合には、定義である。

定義とは用語の定義のことです。用語は一語一概念で表され、しかし文脈に応じて常に複数の意味を有する。以下列挙される用語をまとめて『ネット・メディアを論ずるための用語定義集』を作成しました。ダウンロードは：<https://docdro.id/lfKSfuZ>

まず、近代国家の構造の模型図を掲げます。これは近代国家としてありますが、本質的な図形ですので、古今東西どんな国家にも、それが何語で呼ばれるにせよ、それが国家ならば適用され得るものになつてゐます。その後に、この国家モデルに関する用語の定義を並べます。この図のダウンロードは<https://docdro.id/G4YcHH9>



英語の分類はWebster Onlineによる：<https://www.merriam-webster.com>
 ドイツ語の分類は「木村権太郎和辞典」(博友社)による。
 日本語の分類は筆者(岩田)の分類である。

2. 用語の定義

国家の定義1 (安部公房の定義)

国家とは、人間の持つ言語の二つの機能、即ち集団化機能と分化機能（個別化機能）のうち、前者の機能を最大限に発揮させることによつて、直接顔を合はせることのない成員をまで組織して是を巨大化し抽象化して生み出した人間の組織の最大のものである。

（『シャーマンは祖国を歌う』全集第28巻、235ページ下段）

国家の定義2 (筆者の定義)

国家とは、「近代国家構造模型図」の示す通りに権力の三階層よりなる人間の組織であつて、貨幣・言語・暴力・エロス（憧れ）からなる、其の地域に生活する人間の最大の組織単位である。

[補足説明]

それでは、nationと呼ばれる国家は何か、stateといふ国家とは何処が違ふのかといへば、以下にWebster Onlineの定義を引用したやうに、nationとは「共通する起源、伝統 および言語を有し、そして一つのnation-stateを形成しまたは現実に構成する能力を有するpeople(国民、民族)である」ものをnationといふのでありますから、nationとは国民であり民族のことです。これに対して、stateといふ国家は、peopleが政治的に組織した体(body)、即ち peopleの集合した体(てい又はたい)であるといふことです。

従ひ、nation-stateならば語法上の問題はない。何故なら、このやうな 国民国家足り得るからです。Webster Onlineから当該の定義を引用します:

「5

a: a politically organized body of people usually occupying a definite territory[明確に定義された領土を普通に占有する国民・民族(people)]especially : one that is sovereign[特に其の体(たい)が主権者・元首・君主・国王である体(たい)]

b: the political organization of such a body of people[そのやうな国民・民族の体(たい)である政治的な組織]

c: a government or politically organized society having a particular character[特殊な性格を有する政府または政治的にそ組織された社会(society)]」

政体の定義

政体とは、国民国家 (nation-state) をなす政治体制のことである。「近代国家構造模型図」の第一層および第二層のことである。

ネットの定義

ネットとは、インターネット及びネットワークの結合したものの総称である。即ちインターネット・ネットワークのことである。

社会の定義

社会とは、民主主義と資本主義に拠る世の中のことである。

資本主義の定義

資本主義とは、近世ヨーロッパ白人種キリスト教徒の生み出した株式会社を基本単位とする経済の仕組みである。

民主主義の定義

民主主義とは、資本主義と裏腹の関係にある政治の仕組みであつて、近代ヨーロッパ白人種キリスト教徒中産階級が生み出した、キリスト教の唯一絶対神を否定するかまたは此の宗教的な絶対支配者の支配から離れて、従ひ、自由に人間の個人同士の社会的な契約関係に拠つて「近代国家構造模型図」の二層目と三層目で自分たちの自治によつて政治を執行することを考へた政治体制である。しかし根底はキリスト教の一神教のトポロジーであるので、広義には共産主義の一種である。即ち、三権分立を「近代国家構造模型図」の権力1の一層目に据ゑた共産主義である。要するに民主主義は共産主義である。100人の社会で一人だけに権力が集中すれば其れは独裁政治と呼ばれ、狭義の共産主義となり、51人の過半数で政治を行ふと其れは広義の共産主義、即ち民主主義と呼ばれる。このことあるにも拘らず、三権分立を国家的自由の根拠として、狭義の共産主義の計画経済に対して、この広義の共産主義の経済を此の理由で自由経済と呼び、これが主義になつた場合には自由主義の経済と呼ばれる経済を行ふ。

共産主義の定義1（近代歴史視点）

共産主義とは、狭義には、近代の19世紀及び20世紀にあつて、資本主義が余りに行き過ぎて貧富の差異が激しくなり、また民主主義が此の問題を即座に解決できないがために、19世紀にカール・マルクスが唱へた急進的な解決を暴力によつて求め実現しようと図つた政治及び経済の理論であり、20世紀に特にロシア革命（1917）以降に世界中で猖獗を極め、通俗的にも流行した理論のことである。共産主義は一神教の時間の信奉者であるので、計画経済を行ふ。

[補足説明]

この理論は、ソヴィエト連邦の崩壊（1991）後も、欧米でも日本でも失敗の原因分析がなされることなく、今日にいたつてゐるがために、殊にフランクフルト学派の活動を通じてアメリカでフロイトの個人に関する精神分析学と結びつき、またプロパガンダの方法論と結びつき、共に通俗化して、アメリカの大衆心理に深く入り込み、political correctnessを代表的な例として、関連するフェミニズムなどの極端な主張が社会的な問題と軋轢を引き起こす原因となつてゐる。これが広義の共産主義である。

この通俗化した広義の共産主義の危険であることは、範疇の意図的な混同によつて人心を情緒的感情的に扇動し、大衆のみならず政治家を同様の影響下に置いて、共産主義的な意図の関係する法律の制定に至らしめることによつて、共産主義の本性の露わになつた全体主義ファシズムといふべき共産主義社会を、フランス革命時の標語だと云はれてゐる自由・平等・博愛、ヒューマニズム、男女平等などその他の美辞麗句の甘言を弄して人間

を情緒的感情的に扇動し、大衆のみならず政治家を同様の偽善の影響下に置いて、共産主義的な意図の関係する法律の制定に至らしめることによつて、共産主義の本性の露わになつた全体主義・ファシズムといふべき共産主義社会を出現せしめてゐることである。本家アメリカのみならず、ヨーロッパ、日本も此の通俗化し、従ひ依然として20世紀のまま旧態依然に大衆化した共産主義に侵されてゐることが問題である。何故これが問題ある現状になるかと云へば、1989年にベルリンの壁が崩壊した後に生まれた世代が、実際の共産主義の恐ろしさを知らないからである。21世紀の今も隣に中国共産党あるにも拘らず、政治家は其の使命を放棄し、共産主義の恐ろしさを国民に語らない。かくなる上にアメリカから無批判に流入するpolitical correctnessその他通俗化したマルクス主義による民主主義の手続きを踏んだ法制化と、法制化による言論統制の恐ろしさは其の一例に過ぎない。

共産主義の定義2 (独立・解放建国視点)

共産主義とは、それまでの歴史を全く否定して、ある日突然国が建国されたといふ考へ方である (これを以後「共産主義的建国」と呼ぶことにする)。

[補足説明]

共産主義1の定義の[補足説明]に記述した大衆化し通俗化した共産主義は、皆此の考へ方に拠つてゐる。即ち、如何に私利私欲を公のものに見せかけて、立法化し、自分以外の人間を絶対的に支配したいといふ欲望によるものである。しかし、この欲望の由来を仔細に見れば、自分自身の死に対する恐怖が其の動機になつてゐることが判る。

死生観、即ち公共の道德の無い人間の弱点が此れであり、マス・プロパガンダは、大衆の此の弱点に働きかけることを専らとする。共産主義的建国といふ歴史の捏造は、何故捏造かと云へば歴史は時間として連綿と連続してゐるからであるが、この手の国家の、国の成り立ちに起因する論理的に強制された、即ちイデオロギーとなつてしまつた国家起源説に起因する結末の一つである。共産主義的建国国家は、次の三つの顕著な特徴と悪を有する。以下『Mole Hole Letter (21) : 二階層戦争論~時代と世界のための処方箋~

[Made in Japan]』より引用する：

「附録4 共産主義の致命的欠陥

「共産主義 (マルクス主義) の特徴は、その経済体制のしからしむるところ (売買行為一相場一の否定) が原因で、そのなすことは、私の東ドイツ滞在見聞記 (マルコポーロの向かふを張って、以後「西方共産主義見聞録」と呼びたい) の書き溜めたメモの一部を此処で引用するとすれば、売買行為 (相場) の否定といふことから、共産主義とは、共産党による、

- (1) 外国の諸物の窃盗と [共産党と党に関係する者は皆運転手も含めスパイである]
- (2) 闇市場の追認と [従ひ、共産党は此の市場を管理 (コントロール) できない]
- (3) それまでの先人の蓄財した遺産 (文化的精神遺産も含む) の切り売りの [歴史の捏造もこれに含まれる]

(1) は二つの階層で地球天下周知の通り。(3) には歴史の捏造のほかに、あれこれの無償化(教育の無償化その他)が含まれる。無制限(クルクルパー)の無償化と一緒に全体主義ファシズムがやつて来る。そして、といふわけで、(3) は(1) と(2) に繋がる。タダほど高いも

のではない。無償であるといふことは、国家権力の、あなたの私生活への無断の侵入に同意するといふことなのです。あなたが、或る日仕事から帰宅すると、ヴェランダから共産党支配の国旗が垂れ下がってある。あなたにプライバシーや人権などは全く、ない。権利がないが共産党の絶対命令による義務だけはある。これがマルクス主義の実現した共産主義社会です。そして、これは私が東ドイツで経験した実際の経験です。

(1) は国内の「人民」からの収奪を含むので、「国内外の諸物の窃盗」といふ方が良いかもしれない。さうすると益々(1) は(3) に近づき、(2) の闇市場の放任を許さざるを得ない。これが果たして国家であらうか? これに人間が個人の名前で耐えることのできる限界が70年である。しかし、70年といふ年月は、その個人の人生の時間のほとんど全てだ。

私の年来の観察によれば、これらすべてのことは、ただただ相場の否定といふ、時代地域を問はず人間の経済行為の要にあるものの否定によつて起きるのである。相場をマーケットなどと読み替へて、あなたの頭の中で翻訳すると、あなたの日本人としての理解が鈍ります。ここは相場といふ日本語の語感のままに素直に理解して貰ひたい。日本語はそれ位に大切です。さうであれば、どの国どの民族の言葉も自国民その民族にとつて致命的に大切である。それを弁へた上で相場を market と呼ぶのであれば、話はまた別のことになります。」

プロパガンダの定義

プロパガンダとは、「大衆と、大企業や政治思想や社会グループとの関係に影響を及ぼす出来事を作り出すために行われる、首尾一貫した、継続的な活動」である。

[補足説明]

この定義は、エドワード・バーネイズ著『プロパガンダ』(49ページ)にある著者による定義である。同著翻訳者中田安彦による「訳者まえがき」によれば(同書21ページ)、「バーネイズを批判した社会学者であり言語学者のノーム・チョムスキーは、バーネイズが生み出したのは「合意の捏造」のためのテクニックだと激しく批判してゐる。」

言語の分化機能の発揮を主張した安部公房の読者であれば、チョムスキーが激しいプロパガンダ批判者であることは当然と思はれるでありませう。また注意すべきは、チョムスキーの「激しく批判してゐる」「合意の捏造」が、唯一絶対神を抜きにしてつくつて来た欧米白人種キリスト教の世界での、Godと人間の間のではなく、人間だけでつくる

社会の契約の捏造だといふことである。ここに欧米白人種に特有の事情に根ざす根深い、プロパガンダと国家による民主主義政治経営と大衆の間に複雑な問題があるといふことです。「近代国家構造模型図」の二層と三層の間の、これは問題だといふことになります。

経済の定義

経済とは、その目的を経世済民に置いた、相場と市場の肯定を前提にして、政治による国民の所得の増加を図るための、即ちGDP（国民総生産）を増大させるための、政治による政策運営のことである。狭義広義の共産主義を問はず、共産主義は此の経済を全面否定する。

相場の定義

相場とは、その手段と対象を選ばず、単純に売りと買いの行われる場所と機会である。そこで或る時間或る程度の安定を得る価格をも含めて相場といふ。

SNSの定義

SNSとは、サービス供給者によつてネット上で提供されるSocial Network Serviceの略称である。

[補足説明1]

しかし、マス・メディアの補足説明にあるやうに、ネット上といふ論理層のみならず、物理層にも此のサービスの名前の適用を拡張することができる。もしさうすれば、他方social engineeringといふ言葉のあることを考へ併せると、検閲網の一部としてのスパイ網の構築といふことにまで意味の範囲は及び、逆に此のことを論理層に適用すると、SNSは検閲網の一部としてのスパイ網の構築といふことにまで意味の範囲は及ぶことになり、現実には実際に此のことを実証してゐる。これが一般にはインターネット上でのネットワーク・ヘゲモニー、また特にネット・ヘゲモニーと呼ばれる問題である。

ヘーゲルの『歴史の哲学』（「歴史哲学」といふ訳語は誤訳）とヒットラーの『我が闘争』を読んで得た極左であれ極右であれ、いづれにせよ共に全体主義・ファシズム国家の構造は次のやうになつてゐる。『安部公房とチョムスキー』（もぐら通信第93号）の「11.6 マルクス主義の歴史・共産党・社会・国家・国民・個人の関係」より引用します：

「11.6 マルクス主義の歴史・共産党・社会・国家・国民・個人の関係

そして、マルクスが中産階級を否定して、また近代ヨーロッパの中産階級と同じ過ちをマルクス主義として繰り返した。

①History>Partei>society

②歴史 >共産党>社会

この図式はどう考へても民主主義国家の図式ではない。何故ならば、民主主義国家の図式は、

- ①State>people(国民)または、
 ②Nation>people(民族)、そして、
 ③自然>神話>歴史>伝統>文化>(政治、経済)>社会>people(国民、民族、民衆)

といふ図式の上に/中に、国家(state、nation)はあるからです。そして、もしあなたが個人としての自分もこの中に入れたらどうなるのだ?と問ふならば、あなたの個人としての、即ち組織的な人間でない場合の個人的なあなたの位置は、マルクス主義の場合には、次のやうになります。マルクス主義では、個人とは呼ばず、同志と呼んでゐる。即ち、個人は存在しない[註8]。

History>Partei>society>state>nation >people>Comrade..... 【D英語-a】
 歴史 >共産党>社会 >国家1>国家2 >国民 >同志..... 【D和訳-a】

ここに「共産党>社会」とある此の社会は「私語の社会」です。この社会が

「国家1>国家2 >国民 >同志」

までを支配する。これが文字通りの社会主義です。

[註8]

Webster Onlineによる個人(individual)の定義:

individual noun

Definition of individual (Entry 2 of 2)

1

a: a particular being or thing as distinguished from a class, species, or collection: such as[ある階層、様々な種、または集め/集められたものとは卓越したものとして識別・区別された特殊・特別な存在また

(1): a single human being as contrasted with a social group or institution[社会的な集団(グループ)または機関とは対照的である単一の人間]

a teacher who works with individuals[個々人と一緒に働く一人の教師]

(2): a single organism as distinguished from a group[一つの集団(グループ)から卓越したものとして識別・区別された単一の有機体]

b: a particular person[特殊・特別な人]

are you the individual I spoke with on the telephone?[あなたが電話で私と話をした其の当人ですか?]

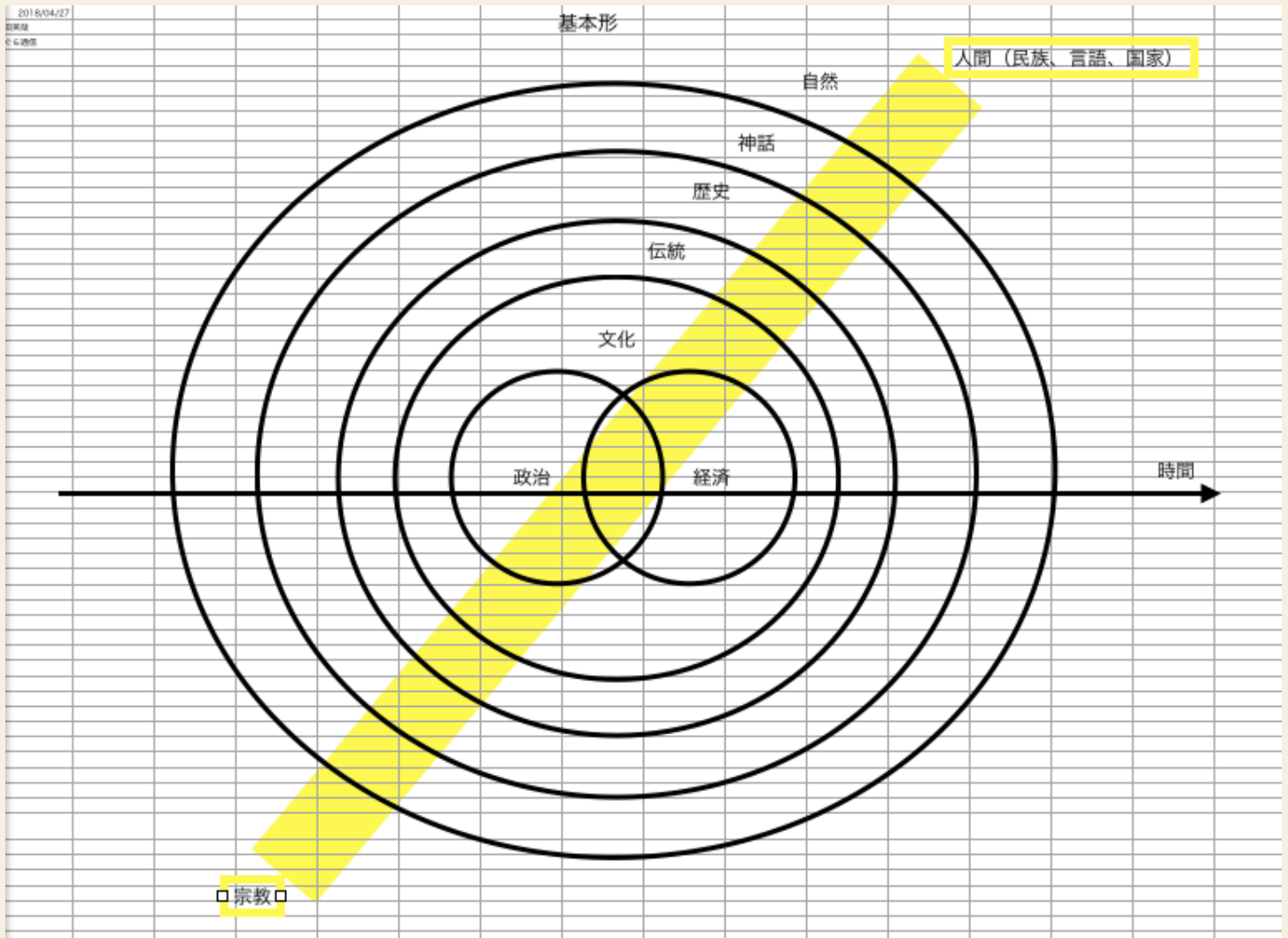
2: an indivisible entity[目に見えない実在]

3: the reference of a name or variable of the lowest logical type in a calculus[計算法で一番下の論理的な型(タイプ)の名前または変数を参照すること]

マルクス主義ではなく、民主主義かまたは正確にいへば、有色人種の超越論、汎神論的存在論の場合には、個人としてのあなたの位置は次の通り”個人(individual;personal)”の位置にゐることになります:

③自然>神話>歴史>伝統>文化>(政治、経済)>社会>people(国民、民族、民衆)>個人
(individual;personal)

さて民主主義の図式【D英語-a】と【D和訳-a】は下図の「A_政治と経済の内部から外部の自然まで」の円の中央の政治の中に/上にある。あなたは、これに対して、下図の円盤図の中で黄色の帯が右上から左下に斜めに横断してゐる通りの、さう、組織人でない場合には、個人 (personal) と呼ばれる人間です。あなたといふ人間は(民族、言語、国家)を日々代表してゐる。これを職業とすれば、民主主義の手続きによつて当選すれば、あなたは政治家と呼ばれる。ダウンロードのURLは:<https://www.scribd.com/document/392167695/政治と経済の内部から外部の自然まで>



これだけの複雑な組み合わせを、否定和だけで説明することはそもそも不可能であり、さうしようと思ふことだに愚かである。現実にはヘーゲルの能力を超えて遥かに複雑である。思想の論理と現実的な目の前の細かな問題を混同すれば、混乱が起きるだけです。文化と政治の範疇は峻別すべきです。そして、前者の範疇に属する藝術家が政治的

発言をする時には、後者の範疇にあつては一庶民としての発言であることを自覚すべきです。しかし、people(国民、民族、民衆)は、この二つの範疇を混同する。何故ならば、その藝術家が有名であれば、そのためにpeople(国民、民族、民衆)は範疇を好んで無視してしまひ、有名人の言葉に扇情されて共感し、行動することになるからです。このやうなpeople(国民、民族、民衆)を大衆といふのです。これは結果としての大衆ですが、これでお判りの通り、潜在的な大衆(これをエリアス・カネッティの用語massを借りて"mass-potentials"(群衆潜在者)と呼ぶことにします)は常に時間の中に、即ち歴史の中の現在にゐる。文字通りに量としてある十把一絡げのマス(mass)です。このマス(量)としての大衆または群衆潜在者の心理と行動の非常に鋭く深い分析は、エリアス・カネッティの著した『Masse und Macht(マッセ・ウント・マハト)』(邦題『群衆と権力』)をご覧ください。カネッティの日本語訳は、法政大学出版で全集が出版されてゐます。カネッティは、箱根隠棲時代の安部公房が、この作家がノーベル文学賞を受賞した1981年に名前を知つてその後折に触れて言及し、称賛した作家です。

さて、かういふことが、そもそも誤訳も含めて、明治維新以来150年の近代日本の歴史にはたくさんあるのではないかと、かうして見ると、私は疑つてゐるのです。

この一連の論考で、ヘーゲル―マルクスの原因と結果の論理的な連鎖がよくわかりました。

マルクス後のフランクフルト学派も、金融資本主義のglobalismの看板を掲げて金融商売をしてゐるウォール街やロンドン・シティのマルクス主義も推して知るべし。

[補足説明2]

しかし、マス・メディアの[補足説明]にあるやうに、ネット上といふ論理層のみならず、物理層にも此のサービスの名前の適用を拡張することができる。もしさうすれば、他方social engineeringといふ言葉のあることを考へ併せると、検閲網の一部としてのスパイ網の構築といふことにまで意味の範囲は及び、逆に此のことを論理層に適用すると、SNSは検閲網の一部としてのスパイ網の構築といふことにまで意味の範囲は及ぶことになり、現実には実際に此のことを実証してゐる。これが一般にはインターネット上でネットワーク・ヘゲモニー、また特にネット・ヘゲモニーと呼ばれる問題である。

何事も出生、由来、縁起が大事です。インターネットはアメリカの国防総省の発明ですから、最初から軍事目的のメディアであり、当然に盗聴と検閲は最初から其の目的とした上で民間に開放された筈です。インターネットの世界が無料(タダ)に等しい世界であるといふ事実が、ネットの世界が共産主義の世界足り得る十分な蓋然性(probability)のある事を意味してゐるのです。

21世紀のメディアと国家の問題は、20世紀には、

であつた階層構造が、21世紀には、

歴史 > **GAF**A>社会 > **国家1**>**国家2** >国民 >political correctnessその他通俗化した即ち依然として大衆化したままのマルクス主義の同志……【D和訳-a'】

になつてゐることです。

大衆の定義

大衆とは、peopleの訳語の一つであり、文脈（context）の応じて次のいずれかの意味となる量（マス:mass）としての人間の集合である。この場合の文脈とは、政治、経済、文化の三つが主要なものとしてある。20世紀には、民主主義と大衆、大量生産・大量消費社会といふ資本主義と大衆、マス・メディアと大衆といふ文脈が考へられた。

[補足説明]

『安部公房と読むスキー（11）：言語の観点から明治維新以来の150年を総括する(150年)』（もぐら通信第93号）の「11.5 キリスト教を切り捨ててヘーゲルの論理からマルクス主義が生まれた」より引用します（ダウンロードは：<https://www.docdroid.net/d4oVyfR/93.pdf>）：

「[ヘーゲルが『歴史の哲学』（『歴史哲学』は誤訳）に云ふ]、

歴史(=観念(または理念))>支配者 >国家経営
History > govern>state

といふ二つを重ねて並べればどうなるか。次の三色の階層に色分けされました。Stateを国家1、nationを国家2と呼ぶことにします。

History>Partei>society>state>nation >people……【D英語】

歴史 >共産党>社会 > **国家1**>**国家2** >国民……【D和訳】

最下層にゐる紫色のpeople(国民)とはドイツ語ではdas Volk(ダス・フォルク)であり、これを更に日本語に訳せば、このドイツ語の一語は、普通には次の最初にある三つの日本語訳に対応して、これらを含んでゐます。

- (1)国民(フォルクス・ワーゲンのフォルク。国民車の国民。State(国家1)視点からの日本語訳)
- (2)民族(歴史と伝統と文化視点からの日本語訳。対応する英語はnation(国家2)。)
- (3)民衆(上記(2)の民族としてある国民を大衆としてみた場合の日本語訳)
- (4)人民(上記(1)から(3)の歴史的差異の成り立ちを一切無視し、否定して頓着せず、das Volk(ダス・フォルク)を十把一絡げで訳したマルクス主義の日本語訳。勿論人民は、しかし実際には共産党が、マルクス主義の社会を水平横断的に展開して此の社会を世界的に無理やり押し広げて共有するといふ論理である。)

SNSプロバイダーの定義

SNSプロバイダーとは、SNSのサービスの提供者である。国際的に有名なSNSプロバイダーには、Facebook、Twitterなどがある。

メディアの定義

メディアとは、何かと何かを接続する物・事・人である。この接続は言語によつて行はれる。

[補足説明]

この接続は、日常には報道、報知、連絡、相談、通達、推薦、提案その他用語の格と用語発信者・受信者が誰かによつて様々な言葉で言ひ換へられてゐる。感情の領域では、恋する、愛する、セックス（性交）、愛撫、抱擁、喜び、悲しみ、苦しみ、憎しみ、憐れみその他、要するにメディアとはコミュニケーション（意思疎通）であり、コミュニケーションとは意思疎通を図る行為および其の結果または成果のこと、即ち動詞と名詞としての媒体（メディア）である。即ち、かく考へれば、

メディアとはコミュニケーションである。

このことをカナダ人マクルーハンが、

メディアはメッセージである

といつた。

これをアメリカ人のマーケティングの大御所ダン・ケネディは、流石アメリカ人、更に金儲けに結びつけて、（メディア、メッセージ、マーケット）といふこの三点セットを世に普及させて、弟子たちを含め、商業の世界で大いに金を儲けて来た。知らぬが仏、日本人は本当に仏である。日本人でマクルーハン理論を読んで、金持ちになつた奴はゐるのか？（守銭奴になりたい日本人のための絶望的な反語的且つ挑発的疑問文）

YouTubeその他のネット上の動画もHTMLといふマークアップ言語（厳密には言語ではないが、さう国際規格で呼ばれてゐる言語規格）に拠つてゐる。

メディアの定義が上掲のものなれば、縄文土器もメディア、全国各地の神社もまたメディアだである。古代からの超越論的なメディアである。宗教（religion）の定義に説明したやうに神道は宗教（religion）ではない当のミチ（道）の上に純然と建てられた古代国家が明治以来の、今に至る日本の国である。その国家構造とメディアの関係は「3.メディアとは何か」で詳しく図示したので、参照のこと。神道（ミチ）と近代国家の関係が自明である。

マス・メディアの定義

マス・メディアとは、大衆（マス）を相手に情報を発信する一斉同報型の媒体である。例を挙げれば、ラジオ、TV、新聞紙、週刊誌が代表的なものである。後掲する「主義の定義」の[補足説明]により、マス・メディアはプロパガンダ機関である。

後掲する「主義の定義」の〔補足説明〕により、マス・メディアはプロパガンダ機関である。マス・メディアのいふことを信用しては、そもそも、ならない。それでは、ネット・メディアとは何か？これが此の論考の主題である。

マス・ジャーナリズムの定義

マス・ジャーナリズムとは、マス・メディアで仕事をするジャーナリズムである。

ジャーナリズムの定義

ジャーナリズムとは、その語源から云つて一日単位で其の起きた事実の記録を残し、これを報道することを使命とする職業に携わる人と組織の総称である。

〔補足説明〕

Webster Onlineより、journalの語源：

History and Etymology for journal

Noun

Middle English, service book containing the day hours, from Anglo-French jurnal, from jurnal, adjective, daily, from Latin diurnalis, from diurnus of the day, from dies day — more at DEITY

ネット・メディアの定義

ネット・メディアとは、ネット上にあつて、そこで活動するメディアである。

ネット・ジャーナリズムの定義

ネット・ジャーナリズムとは、ネットで仕事をするジャーナリズムである。

しかし、ネット・メディアの性格からいつて、ネットが距離と時間の差異を0にしてしまったので、仕事を計測する単位が一日ではなく、時間、分、秒といふより小さな単位で仕事をしてゐる。SNSが其の典型であり、この仕事の速度にマス・メディアといふ1日単位で仕事をするジャーナリズムのためのメディアは、全く対抗できない。

ここで序（つい）でに人類の歴史の定義をします。

人類の歴史の定義

人類の歴史とは、人間が世界の差異を0にする事の蓄積、累積または堆積である。

左翼の定義

左翼とは、相場と市場を否定するものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を外国の伝統と文化および宗教に求め、同時に外国の勢力と結託してまでしてこれを実現しようと考へ行動する個人もしくは組織のことである。

右翼の定義

右翼とは、相場と市場を否定しないものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を自国の伝統と文化および宗教に求める考へ方、または其のやうに考へる個人もしくは組織のことである。

極左の定義

極左とは、左翼を極端にしたものを云ひ、相場と市場を否定するものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の解決と解決法を専ら外国の伝統と文化および宗教に求め、同時に外国の勢力と結託してまでしてこれを暴力を用ひて実現しようと考へ行動する個人もしくは組織のことである。左翼の延長に生まれる全体主義・ファシズムのことである。

暴力の定義

暴力とは、国家構造模型図[\[https://docdro.id/G4YcHH9\]](https://docdro.id/G4YcHH9) の三つの階層に亘り、権力1から3が執行し（第1層）、行使し（第2層）または実行する（第3層）力のことである。この図に従ひ、次の暴力の分類を得る。

分類1（暴力自体視点）

- （1）戦争による暴力（世界各地で起きてゐる地域的な戦争是也）
- （2）軍隊による暴力（中国共産党によるウイグル人や香港の弾圧、尖閣諸島への不法なる侵犯是也）
- （3）警察による暴力（中国共産党による国内人権派弁護士の弾圧と拷問やウイグル人や香港の弾圧是也）

分類2（言語視点）

- （1）言語による暴力（中国共産党によるウイグル人への中国語の強制その他の言語的弾圧是也）
- （2）言葉による暴力（LGBTなどのpolitical correctness即ち言葉狩り是也）
- （3）法律による暴力（ヘイトスピーチ法、改正入管法（移民法）、LGBTなどのpolitical correctness是也）

分類3（貨幣視点）

- （1）金融による暴力（グローバリズムといふ名の国際金融資本主義・中国共産党の一带一路是也）
- （2）通貨による暴力（グローバリズムといふ名の国際金融資本主・中国共産党の一带一路是也）
- （3）市場による暴力（グローバリズムといふ名の国際金融資本主・中国共産党の一带一路是也）

分類4（アイデア視点）

- (1) 思想による暴力 (イデオロギー是也)
- (2) メディアによる暴力 (検閲とプロパガンダ是也)
- (3) 性愛による暴力 (強姦是也)

これらの分類を眺めれば、国家の本性を取り戻してインポテンツ状態から恢復するために日本の国家が積極的に振るふべき、即ち執行すべきは、国内外に渉(わた)る合法的な暴力 (Gewalt : ゲヴァルト) である。

極右の定義

極右とは、右翼を極端にしたものを云ひ、相場と市場を否定するものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の解決と解決法を専ら自国の伝統と文化および宗教にのみ求め、これを暴力を用ひて行はうと考へ行動する個人もしくは組織のことである。右翼の延長に生まれる全体主義・ファシズムのことである。

全体主義・ファシズムの定義

全体主義・ファシズムとは、極右または極左の別称である。

全体主義の定義

全体主義とは、国家の定義1および2に定義される国家の弱点を突いて、個人独裁、企業独裁または特定の政党独裁 (以上を総称して「独裁者」と呼ぶ) の実現およびこれらの独裁による政治および経済の経営と運営を目的とし、あるひは独裁者が人・物・事に強い影響力を行使することによつてこれらの目的のために生まれる一極集中型中央集権絶対専制主義である。

ファシズムの定義

ファシズムとは、国民国家 (nation) を、そして往々にして人種を、個人の上位に置いて讚美し、そして独裁的指導者と、厳格な経済統制と社会統制および反対意見を暴力的に (forcible) 抑圧することを専らに行ふ中央集権化した個人独裁を支持する、(イタリアのムッソリーニが1922年から1943年までファシズムの原則 (the principles of fascism) によつて統治したやうなあの) ファシストの政治的哲学、運動または政治体制である。「ファシズムの原則」については別途論ずる。

[補足説明]

Webster Onlineの引用：

fascism noun

Definition of fascism

1 often capitalized : a political philosophy, movement, or regime (such as that of the Fascisti) that exalts nation and often race above the individual and that stands for a centralized autocratic government headed by a dictatorial leader, severe economic and social regimentation, and forcible suppression of opposition

[国民国家 (nation) を、そして往々にして人種を、個人の上位に置いて讚美し、そして独裁的指導者、厳格な経済統制と社会統制および反対意見を暴力的に (forcible) 抑圧することを専らに行ふ中央集権化

した個人独裁を支持する、（イタリアのムッソリーニが1922年から1943年までファシズムの原則（the principles of fascism）によつて統治したあの）ファシストの政治的哲学、運動または政治体制ある。]

2: a tendency toward or actual exercise of strong autocratic or dictatorial control
early instances of army fascism and brutality
— J. W. Aldridge

The Italian Origin of Fascism

The English words fascism and fascist are borrowings from Italian fascismo and fascista, derivatives of fascio (plural fasci), “bundle, fasces, group.” Fascista was first used in 1914 to refer to members of a fascio, or political group. In 1919, fascista was applied to the black-shirted members of Benito Mussolini’s organization, the Fasci di combattimento (“combat groups”), who seized power in Italy in 1922. Playing on the word fascista, Mussolini’s party adopted the fasces, a bundle of rods with an ax among them, as a symbol of the Italian people united and obedient to the single authority of the state. The English word fascist was first used for members of Mussolini’s fascisti, but it has since been generalized to those of similar beliefs.

First Known Use of fascism

1921, in the meaning defined at sense 1

History and Etymology for fascism

Italian fascismo, from fascio bundle, fasces, group, from Latin fascis bundle & fasces fasces

Fascista noun

plural Fascisti\

Definition of Fascista

: a member of an Italian political organization under Mussolini governing Italy 1922–1943 according to the principles of fascism

First Known Use of Fascista

1920, in the meaning defined above

History and Etymology for Fascista

Italian, from fascio

保守の定義（一般の定義）

保守とは、相場と市場を否定しないものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を自国の伝統と文化および宗教（religion）を大切にすることを第一の前提にし、この前提に拠つてこれらの継承と伝達を其の民族の日常生活の常識に求めて此れを実践する個人もしくは組織のことである。

日本の保守の定義（個別の定義）

日本の保守とは、相場と市場を否定しないものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を自国の伝統と文化を大切にすることを第一の前提にし、この前提に拠つてこれらの継承と伝達を其の民族の日常生活の常識に求めて此れを実践する個人もしくは組織のことである。

右翼の定義との違い、また一般的な保守の定義との違いは、根源的な問題の解決を宗教に求める考へ方の有無にあります。日本の神道は宗教の定義にある通り、欧米白人種キリスト教徒のいふ宗教 (religion) 、即ち一神教ではないので、これを日本の保守の定義から外しました。そして、殊更に宗教 (religion) を言ひ募ることなく、「これらの継承と伝達を其の民族の日常生活の常識に求めて此れを実践する」と言葉を尽くした定義とした次第です。


一番日本人にわかりやすい保守の定義は次のものであらうと思はれる。

日本の保守の定義 (文化視点の定義)

日本の保守とは次の三つの要件を備へた文化を大切にしている日本人である。

- (1) 弱気を助け、強きを挫く (これは変形して判官鼻眞になるでせう)
- (2) 義理、人情、浪花節 (義理と人情の板挟みになつて浪花節といふ詩が生まれる)
- (3) 家族意識 (疑似家族の意識でも良い。これは変形して養子縁組その他の人間平等意識に、家族意識になるでせう)

[補足説明]

以上の定義によれば、保守を否定する対抗政治勢力は左翼であり、且つ共産主義である。1960年代には、保守に対抗する勢力の名前に革新といふ名前を共産主義の代用にして一般に使用してゐたが、もはや使はれない。その原因は保守が共産主義化したからであると私は考へてゐる。即ち、保守に対して同格で呼ぶ反対勢力の名前は、従ひ勢力は、現下のところは、ない。以上の定義によれば、現下の政権与党は明らかに極左・共産主義政党である。さう考へれば、内外に亘る政策と政策実行のための暴力の振るひ方の首尾一貫した理解と説明がつくと思ふが、如何か。怒り神道に発するとは此のことである。八百万の神々は当然のことながら、怒り神道に発してゐるのだ。日本の国民はすつかりキリスト教化されて子羊のやうにおとなしい。GHQの占領政策は此処に目出度くも完結したのであつた。さあ、今度は何糞、破壊する番である。いよいよ21世紀の何糞前衛 (何糞アヴァンギャルド)  の出番である。何糞君といふこのキャラクターにはこれからも登場して大いに活躍してもらふ予定である。殊に平成30年間は保守がconservativeではなく私の目に映つたのは、上記(1)が全く欠落してゐたからである。からうじて(2)と(3)が働いたので、私はpreservativeとは呼ぶことができた。preservative (プリザーヴァティブ) とは防腐剤のことである。しかし私の社会観察によれば、防腐剤を支へてゐたのは十代からの若者達である。

グローバリズムの定義

グローバリズムとは、金融資本主義による経済の領域での極左・共産主義のことである。この場合、この勢力の行使する暴力は、上記暴力の定義に挙げた暴力の1から4の分類にある通りである。

イデオロギーの定義

イデオロギーとは、ある特定の思想、論理、理論の正当性の主張を過度に行ひ、これの実現を暴力を以つて実現しようとするに至つたそれぞれの局面に於ける主張のことである。ここに至つた主張を教義またはドグマと云ふ。この場合、例外なく道徳が人間から失はれ、イデ

オロギーを盲目的に信じてゐるが故に、上位者の命令を絶対的な命令と思ひ込み、容易に人間の虐殺を行ふことが正義のためであるといふ狂気に陥る。マルクス主義の歴史が其れを証明してゐる。この歴史的事実はUNESCOの世界記憶遺産に登録を申請すべきである。

[補足説明]

イデオロギーの淵源はキリスト教会といふ宗教組織の教義（ドグマ）にあります。この理由から、イデオロギーの正体は、唯一絶対神擬（もど）きである絶対命令者の存在を前提にした終末思想と方舟思想です。方舟思想は選民思想でもあります。共に私たち日本人の生きる超越論にはそもそもない、無縁の思想です。

超越論の定義

超越論とは、次の二つの原理からなる世界観である。

- (1) 世界は差異である（認識論）。
- (2) 価値は等価で遍在する（存在論）。

(1) の意味するところは、時間的差異とは遅延であり、空間的差異とは隙間であるといふ認識である。時間の本質が遅延であるから、時間には始まりと終りは無いといふ時間認識であり、時間論である。これは、唯一絶対神を信仰する一神教の唯一の直線的時間しか考へない時間論の対極にある時間論である。

人類の歴史の定義の示すところにより、人類の歴史とは世界の差異を常に0にすることの努力の蓄積であり累積であり堆積であるので、超越論の実践的な側面は、二項対立の否定による第三項としての解決を求めることである。これが本来の人間の姿である。そして此れは、一神教の論理が、その唯一絶対神の命令者を中央中心に置く topology からどうしても二項対立でものを考へることを止めることができないことが原因で生まれる現実の対極的にして極端な両方の対立の最終的な解決策に超越論がなつてゐることを意味してゐる。数学的且つ詩的な、即ち象徴的な超越論の叙述は、18歳の安部公房が成城高校の校友会誌『城』に寄稿した論文「問題下降に依る肯定の批判」に詳しい。

(2) の意味するところは、価値論である。ヨーロッパ近代の哲学と宗教学の視点で此の価値論を覗れば、汎神論的存在論である。安部公房は此れを上記(1)も含めて、19世紀のヨーロッパの象徴主義に対して、20世紀のといふ意味で、新象徴主義と呼んだ。

超越論（または汎神論的存在論）は日本民族の、縄文紀元以来1万5000年来の哲学であり、象徴学であり、象徴的記号学であり、象徴的紋様学である。これは古事記の天地初発の文章を読めば明らか。これは日本語がトポロジー言語であり、クレオール語だからです。といふことは今も私たちは縄文紀元に生きてゐる。学の名前として列挙した最後の象徴的紋様学を近代ヨーロッパでは図像学（イコノロジー）と呼んでゐる。勿論これは一神教であるキリスト教の藝術を対象とした象徴的紋様学である。さうであれば、私たちの図像学は、八百万の神々から生まれた藝術を対象とした図像学といふことになります。象徴学であり、象徴的記号学であり、象徴的紋様学を総合して形象学といふ学問があり得る。

これらの科学は、日本の藝能や藝術を理解し、説明することができる。従ひ、海外の大陸の人間たちにも理解され得るやうに、即ち一国の特殊な文化としてではなく、一国の普遍的な文明の問題として、日本人自身が今まで伝えることが出来ないで来たといふ日本人の欠点をこれらの科学によつて、日本人は克服することが出来る。

Topologyの定義

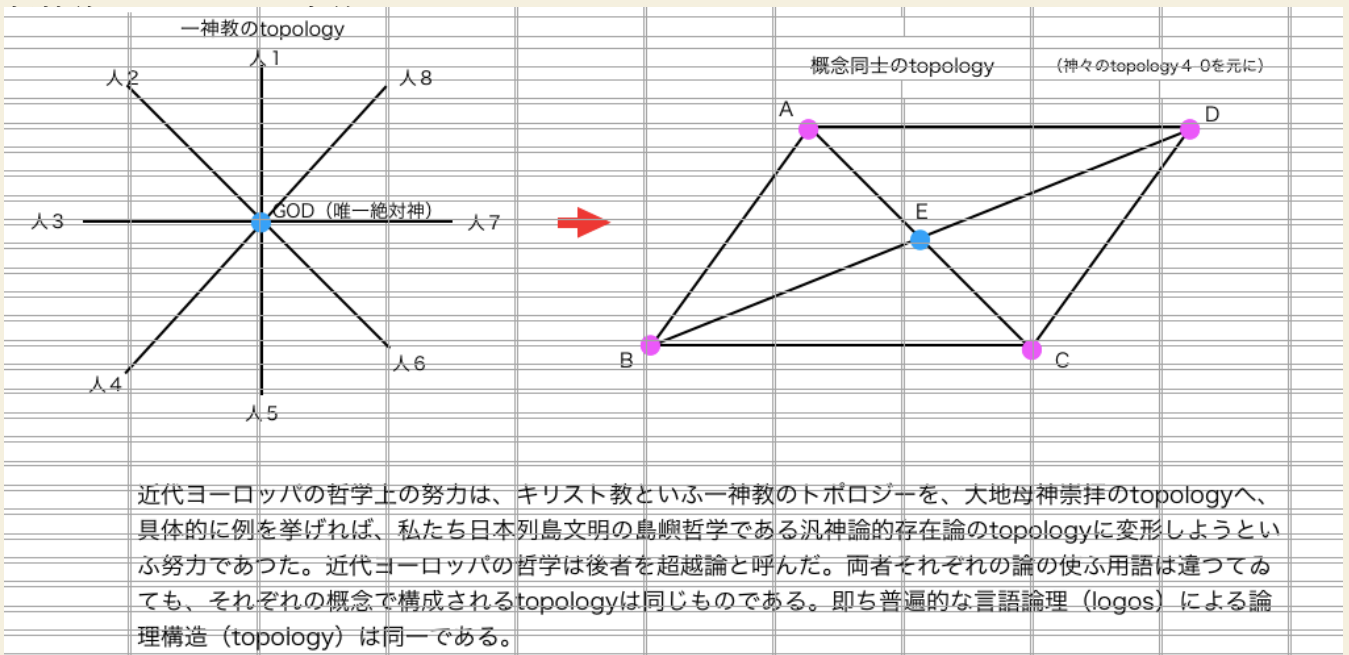
Topology (位相幾何学) とは、接続と変形の数学である。この数学の根底にあるのが超越論といふ哲学であり、この哲学の二つの原理である。日本民族は縄文紀元以来1万5000年のトポロジー民族である。これは古事記の天地初発の文章を読めば明らか。これは日本語がトポロジー言語であるクレオール語だからです。といふことは今も私たちは縄文紀元に生きてゐる。

個衆の定義

個衆とは、意識無意識を問はず、超越論および超越論に基づく topology を受け容れて生活する個人 (personal) の集合 (personals) である。

大衆の定義

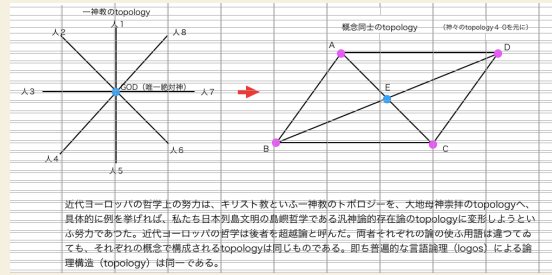
大衆とは、一神教の topology を受け容れて生活する量 (マス) としての個人 (individual) の集合 (people) である。この個人は individual と呼ばれるやうに、近代国家 (nation-state) の社会を構成する人間の此れ以上分割できない最小単位である。



詳細は『安部公房とチョムスキー (8)』(もぐら通信第 81 号) の「7. 一神教と大地母神崇拝を topology で読み解く」をご覧ください：<https://www.docdroid.net/v2p5WaF/81.pdf>

一神教のtopolgyの定義

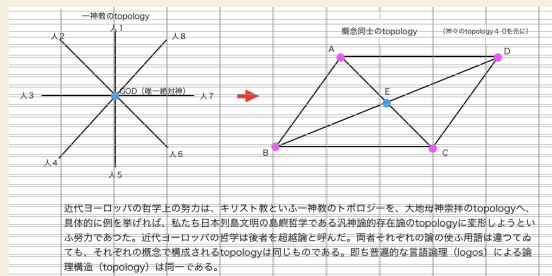
一神教のtopolgyの定義とは、次の左の放射状の図形によつて示されるものである。



詳細は『安部公房とチョムスキー (8)』(もぐら通信第81号)の「7. 一神教と大地母神崇拝を topologyで読み解く」をご覧ください：<https://www.docdroid.net/v2p5Waf/81.pdf>

超越論のtopologyの定義

超越論のtopolgyの定義とは、次の右の並行四辺形に嚙掛の図形によつて示されるものである。



詳細は『安部公房とチョムスキー (8)』(もぐら通信第81号)の「7. 一神教と大地母神崇拝を topologyで読み解く」をご覧ください：<https://www.docdroid.net/v2p5Waf/81.pdf>

リベラルの定義

リベラルとは、leberal arts (自由7科) に関し、特に初等論理学の知識は最低でも持つてゐて、その上で、自国内の問題を、極左の立場ではなく、左翼の立場で、自由な競争を前提に、またアメリカ人の定義する「自由主義の原則」を遵守し国内に自由を実現するために日本人に合ふやうに変形し (以上日本人のために)、他方社会的な不平等に対しても同様に、人類と個人の判断の自由と自律性を大切に (以上人類のために)、問題の解決を図らうといふ個人または組織である。「自由主義の原則」については別途論ずる。

[補足説明]

Webster Onlineを見ると、其の語源から、またその後の歴史的な用例の展開から言つても、日本には英文字で呼べるliberalはそもそも存在しない。日本はプロテスタントの国ではない。あるとすればカタカナのリベラルであるが、これをできるだけ英語の字義に近づけて解釈しても、日本のカタカナ・リベラルにはthe principles of liberalism (「自由主義の原則」) がないし、またliberal artsに関する知識と教養のある人間はゐないし、BROAD-MINDED (度量の広い人) でも全然ないので、カタカナ表記でも、情けない話であるが、その器と知能の程度から言つても、我が国にliberalもリベラルもとてもあり得ないのである。せいぜいが初等論理学の知識があればカタカナ・リベラルと呼んでやつても良いといふ程度のお情けの定義である。

従ひ、日本の国に (左翼、リベラル) といふ組み合わせは、そもそも、存在しない。リベラル単独でのリベラルはあるかも知れないが、この「あるかも知れない」リベラルは、世相の用語法を観れば、実際には色々な思ひ付きの名前で好き勝手に呼ばれてゐる。従ひ「あるかも知れない」リベラルは「好き勝手に呼ばれたい」リベラルである。

以下関係して定義をするために御世話になつたWebster Onlineからの引用をして補足する。赤字は特に定義をするために必要とした文言です。：

liberal adjective

Definition of liberal (Entry 1 of 2)

1

a

: of, relating to, or based on the liberal arts
liberal education

b

archaic : of or befitting a man of free birth

2

a

: marked by generosity : OPENHANDED
a liberal giver

b

: given or provided in a generous and openhanded way

a liberal meal

c

: AMPLE, FULL

3

obsolete : lacking moral restraint : LICENTIOUS

4

: not literal or strict : LOOSE

a liberal translation

5

: BROAD-MINDED

especially : not bound by authoritarianism, orthodoxy, or traditional forms

6

a

: of, favoring, or based upon the principles of liberalism

b

capitalized : of or constituting a political party advocating or associated with the principles of political liberalism

especially : of or constituting a political party in the United Kingdom associated with ideals of individual especially economic freedom, greater individual participation in government, and constitutional, political, and administrative reforms designed to secure these objectives

liberal noun

lib-er-al | \ 'li-b(ə-)rəl

Definition of liberal (Entry 2 of 2)

: a person who is liberal: such as

a : one who is open-minded or not strict in the observance of orthodox, traditional, or established forms or ways

b capitalized : a member or supporter of a liberal political party (see LIBERAL entry 1 sense 6)

c : an advocate or adherent of liberalism especially in individual rights

nonyms & Antonyms for liberal

Synonyms: Adjective

broad-minded, nonconventional, nonorthodox, nontraditional, open-minded, progressive, radical, unconventional, unorthodox

Antonyms: Adjective

conservative, conventional, hidebound, nonprogressive, old-fashioned, orthodox, stodgy, traditional

First Known Use of liberal

Adjective

14th century, in the meaning defined at sense 2a

Noun

1814, in the meaning defined above

liberalism noun

lib-er-al-ism | \ 'li-b(ə-)rē-lij-əm

How to pronounce liberalism (audio)

\

Definition of liberalism

1: the quality or state of being liberal

2

a

often capitalized : a movement in modern Protestantism emphasizing intellectual liberty and the spiritual and ethical content of Christianity

b: a theory in economics emphasizing individual freedom from restraint and usually based on free competition, the self-regulating market, and the gold standard (see GOLD STANDARD sense 1)

c: a political philosophy based on belief in progress, the essential goodness of the human race, and the autonomy (see AUTONOMY sense 2) of the individual and standing for the protection of political and civil liberties

specifically : such a philosophy that considers government as a crucial instrument for amelioration of social inequities (such as those

involving race, gender, or class)

d

capitalized : the principles and policies of a Liberal (see LIBERAL entry 1 sense 6b) party

Synonyms & Antonyms for liberalism

Synonyms

left, leftism, left wing

Antonyms

conservatism, illiberalism, immobilism, right

First Known Use of liberalism

1816, in the meaning defined at sense 1

left noun

Definition of left (Entry 2 of 3)

1

a: the left hand

b: the location or direction of the left side

c: the part on the left side

d: a turn to the left

take a left at the intersection

2

a: LEFT FIELD

b: a blow struck with the left fist

3

often capitalized

a: the part of a legislative chamber located to the left of the presiding officer

b: the members of a continental European legislative body occupying the left as a result of holding more radical political views than other members

4

often capitalized

a: those professing views usually characterized by desire to reform or overthrow the established order especially in politics and usually advocating change in the name of the greater freedom or well-being of the common man

b: a radical as distinguished from a conservative position

First Known Use of left

Adjective

13th century, in the meaning defined at sense 1a

Noun

13th century, in the meaning defined at sense 1b

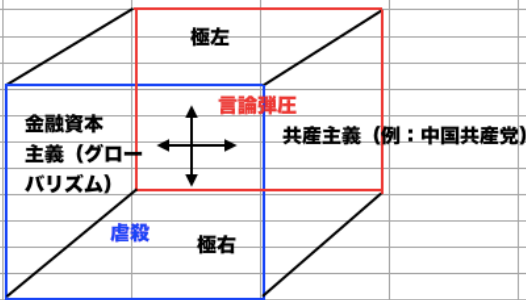
さて、以上の定義に基づき、次に示す「世の中のサイコロ」を得た。私たち善良にして悪意とは無縁に生きる心優しき民草は此のサイコロ用語の「範疇の混同と対立軸の混同」によつてこれらを矛盾だと勘違いをして、頭の中が、従ひ世の中が、混乱してゐるのだ。チェスでいふならばALL UNDONE、将棋でいふならば”無かつたことにしてくれ”、麻雀ならばガラガラポン、博打ならば”さあ、ようござんすか？丁か半か”、借金ならば江戸時代の徳政令の時代である。「世の中のサイコロ」のダウンロードは：<https://docdro.id/gN2xSkR>

世の中のサイコロ

神(God)はサイコロを振らない (アインシュタイン)
といふのは本当か？

20190713
岩田英哉

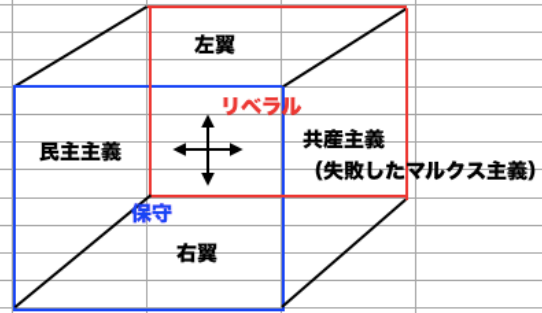
暴力のサイコロ



このサイコロがルーレットに載つてゐる。ルーレットを廻してゐる誰か？
着色した文字と線は文字と面の特定のための識別用であつて、それ以外の他意はない。

20190713
岩田英哉

政治のサイコロ



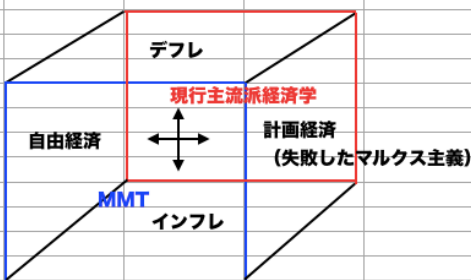
このサイコロがルーレットに載つてゐる。ルーレットを廻してゐるのは誰か？
着色した文字と線は文字と面の特定のための識別用であつて、それ以外の他意はない。

(左翼、民主主義)と(共産主義、リベラル)と(保守、リベラル)の組み合わせは本来あり得ない組み合わせである。(右翼、リベラル)についてはいふまでもない。このサイコロであり得るのは(右翼、保守、民主主義)である。(左翼、リベラル)はあり得ないと本文で述べたところによれば、従ひ(左翼、リベラル、民主主義)もあり得ない。(左翼、リベラル、共産主義)も、以上の定義から、あり得ない。このサイコロの目以上/以外の目は暴力のサイコロを振る結果との組み合わせになる。

ダウンロードは：<https://docdro.id/gN2xSkR>

20190713
岩田英哉

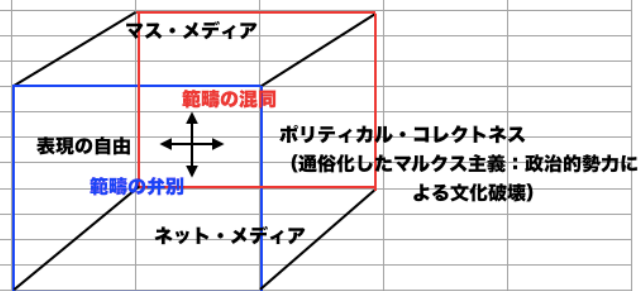
経済のサイコロ



このサイコロがルーレットに載つてゐる。ルーレットを廻してゐるのは誰か？
着色した文字と線は文字と面の特定のための識別用であつて、それ以外の他意はない。

20190713
岩田英哉

文化のサイコロ



このサイコロがルーレットに載つてゐる。ルーレットを廻してゐるのは誰か？
着色した文字と線は文字と面の特定のための識別用であつて、それ以外の他意はない。

現状の組み合わせは(マス・メディア、範疇の混同、ポリティカル・コレクトネス)であり、これに加えて暴力のサイコロ(極左、言論弾圧、金融資本主義(グローバリズム)、共産主義)の目が組み合わせはされてゐる。今の日本は、これであると私は考へる。

現状は(計画経済、デフレ、現行主流派経済学)の組み合わせである。計画経済とは共産主義経済のことであるので、相場を全面的に否定してゐる。即ち、売り買ひといふ人間の根源的なコミュニケーション行為を絶対否定してゐるのだ。

宗教 (religion) の定義

宗教 (religion) とは、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教などの、宗教または宗派の開祖、および唯一絶対神の言葉および開祖の言動を文字で叙述した聖典を有する、唯一絶対神を信仰する教への体系および其の普及のための組織、または仏教のやうに単に其のやうな聖典を有する開祖の教への体系および其の普及のための組織である。

いふまでもないが、日本の神道と呼ばれる自然の道 (ミチ) または神 (かん) ながらの道といふ道 (ミチ) 信仰には「唯一絶対神の言葉および開祖の言動を文字で叙述した聖典」は、ない。従ひ、神道は英語でreligionと云ひ、明治の人が宗教と翻訳した形の信仰形態ではない。宗教と神道では信仰形態が全く異質です。前者は一神教の、唯一絶対神による絶対命令に服する厳格な父権的宗教、後者は多神教の、大地母神 (Great Mother) 崇拜の、あなたが日常知る通りの穏やかにして争はぬ古事記にある通りの母権的信仰。

私見ながら、ミチのミは美称・尊称のミ (御・美)、ミチのチは、イノチ (命) のチだと思はれる。高天原に4番目に立つ宇摩志葦牙比古遲神 (うましあしかびひこぢのかみ) の遅のチ、大国主命の別名である大穴牟遲神 (おおあなむぢ-) ・大己貴命 (おおなむち-) ・大穴持命 (おおあなもち-) などの遅・命・持のチの音も同様だと思ふが如何か。

かく思へば、太安万侶と文章博士たちは、現代の私たちのいふ生命 (life) といふ一個の概念を、漢字でいふ遅・命・持の三文字で表したといふことになります。確かに、遅延、生命、保持といふ漢字を用ひて、今でもチといふ音と概念を私たちは生きてゐる。言霊 (コトダマ) が生きてゐるとは此のことです。かく知れば、古代の口承による伝承を文字に表すといふ此の翻訳の仕事は確かに文明間を相渉 (わた) る国家の一大事業です。文明の問題とは結局文字の問題に帰着するのです。これが本居宣長のなした仕事の意義です。即ち、本居宣長は一国の特殊な文化の問題を論じたのではなく、一国の普遍的な文明の問題を論じたといふことです。

ネット・ヘゲモニーの定義

ネット・ヘゲモニーとは、ネット上に存在する企業のうち (論理層)、「近代国家構造模型図」<https://docdro.id/G4YcHH9> の二つ目の階層にあつて、ネットの特性を生かして、国家権力2と同じ平面で権力2に相当するか、または此れを凌駕せんとする実力を有する覇権企業の持つ覇権 (ヘゲモニー) である。企業の名前を挙げれば、GAF Aと一括して呼ばれる、Google, Apple, Facebook, Amazon等のグローバリズムの企業が此れに当たる。

ネット・ヘゲモニストの定義

ネット・ヘゲモニストとは、ネット・ヘゲモニー (ネット覇権) を一手に掌握する其の業界で支配的な企業または個人が、サービスの利用者に関する検閲を行ふことによつてなる全体主義・ファシズム企業または個人のことである。

ネット・ヘゲモニーの問題は、国家が表現の自由および言論の自由との関係で禁じてゐる検閲 (censorship) を、ネット上で一私企業が密かに行ふことにある。

モナドの定義

モナドとは、モナドとは社会（物理層）およびネット（論理層）の二つの層に存在する全ての価値の単位である。モナドは大小に、全体と部分に、1か多数かに拘らず全て等価で遍在する人・物・事に関する価値の単位である。このモナドには二種類あり、一つは17世紀のライプニッツの思ひ描いたやうな窓のないモナドであり、もう一つは20世紀の安部公房が思ひ描いたやうな窓のあるモナドである。前者を閉ぢたモナド、後者を開いたモナドと呼ぶことにする。

ネット・モナドの定義

ネット・モナドとは、モナドのうち、ネット（論理層）に存在するモナドである。

イデオロギーの定義

イデオロギーとは、主義が通俗化したもの、即ち大衆化し、従ひ当然に通俗化して、理由なく盲信されるに至つた思想である。従ひ、イデオロギーとは大衆の盲信である。

主義の定義

主義とは、ある思想家の唱へた思想を、思想家以外の共感した人々が其の良さを世に伝える過程で、いつの間にか其の正しさが理由なく盲信されて正しいと思はれるやうになつた結果、共鳴者の間に心理的に絶対的な支配の位置を占める思想の権化である。

これが、そのままイデオロギーになり、さう呼ばれる。イデオロギーを奉じる人間は例外なく道徳を喪ふ。従ひ、イデオロギーは、恐ろしいことに人間である筈の当人の精神を殺しもするが、実際に肉体を持つた自分以外の人間をも大量に虐殺するのは共産主義の歴史の示す通りである。

[補足説明]

主義は-ismの和訳である。主義は、主義の定義から、従ひ、低俗な知識の一種である。主義が知識であるからには、主義を奉じる人間は知識人と呼ばれ得て、本当に物を考へた思想家としての知識人から通俗化して俗耳に入りやすい噂話程度に墮した知識人まで、即ちピンからキリまでの知識人がゐる。藝人がピン藝人と呼ばれるのと同様にピン知識人から、キリ知識人まで広くゐることになる。月知識人からスッポン知識人までといつても良い。寄席でいふトリをとる知識人は、トリ知識人と呼ばれ得るが、大家と呼ばれる知識人は是也。

しかしこれらの名称はみな新聞紙、地上波TV業界でのことである。筒井康隆は『俗物図鑑』でこれらの芸人を十把一絡げに電波芸者と呼んでゐる。今思へば、日々藝に精進する藝者さんたちに申し訳ない呼び方であるが（何故なら電波芸者どもは努力してゐないこと一目瞭然であるから）、これが言へるほどに20世紀の当時は何事につけ上等な時代であつたのだ。それ故に、この論考ではしばしば必要に応じて、知識人は痴識人と皮肉を籠めて表記され、風刺され、定義者によつて晴れ時々罵倒される。

この同じことを西部邁氏は「超高度大衆社会」と呼んで次のやうに叙述してゐる。

「いずれにせよ、日本人がそのコミュニケーション活動の範囲を広めるには、みずからの価値構造に内蔵されている葛藤（個人主義の集団化と集団主義の個人化）の意味を自覚しなければならない。その自覚が近年ますます薄らいできていると私は思う。個人主義における相互性が単なる平等主義に堕ち、しかも困ったことに、それは平等を正面から要求するというよりも、わずかに残る瑣末な不平等への嫉妬という形をとるに至っている。集団主義における伸縮性も単なるテクノロジーの道具となり、そこで生じる退屈や焦燥を糊塗するために、オッカльтиズムすらが呼び起こされるといった類の過剰な伸縮ぶりをみせつけている。その結果、日本の大衆社会は高度であるどころか超高度の水準に達しつつある。

私が高度大衆社会というのは、（平等主義と技術主義に懐疑を抱かないものとして）大衆が社会のあらゆる権力を篡奪するような段階のことだ。そしてそれが超高度に達したということは、それらの様々な権力が互いに相克を演じはじめ、その結果、権力の融解現象が起こるようにな段階のことである。あるいは、その融解を食い止めるために、マスコミなどが先頭に立ってムリというまさに空虚な権力の影響力を押し広げるような段階のことである。この世紀末日本はあきらかに超高度大衆社会の相貌を剥き出しにしてるやうに見える。」

（『知性の構造』「第9章 文明の病理とその治癒」170ページ～171ページ。1996年7月8日第1刷発行）

以上のやうに考え来たり、かく西部邁氏の文章を引き写して解る事は、

マス・メディアこそが実は大衆（マス）である……【a】

といふ事である。

それでは、大衆（マス）とは一体なんであつたのであろうか？

大衆（マス）とは、メディアである……【b】

といふ事である。

ここに、即ち【a】と【b】の狭間に、上に定義した通りの、プロパガンダの発明者アメリカ人エドワード・バーネイズの企図したプロパガンダの生まれる余地がある。

プロパガンダの定義

プロパガンダとは、「大衆と、大企業や政治思想や社会グループとの関係に影響を及ぼす出来事を作り出すために行われる、首尾一貫した、継続的な活動」である。

[補足説明]

今ここに至つて此の定義を読み返せば、「首尾一貫した、継続的な活動」をする主語が、恐らく原文が一文ではなく一句であると思はれることから言つて、ない。此の隠れた主語こそが大衆としてのマス・メディアである。即ちマス・メディアは大衆の願望せる世界を体現してゐる。21世紀の今どんなに糜爛して正視に耐えず、三島由紀夫が最後の年に産経新聞に書き残したやうに腐臭に鼻を摘まみたくもなつても、さうである。かくして、

マス・メディアはプロパガンダ機関である


といふ一行が成り立つ。

この問題は「4.2.1 世界観としてのマス・メディア」で論ずる。

(大衆、マス・メディア、イデオロギー、-主義、プロパガンダ、暴力)の視点から、知識人、痴識人、大衆の如何を問はず、職業職種の如何を問はず、これらのことに無防備な人間は、個人に着眼すれば次のやうな顕著な特徴を、私の観察によれば、有する。

(1) 人間の幼稚化：事実・推測・伝聞の識別ができずに、期待・願望と事実を混同する。

(2) 語彙の貧困化：自分といふ個人と国家の間を繋ぐ一連の語彙を持たない。従ひ、社会を失ひ、それ故に感覚と情動だけで文字通りに動く動物的な人間となり、結局は好き嫌いで判断ならぬ判断をすることになる。その結果、趣味 (taste) や好みと好悪の間に本質的な違ひを示す一線を画することができないである。即ち、美とは無縁である。この種の人間は日本の詩人には誠に多く、その他に通俗的な音楽の作曲者・演奏者、散文の世界にゐるにも拘らず小説家に、この現象は顕著である。


従ひ、利休好みも織部好みも、好悪の問題になつてしまふといふのが、超高度大衆社会の「(平等主義と技術主義に懐疑を抱かないものとしての)大衆が社会のあらゆる権力を篡奪するやうな段階」にある今日の日本の姿であり、この国の文化の姿である。もし姿があればの話であるが。この段階を  向養野 たるあなたが21世紀のアヴァンギャルド(前衛)として打ち壊すための考へ方は、次のやうになります。

(1) 平等主義と技術主義に徹底した懐疑を抱くこと

(2) 大衆の一人であることを究極的・決定的に脱すること(箱男の出番である)

(3) 大衆が篡奪する社会のあらゆる権力を殲滅すること。これには個別の権力の名前を洗い出して、その個別権力の発生原因を分析し、原因に対する解決策としての課題を対抗策として考へ、問題解決の日程を組み、実行すること。この原因分析以下対抗策に至るまでの解 (solution) もまた冒頭掲示した「近代国家構造模型図」にある。

隣人思想といふ「化物退治」をし、これを「絶滅」し「抹殺」するとまで考へて激越な



発言をした安部公房〔註4〕の読者が、「大衆が篡奪する社会のあらゆる権力を殲滅する事」を考へずになくてどうするものか。何故なら、大衆こそ隣人思想の温床であり、ヒューマニズムといふ偽善の温床であるからです。安部公房が見抜いた通り〔註5〕、これが欧米の近代文明500年の植民地主義と同類同相の思想であつた。勿論、安部公房の考へはイデオロギーではない。そうであればこそそのマルチ・メディアの、ジャンル横断の越境者であり、そのやうなバロックの藝術家である。また、それ故に日本共産党員になつたといふ強烈な、存在を賭けたIronie（イロニー）は余人にはとても真似することはできない。隣人思想の絶滅を思い出して、ここに安部公房の読者の、大衆化し従ひ通俗化した「戦後」も漸く終はるのである。私のものの言ひ方は余りに辛辣であらうか。

この論考が「終りし道の標べに」立つ存在への立て札に、S・カルマ氏の物語の最後にあの映写幕に映つた「世界の果て」と題した存在への立て札に、なることを願ふ。これらの立て札は、際限なく繰り返されるあなたの新たな出発のために、安部公房によつて文字通りに板の上で、その上に原稿用紙を置いて書かれたのであつた。安部公房のすべての作品は存在への方向を示す標識としての立て札である〔註6〕。

〔註4〕

この激越なる言葉は、20世紀の主題として安部公房が三島由紀夫に語つた言葉です。（『二十世紀の文学』全集第20巻、64ページ下段）

〔註5〕

安部公房の欧米の植民地主義に基づく文学の欠陥の指摘について次のやうに語つてゐる（『安部公房文学の毒について～安部公房の読者のための解毒剤』（もぐら通信第55号））の「0。二十一世紀の安部公房論」より：

「安部公房の文学を一語で安部公房文学と一つらなりに呼んで、安部公房の文学の毒についてお伝えしたいと思ひます。

何故、こんなことを書くかと言ひますと、安部公房を先の戦争後の15年間、即ち1960年以前までの、即ち経済の歴史としては日本の国が高度経済成長を成し遂げた10年間の時間以前の戦後直後から1950年代末までといふ時代に押し留め、時代的な其の時間の長さに限定して評論し、当時（戦争直後であつたが故になお一層）流行した前衛やアヴァンギャルドといった言葉との関係で論ずる事には、もはや限界のあることが明白になつた、いよいよ、時代だと思つたからです。

西暦2017年1月20日に第45代のアメリカ大統領に（不動産業で富を築いた）トランプといふ人物が就任したといふ歴史的な事実が、この時機に私に此の一文を書かした複数の理由のうちの一つです。この、500年前から世界を支配したヨーロッパ文明が限界に達して今起きてゐる此の世界史的な激動の変化を前にして、安部公房の文学を論じたい。兼ねて思つてゐる「二十一世紀の安部公房論」の一つに繋がるやうな、この一文が二十一世紀の今も新しく「前衛的」な考察であることを願つてゐます。二十世紀の文学論とは異なり、二十一世紀の文学の世界に政治を持ち込むことは控へたい。たとへヨーロッパの白人種にとつては大航海の500年であつたでせうが、他方それ以外の地域の有色人種と民族にとつては、日本民族も含めて、大虐殺の500年であり、安部公房の言葉を借りれば、次のやうな大虐殺の500年です。さて、この歴史上の事実を思ひ出した上で、私たちは、どのやうな二十一世紀の文学を創造するのか。安部公房の言葉に耳を傾けませう。

「この前もテレビで大航海時代なんでロマンチックな特集番組をやっていたけど、要するにあれは略奪農耕なみの乱暴な植民地収奪じゃないか。血も凍るほどの第一期の植民地時代、皆殺し政策だからね、やるほうはテレビゲームはだしの面白さだろうけど、やられる側はロマンチックどころの話じゃないよ。」
（『錨なき方舟の時代』全集第27巻、159ページ上段）

「けっきょく世界は植民地支配国と、被支配国の二つに分けられる。（略）ところがなぜか日本は植民地化されなかった。地政学的には当然侵略の対象になってしかるべきアジアの一角にありながら、なぜか支配をまぬかれた。偶然か必然かはさておいて、おそらくアジアでは唯一の植民地化されなかった国だろう。だからもし日本の特殊性を言うなら、文化だとか風土だとか伝統なんかではなく、きわどいところで植民地化をまぬかれたという点…… [註A]

——要するに偶然の結果だということですか。

安部 必然が意識された偶然だとすれば、やはり偶然と言ってもいいでしょう。要するにどこの国でも、植民地化の運命さえまぬかれていたら、日本と同じようなコースをたどれたかもしれないということが言いたかった。この問題に対する日本人の鈍感さはまさに西洋人なみだ。だから日本のテレビがポルトガルの大航海時代を祝う式典を中継して、ひどくロマンチックな解説をつけて、西と東の文化の交流の記念だとかなんとか一緒になって手をたたいてみせたりする。文化の交流どころか、一つ間違ったら植民地化の先兵になりかねない連中だったんだ。裸の子供のところをライオンが入ってくるようなものさ。

そして運よく食用にならずにすんだ日本という子供は、遅ればせながらローロッパ式の近代化をとげ、遅ればせながら植民地支配の仲間入りをしてしまう。ところが先輩たちにきんぎんうまい汁を吸われてしまった後だったから、戦火による略奪というひどく不器用な手段にたよるしかなかった。

いわゆる発展途上国に見るべき文学がないのも、けっきょくは植民地収奪の結果だと思う。発展途上国にも文学があり、その民族のためのすぐれた文学が生まれていると主張する人もいるけど、ぼくはそう思わない。すくなくとも世界文学、あるいは現代文学という基準では、文学と言うにたる文学はない。

逆説的に言えば、だから現代文学は駄目なんだとも言える。西欧的な方法をよりどころにしているから駄目なのではなく、植民地主義の土台にきずかれたものだから駄目なんだ。反植民地主義的な思想にもとづく作品でさえ、植民地経済を基礎にしていた国からしか生まれ得ない。メフィストフェレスなしにファウストがありえないようなものさ。（『錨なき方舟の時代』全集第27巻、159ページ下段～160ページ上段）

[註A]


アジアの中で、欧米白人種（キリスト教徒）諸国の植民地化を免れたのは、吾が日本国の他には、タイ王国だけです。

[註6]

[モデルとしての小説]

二十歳の安部公房は、『没落の書』（1944年11月21日）の中で、次のやうに書いてあります。十八歳の論文『問題下降に依る肯定の批判』と同じで、アンドレ・ブルトンならば『シュールレアリスム宣言』に相当する宣言書といふことのできる『没落の書』といふ安部公房自身の小説に関する小説観についての文章です。

「私は唯一の解決者たる宿命を拒みはしない。私は自分が他愛の義務を、自分の詩魂の内に感ずる事を人々の為に祝福する。私は総てを展開しよう。だが常に注意し給え。解決は言葉の最後のみ与えられるものではない。君たちは書き出す人でなければならぬ。私は単に暗示者だ。絵具と構図は君たちに任せる。私はモデルを象徴しよう。それは先ず以下書き述べる概念の古塔だ。すぐれた頭脳の所有者である君達は、次の象徴詩で総てを理解するであろうけれども、尚も論理的解決を望む特殊の人々の為に、別に私自身でも一つ絵を書き上げて見よう。[註] それも恐らく新世紀の存在論として、重要な思



想的価値を有する事になるであろうけれども、今此処では述べたくも無いし、又其の必要も認めない。私はむしろ此の古塔の詩の方を愛する。

[註]

存在論的現象批判、並びにその構造

(全集第1巻、141ページ上段) (傍線引用者)

と言つてから、「概念の古塔」といふ散文詩が書かれてゐます。この詩の御一読をお薦めします。

私が『没落の書』から引用して、その趣旨をまとめると、次の通りです。

(1) 安部公房は小説をモデル(模型)として製作したのだといふこと。(これが、普通の作家とは異なる、安部公房の小説の一大特徴)

(2) このモデルは象徴的なモデルであつて、これを読者に提示するので、あとは読者よ、あなたの人生を描く構図と絵の具の選択は、君たちに任せる、自分固有の人生を生きよといふこと。自分の人生は自分の白紙のキャンバス(画布)に自分で描いてくれ。それが生きる事だ。と、安部公房の小説は、さう云つてゐる。それ故に、安部公房はいつも存在への立て札を立てる。

(3) 安部公房のどの作品も、安部公房の「詩魂の内に感ずる事を人々の為に祝福する」、そのために書かれてゐること。(安部公房は、この精神をリルケに学んだ)

(4) このモデルは、存在論的現象批判によるものであり、その作品構造もまた、さうであること(これが安部公房の「新象徴主義哲学」、即ち汎神論的存在論)。22歳の論文『詩と詩人(意識と無意識)』に此の事は詳しい

このやうな、安部公房の志を読みますと、安部公房の読者であるといふことは、幸せなことであり、私たちは稀有な読者であることなのだと思います。こんなことを嘗て考へた言語の藝術家はゐないし、読者もゐない。これが、安部公房の読者がSFの読者と重複してゐることの理由であり、両方の文学に偏見なく自由に往来する私たちだといふことになります。

存在の方向へと生きるためのモデルを掲示板を掲げることを「板を掲げる」と安部公房は次のやうに言つてゐます：

「だが実は地球に於いて人類の歴史が始まって以来、高く新しき板を掲げたニイチェがやつと百歩進んだのに過ぎないのだ。ドストエフスキは幾度も立上つたが二三歩毎に息切れがした。」

(『問題下降に依る肯定の批判』全集第1巻、15ページ下段) (傍線は原文傍点)

文化の定義

文化とは、言葉を正しく使ふことである。

人類の定義(言語視点の定義)

人類とは、言語(language)と言葉(word)を用ひて意思疎通を図る霊長類である。

[補足説明]

しかし人類のやる事なすことは自ら名付けた霊長類といふ名前を裏切る事ばかりである。人類以外の霊長類であるマントヒヒやオランウータンやゴリラやチンパンジーや猿や(私の好きな)ナマケモノは名前に恥じない生活を営んでゐることを人類は銘記すべきである。人類は恥を知つて、国際会議で名前を霊短類と変へては如何か。



この動画を観ると、霊長類チンパンジーも見事にスマートフォンの利用者であることが理解できることであらう：https://www.instagram.com/p/Bwf080_Bfby/

しかし知能のあるのは霊長類だけではない。鳥類である鴉もまた知能を有することはいふまでもない。【動画】蛇口の栓を開けて水を飲み水浴びするハシボソガラス：<https://www.asahi.com/articles/ASM3161QTM31ULBJ00W.html>

人間の定義（人間以外の生物視点の定義）

人間とは、人間以外の生物にとって地球上最も有害なる動物である。

二階層戦争論の定義

二階層戦争論とは、21世紀の戦争は、物理層（現実）と論理層（情報通信ネットワーク層）の二層からなるといふ戦争理論である。

[補足説明]

この二つの層を結合して相乗効果を上げた国家、メディア、組織、個人に、あらゆる意味での富が集中する。戦争ならば勝利が、メディアならば覇権（ネット・ヘゲモニー）と利益が、組織ならば市場その他の領域の独占と利益が、個人ならば金が、集中する。当然のことながら、独占は国家、メディア、組織、個人に道徳の喪失と墮落と退廃といふ問題を生むので、これを排除し又は未然に防いで、如何に此の二層の均衡ある世界を創造するかといふことが喫緊の課題である。

このやうに考えると、やはり開かれた世界のみならず、閉じた世界もあり、二つの均衡と実現を図ることに、それぞれ四つの主体に於いて、なり、このやうな世界を設計することが大切である。ネット・メディアの主体であるネット・モナドには開いたモナドと閉じたモナドの二種類が、あるひは一種二態があるので、ネット・メディアを中心に世界の設計をすることが出来る。マス・メディアは「プロパガンダの定義」の[補足説明]にて既述の通り、大衆を/大衆により/大衆ために/プロパガンダする(propagandize)プロパガンダ機関であるので、このやうな世界の設計には役に立たない。何故なら、この世界の住人は、大衆(people)ではなく、個衆(personals)だからである。

二階層戦争論の詳細は『二階層戦争論～時代と世界のための処方箋～ [Made in Japan]』（もぐら通信第104号）を参照のこと。同号のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/mXowtv8/104.pdf>

それから、これから に活躍してもらふために、このキャラクターには学問的根拠があるのだといふ厳粛なる事実を読者に知ってもらふために、次の定義を掲げる。

糞尿学の定義

糞尿学とは、「糞・尿に対する研究・考察を言い、日本語では糞便学（ふんべんがく）

とも言ふ」学問である。「また、糞尿への興味や、糞尿を愛玩する性癖・性的嗜好、糞尿に関するユーモア、糞尿や糞尿愛好等を主題とした文芸作品等も指す。」

(出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/スカトロロジー>)

[補足説明]

この糞便学又は糞尿学は英語でscatologyと云ひ、後者即ち「糞尿学に於いて糞尿趣味を指す場合はスカトロと略されることもある。これらに関係する人間を指してスカトロジストと呼ぶ。」と云ふのがWikipediaの定義であるが、この論考では、前者即ち糞便学と糞便趣味についても同様の略称とカタカナ呼称を適用する。

「スカトロロジーという語は、古代ギリシア語で糞便を意味する「スコール(σκωρ)」に由来する語幹 scat- と、「～学」を意味する 英語: -ology の合成語である[1]。学問としてのスカトロロジーには、排泄という生物の基本的な機能に関して研究する生物学的研究のほか、哲学・心理学的な研究、糞便にまつわる文化・芸術に関して研究する社会学的研究、文化圏毎の糞便のあり方を研究する文化人類学や民俗学的研究等が存在する。一方、興味・嗜好としてのスカトロロジーについては、排泄行為や糞尿を通じて性的興奮を得る事例等が知られている。このような嗜好に関しては糞尿愛好症の項を参照されたい。」

安部公房の虚構の世界での便所への偏愛と窺視癖、ゴミ捨て場への執着は、今まで世界中の読者によつて論じられてゐないのではないかと思はれる。安部公房には『便器にまたがった思想』と云ふエッセイがある(全集第17巻、108ページ)。又『方舟さくら丸』の後半の密かなる主人公は何でも飲み込み嚥下咀嚼する便器である(私は「偉大なる便器」と呼んでゐます)。安部公房を理解するための参考になると思ひますので、もし此の学問にご興味のある方は、マルタン・モネステイエ著『図説 排泄全書』(原書房。吉田春美・花輪照子訳)をお薦めします。私の愛読書です。帯を転載します。



近代日本文学にあつては、芥川龍之介が『好色』と云ふ糞尿と性愛に関する平安朝を舞台にした優れた短編を書いてゐる：https://www.aozora.gr.jp/cards/000879/files/90_14976.html これは芥川の佳品の中で私が最も愛するものの一つです。

便所もまた秘されたるコミュニケーションのためのメディア(空間媒体)一例へば便所の落書きを見よーである。

従ひ、糞尿学に関係して、最後に、生殖器官・排泄器官社会論仮説の定義をします。

生殖器官・排泄器官社会論仮説の定義

生殖器官・排泄器官社会論仮説とは、生殖器官と特に排尿器官が同一部位である事実を以って人間の意思疎通（コミュニケーション）の国家から個人に至るまでの問題の解決を「近代国家構造模型図」に拠つて図らうと云ふ仮説理論である。

排泄といふ上位概念を思へば其れが何かはお判りの通りであるが、この理論は下位概念のうちの排便といふ固体ではなく、排尿といふ液体に関する部位が生殖・排泄共に同一であるといふことに着眼することを以って、都会に住む人間個人の孤独から高層住宅での隣人同士のバラバラ殺人事件に対する、言語的観点のみならず、より具体的に社会的、心理的、精神的、身体生理的視点からの、理解と説明をもたらすものである。

それでは大便はどうするのかといふ問いがあらうが、これは小便といふ液体に対するに固体であるからには、そして性の如何を問はずに同じ形をしてゐる部位であるからには、後者とは対照的に正反対の論理展開が、前者にはあり得ることになる。これら二つの部位を併せて上掲の理論仮説の総称とし、名前とした次第である。

[補足説明]

『哲学の問題101 (9) 性交 (sex:セックス)』 (もぐら通信第97号) より引用します:

「あなたに考へてもらひたい、何故生殖器官と排泄器官 (排尿器官) は形態としても部位としても同一であるのだろうか?

従ひ、或いは、何故『箱男』のショパン少年は女ピアノ教師の排泄を覗き見たのだろうか? それも鏡を使つて。或いは『方舟さくら丸』の主人公もぐらもまた地下の閉鎖空間の中でとは云へ、否、閉鎖空間の中であるからこそ孤独の中であるとは云へ、しかし、四囲の壁のない場所に (何でも飲み込む) 便器を置いて排泄をし、あまつさへそこに跨 (またが) りながら食事をしたり世界地図を広げて想像の中の自由な旅をしたりするのだろうか?

かうして考へて来ると、安部公房の文学の素晴らしさがよくわかる。間違ひなく、金儲けを考へ立身出世を少しでも考へる人間に、この文学を理解することはできない。何故なら、四壁を取り払つての生殖と排泄といふ行為は、公衆の中での金儲けと立身出世の対極にあるからである。 [註1]

[註1]

このもぐらの感覚と論理については『もぐら感覚15:便器』 (もぐら通信第13号) に詳しく論じたので、読んでほしい。もぐら通信第13号のダウンロードは: <https://docdro.id/bZ6PpUo>

また、この感覚と論理とリルケの関係については、『共同体幻想を否定する文学』の「負け切った男リルケ」に戦時中の成城高校時代に何故、リルケを読んだのかといふ意義が語られてゐる。

「安部 そう、あのころのぼくは絶対への帰属というものを拒否してくれる思考に餓えていましたのでね。それで、ヤスパースにひどく傾倒し、そのヤスパースの延長として、 Rilke を心の支えにしたんだ。

古林 満州と内地という環境の相違だったろうけど、ぼくなんかの場合にはヘッセやカロッサが比較的手にはいり やすかったというせいもあって、それを読みふけた記憶があるんですが、安部さんは彼らにはあまり興味がありませんでしたか。

安部 結局、負けきったという状態が好きだったのだなあ、Rilke のね。カロッサにしてもヘッセにしても、やっぱりどっかで勝っているでしょう。あの時代に、僕はもう勝っている人間が全部いやだったんだな。だから、負けこんだ男としてのRilkeに惹かれたんだと思うね。ドストエフスキーの次にRilkeが好きだった。」


(全集第23巻、295ページ下段) (傍線引用者)

安部公房の最初の発言の傍線部の一行と二つ目の傍線部の一行は、そのまま、公衆と私の孤独および性行為と排泄行為の二つの一對の組み合わせの關係の、特に何故安部公房がRilkeを読んだかの、説明になつてゐる。勿論、安部公房の此の発言によつて、ヤスパースといふ哲学者も、安部公房の読者にとつて読まれるべき哲学者の一人だといふ事になります。この原稿を書いてゐる時点で、私は未読です。

(略)

最後にもう一つ余計なことを付け加へれば、道徳といふ言葉を聞いて直ぐに思ふのは老子の『道徳経』です。この第1章に此の哲学者の思想の本質(エッセンス)が凝縮されてゐますが、続く其の応用編の最初の章である第2章は、谷の底を流れる一筋の川の水の話で、これは第1章で論じた道(タオ)の形象(イメージ)を語つたものです。谷とは勿論女性の秘所の凹、即ち存在の窪みであり、一筋の川の流れとは此れも勿論女性の愛液の隠喩(メタファ)です。かくして、私の道徳といふ概念の認識は、道徳の根底には、プラトンの描くソクラテスのいふ通りにeros(知りたいといふ根源的な思ひ)があり、これが肉体の男女の性愛の結合と交換(または交歓)から高度に抽象度の高い憧れ(これも知りたいといふ根源的な思ひ)である概念の結合と交換の世界、即ち言霊の産霊(むすび)の世界までを貫く棒の如き思ひがあるといふことなのです。何しろ老子の門には森羅万象が出たり入ったりするので、この言ひ方も赦されるでせう。老子曰く「玄の玄、衆妙の門なり。」玄の玄とは、存在の存在といふ意味です。10代の安部公房は此れを存在自体と呼び、終生これになりたいと願つた(『中埜肇宛書簡第8信』(1946年12月23日付)、全集第1巻188ページ下段)。辛辣なもの言ひをする安部ねりさんから直接電話越しに聞いた言葉の語彙を其のまま使ふことは余りにも露骨ですから、私の言葉に直していへば、安部公房は非常に女性が好きでした。

即ち、エロス(eros)と性と哲学(形而上学)と精神と靈魂と肉体と「私の中の「私」」と現実と夢との關係の結合に関する説明は、賢者にあつては、古今東西を問はずに同じだといふことが、言ひたい。但し、唯物論者といふ愚か者を除いては。」

用語の定義の章の最後に古事記の中から糞尿学に関係する大事な大宜津比売（おほげつひめ）の逸話を引用したい。生殖器官と排泄器官は神聖な器官であり、そこから食べ物が生まれると云ふ何か私たち人間が生きるために必須必定の大切な命の器官であるといふことが解ります。かくして、大宜津比売（おほげつひめ）は の祖先なり。

「高天原を追放された須佐之男命（すさのおのみこと）は、自らの罪を贖（あがな）うため、神々に供えるための食物を大気都比売神（おおげつひめのかみ）（「神生み」で生まれた大気都比売神と同じ。26頁参照）にお求めになりました。大気都比売神は、鼻、口、尻から、いろいろな美味しそうな食べ物を取り出して、料理して差し出しました。すると須佐之男命は、その様子をご覧になって、大気都比売神が食べ物をわざと穢して差し出したのだと勘違いなさいます。須佐之男命は大気都比売神を殺しました。

すると、殺された大気都比売神の体から、次々と大切なものが生ったのです。頭からは蚕（かいこ）、二つの目からは稲、二つの耳からは粟（あわ）、鼻からは小豆、陰部からは麦、尻からは大豆が生りました。これらを拾い上げさせたのは、天地初発の時に高天原に成った神で、別天神（ことあまつかみ）の一つ柱（ひとはしら）とされる神産巢日神（かみむすひのかみ）です。後に神産巢日神はこれらを「種」として地上にお授けになります。これが五穀の種の起源なのです。排泄物から料理を作った神の屍から五穀が生ったことは、排泄物はやがて大自然に還り、また食物になるという「物質循環の仕組み」を暗示しているので章か。この逸話から、排泄物も資源であることに気付かされます。」（竹田恒泰訳『現代語 古事記』の「八岐大蛇」の章、54～55ページ）

須佐之男命は、父親の伊耶那岐神（いざなぎのかみ）が黄泉の国から脱出をして穢れを川の水で祓ふ時に、鼻を洗ふことによつて生まれたことと、この条（くだり）の「大気都比売神は、鼻、口、尻から、いろいろな美味しそうな食べ物を取り出して、料理して差し出し」たこととは関係のあることではないでせうか。ここで大切なことは、汚いか綺麗かではなく、体にある凹（穴）と云ふ凹から食べ物が大気都比売神によつて取り出されたと云ふことにあります。安部公房の読者には云ふまでもなく、この凹は存在の穴であり、隙間であり、命の源泉の形象です。私たちの体にある三つの穴はそれほどに尊い。これが私たち日本人の糞尿学の起源であり、料理の起源であり、健康の起源である。私の着想した生殖器官・排泄器官社会論仮説も此の延長にあるといふことになります。

さうして更に、女神が殺されることによつて五穀が生まれた。五穀の5は奇数で、高天原の数字です。従ひ、神産巢日神が現れて、「種」として地上にお授けにな」ったのでありませう。かうして思へば、大気都比売神の体の凹（穴）の「鼻、口、尻」も3といふ奇数で、この奇数もまた高天原の数字です。それ故の、また、五穀豊穰なのです。云ふまでもなく、従ひ、3も5も神聖なる数字です。従ひまた7も。建速須佐之男命も天照大神も月読命も3といふ数字即ち左右と真ん中（鼻）といふ均衡（バランス）から均衡を破つて生まれた。3は高天原0を構成する数字です。これをtopologicalに折り返して展開すれば高天原1が生まれることは既述の通り。

このことは、このまま縄文紀元の日本人である私たちが、あの縄文土器を使つて煮炊きをして調理をしたときの思ひであり、思想であり、哲学であり、信仰であつたといふことを知ることが大事です。このことは別に稿を改めて『縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く』で論じますが、この古事記の大気都比売神の逸話をこのやうにそのまま正直に、

また素直に、即ち文字通りに、受け取ると、縄文土器の紋様が何故三階層になつてなつてゐるのかの説明がつかますし、私たちは古事記の世界の叙述と現物の縄文土器との関係を理解することができます。即ち、時空を超越して、即ち超越論に拠つて。今ここで『縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く』で論じる私の仮説を申し述べれば、縄文土器の此の三階層は、私たち祖先が具体的に思ひ描いた高天原の三階層の形象なのではないでせうか。縄文土器は縄文紀元の日本人の共有してゐる、そして21世紀の今に至るも依然として現物として私たちの共有してゐる、超越論およびtopologyに基づく、THE VISION (ザ・ヴィジョン) です。縄文土器は私たちの宇宙観を表してゐる。

さて、大気都比売神の豊穰なる死と、死による宇宙の生命が三つの体の穴から蘇生する五穀に関して此処で思ひ出すべきは、高天原が3、5、7といふ三つの奇数で出来てゐて、折り紙と同じトポロジーの図形であること、また和歌を構成する5、7、5、7、7はこのトポロジーの、天地(あめつち)のうちの、天に対するに地(つち)での再現であり、かく和歌は其の様式からいつて歌ふこと其のままに高天原に奉納される歌謡であること其の他のことは『安部公房とチョムスキー(8)』(もぐら通信第81号)の「7.2 大地母神崇拜である神道のtopology」で詳述しましたので、これをご覧ください。同号のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/xI7ha5G/81.pdf>

この章の最後に「近代は爆発的発明の歴史である」表をご覧ください。次章以降メディアを論ずるために参照します。高天原に無関係なやうに見えてゐて、実は高天原といふ存在の三階層の超越論的な空間に大いに関係のある一覧表です。ダウンロードは：<https://docdro.id/J7B5N7o>

20190717 岩田英敬		近代は爆発的発明の歴史である									
用語と概念	ヨーロッパ域内					世界中					
	16世紀	17世紀	18世紀	19世紀	20世紀		21世紀				
経済	資本主義	東インド会社				第1次冷戦 1948 (米ソ)	第2次冷戦 1979 (米ソ)			第3次冷戦 2019 (米中)	
政治	民主主義		フランス革命	マルクス主義	ロシア革命						
発明者				ノーベル	ノーベル	アインシュタイン	米国防務省	Steve Jobs	この世紀の次の発明物・原理の発明者・発見者は誰か？		
発明	爆発 (explosion)	印刷術		ダイナマイト	ダイナマイト	原子爆弾	インターネット	smart phone (mobile)	AI	この世紀のこの後の爆発的発明は何か？	
戦争	経常資源	宗教戦争	30年戦争		第一次世界大戦	第二次世界大戦			第三次世界大戦		
紙のメディア(媒体:マス・メディア)の時代										ネット・メディア (ネット媒体)の時代	
近代では発明の爆発の都度戦争が起きる。21世紀の発明上の爆発は何か？ 爆発は必ず大衆化、即ち通俗化を起こす。物理層と論理層の発明に関して、果たしてこれを許すか否か、肯定するか否定するかが21世紀のこれからの問題となるだらう。この爆発を発明爆発と呼ぶことにする。											

最後の最後にもう一つだけ。縄文紀元に生きる私たちは、間違ひなく、縄文土器の調理と煮炊きと食前食後に、和歌の様式がさうであるやうに、同じ様式による、といふことは和歌かも知れぬ呪文を唱へたといふことです。これを祝詞(のりと)といふものか、それとも祓詞(はらひことば)といふものか、あるひは第三の詞(ことば)があつたのかは後日の談とします。

さうしてこの呪文の形式は超越論でありますから、時間の初めも終わりもない。即ち、呪文の最後と次の時間の最初がメビウスの環のやうに捻り接続されて永遠の自己再帰性を保証された様式である筈です。戴きます、ご馳走さまでしたといふやうに、です。

この章の最後に「近代は爆発的発明の歴史である」表をご覧ください。次章以降メディアを論ずるために参照します。高天原に無関係なやうに見えてみて、実は高天原といふ存在の三階層の超越論的な空間に大いに関係のある一覧表です。何故ならば、縄文土器はメディア（媒体）であるからです。さうであれば、弥生式土器もまた土器としてメディアであるのではないでせうか。更に、縄文土器と弥生式土器がメディアであるならば、銅鐸もまたメディアではないでせうか。一体それがどのやうな世界であり、社会であつたか。縄文人の世界観によつて社会観も定まります。

しかし、この社会は上記に定義したやうな近代資本主義と民主主義からなる社会ではない。さうであれば、物事を考へる順序として、近代資本主義と民主主義の上位概念である用語を用ひて、その政治の仕組みはいかなるものであるか（政体）、その経済の仕組みはいかなるものであるか（経済体）、これらの仕組みの下部構造である日本人に特殊な文化（文化体）と日本人に普遍的な文明（文明体）は如何なるものであるかを問ひ、これに答へるといふ思考の順路を歩むことになるでせう。必ず答へが出る筈です。古代ギリシャの哲学者ソクラテスがプラトンの『国家』の中で驚嘆する隠喩（メタファ）、即ち国家を人体の譬喩（ひゆ）で論じると何とまあこんなによく国家の理解が容易にでき説明できるのだらうといふ隠喩は、縄文紀元にも現代の21世紀にも依然として時間を超越して生きてゐる。

メディアといふ体（たい）の定義を再掲します。

メディアの定義

メディアとは、何かと何かを接続する物・事・人である。この接続は言語によつて行はれる。

[補足説明]

この接続は、報道、報知、連絡、相談、通達、推薦、提案その他用語の格と用語発信者・受信者が誰かによつて様々な言葉で言ひ換へられてゐる。感情の領域では、恋する、愛する、セックス（性交）、愛撫、抱擁、喜び、悲しみ、苦しみ、憎しみ、憐れみその他、要するにメディアとはコミュニケーション（意思疎通）であり、コミュニケーションとは意思疎通を図る行為および其の結果または成果のこと、即ち動詞と名詞としての媒体（メディア）である。即ち、かく考へれば、

メディアとはコミュニケーションである。

さて以上で、此処で上記「1. 国家とは何か」の「近代国家構造模型図」から近代国家の近代といふ二文字のとれてある古今東西に通用して普遍的な「国家構造模型図」

[<https://docdro.id/G4YcHH9>] と国家に関係する用語の定義の章となつた所で、この章を終はり、いよいよメディア論に移ります。

かく縷々定義を重ね、考へ来たり論じ来たりて、この政治の定義に至る。

政治の定義

政治とは、「国家構造模型図」にある通りの三階層の政体に於いて、国民国家（nation-state）および国民の利益のために、経済および政治、並びにこれら二つの領域の下部構造である文化、即ち国民の保持する伝統と歴史を一義的に大切にして、問題解決のために権力を執行し（第一層）、行使し（第二層）、および実行する（第三層）ことである。

[補足説明]

この政治の定義から逸脱するものを一括して左翼と呼んで構はない。左翼の定義を再掲して吟味してみよう。

左翼の定義

左翼とは、相場と市場を否定するものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を外国の伝統と文化および宗教に求め、同時に外国の勢力と結託してまでしてこれを実現しようと考へ行動する個人もしくは組織のことである。

保守の定義（一般の定義）

保守とは、相場と市場を否定しないものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を自国の伝統と文化および宗教（religion）を大切にすることを第一の前提にし、この前提に拠つてこれらの継承と伝達を其の民族の日常生活の常識に求めてこれを実践する個人もしくは組織のことである。

日本の保守の定義（個別の定義）

日本の保守とは、相場と市場を否定しないものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を自国の伝統と文化を大切にすることを第一の前提にし、この前提に拠つてこれらの継承と伝達を其の民族の日常生活の常識に求めてこれを実践する個人もしくは組織のことである。

右翼の定義

右翼とは、相場と市場を否定しないものの考へ方であつて、且つ政治的・経済的・文化的な問題の根源的な解決と解決法を自国の伝統と文化および宗教に求める考へ方、または其のやうに考へる個人もしくは組織のことである。

このやうにして定義を眺めると、左翼および共産主義に対して、右翼ではない保守はないといふことが判る。逆に云へば、保守を自称するならば、その保守は個人であれ組織であれ（左翼に対して）右翼である。この右翼の定義から宗教を取り外すと、日本の保守の定義である。とすれば、やはり、定義中の宗教といふ用語の有無を巡つて、右翼は右翼であるといふことになり、無ければ保守は保守であるといふことになる。

結局、明治維新このかた、欧米白人種キリスト教徒の国である列強諸国に対抗して、日本人は其れまでの国家経営を構成する柱のうちから古代になした陰陽五行習合を捨てて伊勢神宮に参詣するやうになつた（皇室）、これも古代になした神仏習合を廃仏毀釈により捨てて（国家）、縄文紀元以来1万5000年の神道といふ道（ミチ）のみに拠つて〔註7〕、特段の（上記の定義による）宗教なしで、近代国家を経営しようと決心して、実際にさうして来たわけである。といふ事は21世紀の今ここに立つて思へば、信じ難い事であるが、学校で教はりまた世間に思はれてゐるのは正反対に、明治国家の日本即ち大日本帝国は、欧米白人種キリスト教徒の国家に対抗して、縄文紀元以来の純然たる古代国家の建国と経営を企図したといふことになります。さうして、しかし、もはや雲を霞の「戦後」70余年は特に其の150余年のうちにあつて、また特に平成の御代30年間は更に深く此のミチの所在を公の中に見失ふことになつて、今日の道德の混乱従ひ紊乱に至つたといふことでありませう。

〔註7〕

この歴史的な事と次第については、『安部公房とチョムスキー（8）』（もぐら通信第81号）の「7.2 大地母神崇拜である神道のtopology」に詳述しましたので、お読み下さい。ダウンロードのURLは：
<https://www.docdroid.net/xI7ha5G/81.pdf>

政治の定義

政治とは、「国家構造模型図」にある通りの三階層の政体に於いて（適用範囲）、国民国家（nation-state）および国民の利益のために（目的1）、経済および政治、並びにこれら二つの領域の下部構造である文化、即ち国民の保持する伝統と歴史を一義的に大切にして（手段）、問題解決のために（目的1.1）権力を執行し（第一層）、行使し（第二層）、および実行する（第三層）ことである。

といふ定義に戻つて考へれば、職業的な政治家の二十一世紀の課題は、繰り返し自己再帰的に〔註8〕古事記の冒頭の天地初発の時にもどつて此の超越論的な空間即ち高天原の存在の三階層〔註9〕と「国家構造模型図」の権力1の平面とを上位接続（論理積：conjunction）する事（以上「国体」）の権力を執行し（第一層）、行使し（第二層）、および実行する（第三層）ことである（以上「政体」）といふ結論になります。即ち古代はあなたの周りの空気の中に、あなたの呼吸する空気の中とあなたの身体（タイ）の中に存在してゐるといふことです。

〔註8〕

この言語原理（ロゴス）に基づく私たちの思考と行為の意味に関しては『Mole Hole Letter（21）：二階層戦争論-時代と世界のための処方箋~ [Made in Japan]』（もぐら通信第104号）の「21世紀多領域統合理論」のマトリクス（matrix）を参照下さい。

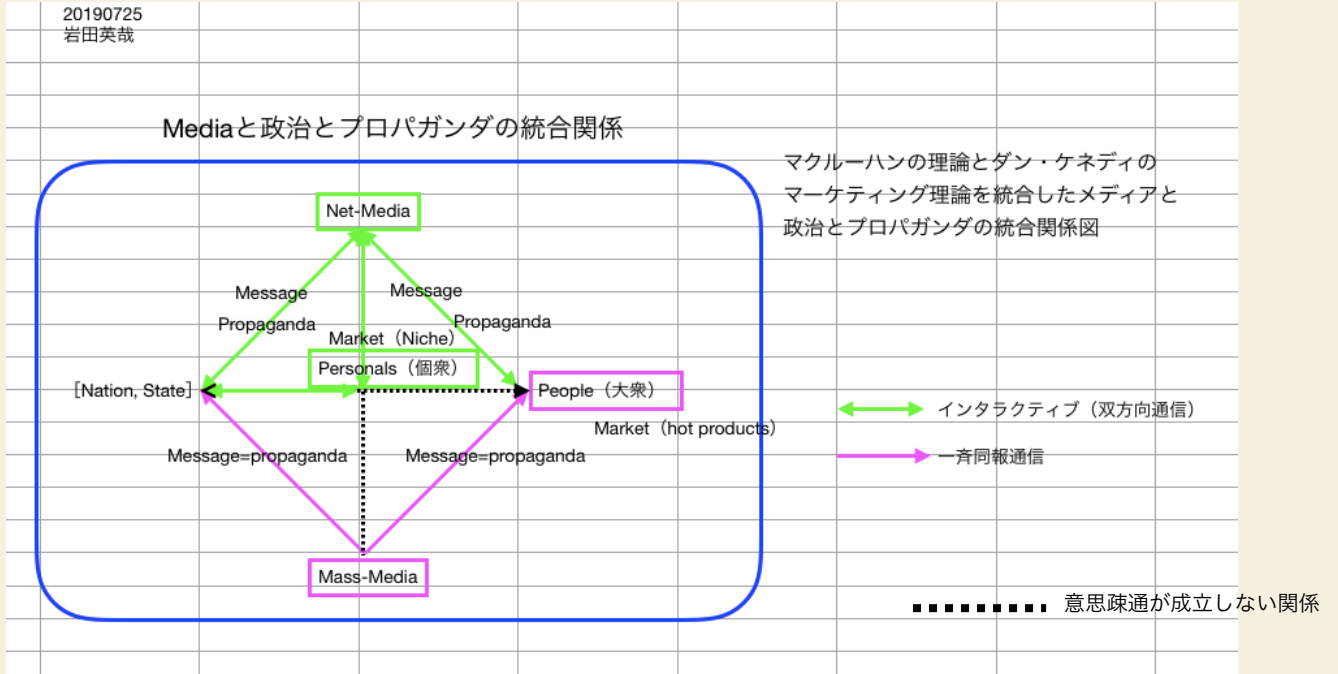
〔註9〕

縄文紀元以来の日本民族が日本語といふtopology言語に依つて連綿と保持する超越論の哲学とtopologyの数学については、『安部公房とチョムスキー（8）』（もぐら通信第81号）の「7.2 大地母神崇拜である神道のtopology」に詳述しましたので、お読み下さい。ダウンロードのURLは：
<https://www.docdroid.net/xI7ha5G/81.pdf>

3. メディアとは何か

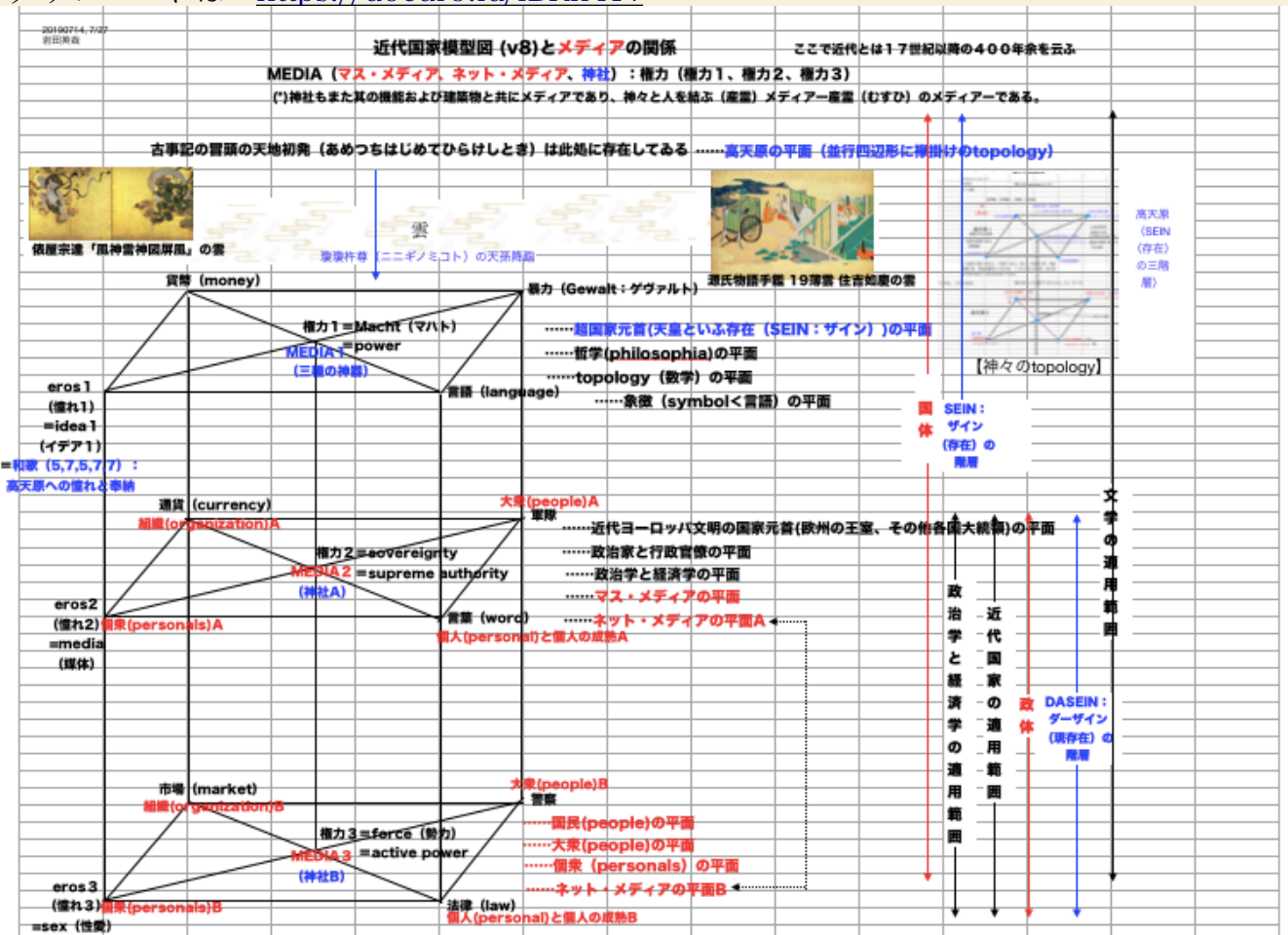
マス・メディアとネット・メディアをを論ずるために、「Mediaと政治とプロパガンダの統合関係」図を最初に掲げます。

ダウンロードは：<https://docdro.id/nKX4eWJ>



次に、「国家構造模型図とメディアの関係」図を示します。これは、前者の図に後者の(メディア、権力)と[(個人、組織)、(個人、成熟)]、(大衆、個衆)、(既存メディア、古代メディア(神社))の関係を図に示して明らかにしたものです。

ダウンロードは：<https://docdro.id/fBKn4lv>



縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く

(1)

岩田英哉

目次

I 《わたし》とは何か、《わたし》は何処にゐるか

1. 安部公房固有の話法「僕の中の「僕」」について
2. 海外の数学者の認識する扇といふ名前のtopologyの実例
3. 《わたし》は何処にゐるか
4. 《わたし》は、宇摩志葦牙比古遲（うましあしかびひこぢ）の神である
5. 宇摩志葦牙比古遲神とは何か
6. 超越論のおさらひ
7. 超越論で伊勢物語を読む
8. みやびとは何か：みやびの概念
9. 現代にみやびの概念を適用する

II 超越論とtopologyの関係再説：日本民族の哲学と数学：神道とは何か

III Topologyと縄文土器

1. 紋様とは何か
2. 縄文土器の構成要素
3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる
4. 縄文土器は三階層で出来てゐる
5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある
6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる
7. メディア（媒体）としての縄文土器
8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる
9. メディア（媒体）としての弥生式土器
10. 縄文土器と弥生式土器の関係（topologicalな連続性）：3（奇数）から2（偶数）へ
11. 銅鐸は7階層で出来てゐる
12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治：土器と政治の一体と分離：銅鐸とは何か1
13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済：土器と経済の一体と分離：銅鐸とは何か2

IV アメリカとは何か

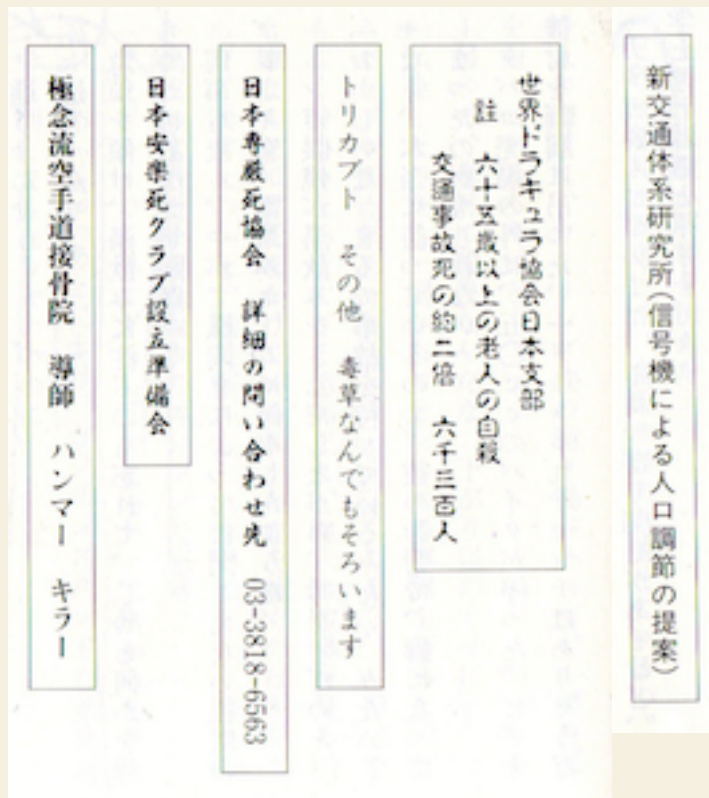
1. 【結論】アメリカはマジシャンズ・セレクトする国である
2. 『菊と刀』は日本民族の何が理解できなかつたか
3. 日本人の書いたアメリカ論はアメリカとアメリカ人の何が理解できなかつたか
4. アメリカ人の書いたアメリカ論はアメリカとアメリカ人をどのように理解したか

VII 二十世紀の幕を閉じるための結語

Mole Hole Letter (22)
「日本安楽死クラブ設立準備会」立候補す

岩田英哉

安部公房の最後の作品『カンガルー・ノート』（1991年）の第5章は「新交通体系の提唱」と題されてみて、この章には深夜呻（うめ）き声を上げて苦しむ老人が早くあの世へ行けるための、存在への立て札が6本も盛大に立つてゐることは、読者ご存知の通りです。



さて、しかし、これが小説のことかと思へばさにあらず、この度の参院議員選挙の立候補者紹介のための広報新聞が配達されて来たが、まさか此処に安楽死を制度化する政党が設立されてみて、立候補者が出てくるとは思ひも掛けず、驚いたので、些か此の政党について論じたい。その政党の立候補者擁立の箇所を引用します。

The image is a political campaign poster for the 'Anshokai' party. It features a portrait of Masahiro Yokoyama on the right. The main headline reads: 「安楽死 ひとつの選択肢 制度に反対ですか」. Below this, it says: 賛成の方は 選挙区は 安楽会 公認 横山 まさひろへ. To the right of the portrait, it says: 横山 公認 制度を考える会 安楽死. At the bottom, it says: 賛成の方は 比例代表は 安楽会 とお書きください. The poster also includes several bullet points: 「自分の最後は自分で決めたい」、「制度を使いたくない人は使わなければよい」、「耐え難い痛みや辛い思いをしてまで延命したくない」、「家族などに世話や迷惑をかけたくない」、「人生の選択肢の一つとしてあると「お守り」のように安心」. There is a small illustration of two people at the bottom left.

この会の名前は「安楽死制度を考える会」とあつて、安部公房の「日本安楽死クラブ設立準備会」には及ばない。それは、まだ考へる段階であつて、設立準備といふ実行段階に至つてゐないからです。それでも此の会の名前の元に、この段階で立候補するといふことは、それほどに切迫した事情があるといふことなのでしょう。

この選挙広告を見ると、この会の設立し、当人が立候補した理由が判ります。それは、

1. 「耐え難い痛みや辛い思いをしえまで延命したくない」
2. 「家族などに世話や迷惑をかけたくない」

といふ此の二つの理由が挙げられてゐて、これが、安楽死が有意義であることを積極的に広く認知させ、制度化する、即ち法律を制定しようといふことの根拠であることが解ります。

上記1は病院での治療の辛さを云ひ、上記2は、かといつて退院して家で療養しても家族に迷惑を掛けるだけであるので、いづれにしても、俗な云ひ方をすれば、死んだ方がましだといふ気持ちである。もつとはつきりと云へば、痛みを伴ふ病気に罹つたら、病院であれ家庭であれ居場所がないので、早く死にませうといふことを法制化しようといふ主張なのです。

さうして、この考へを受け容れてくださつた暁には、「人生の選択肢の一つとしてあると「お守り」のように安心」であるといつて、要するに「人生の選択肢」とは言つてゐるものの、この制度は「死にでの旅のお守りなので安心です」と言つてゐるのです。あれ、この科白はどこかで読んだ記憶があるなと思つたら、さすが安部公房である、これがあるのです、『デンドロカカリヤ』の中に。

あなたは安部公房の読者でありますから、当然に、この話の登場人物がコモン君といふ後々デンドロカカリヤといふ植物に変形してしまふ主人公の他に、記号を挙げれば、話の場所が「N市」、植物園の名前がH植物園であつてコモン君に出した手紙の差出人がH植物園長とあること、またコモン君が恋する女性の名前が「K嬢」であることはご存知でせう。これは別途論ずべきことですが、当時安部公房は花田清輝といつとも一緒にゐましたから、花田清輝の発想する論理と其の論理に依つて展開される言葉が換喩であることを知つてゐました〔註1〕。即ち結論を云へば、これらのアルファベットを繋げるとNHK、即ち日本放送協会となるのです。といふのは、といふよりも順序は逆で、この花田清輝流の換喩を『デンドロカカリヤ』に持ち込んで、NHKといふ文字を散在させて謎掛けした上で、作者はH植物園長に次の言葉を二度言はせるのです。

〔註1〕

安部公房と花田清輝の関係は隣接関係であつた。即ち修辞学の用語を使へば、二人の関係は換喩 (metonymy) であつて、積算し積分した関係である隠喩 (metaphor) の関係ではなかつた。それを率直に示すのが次の文章である。

「やつと眼鏡を手にいれて、最初に目に映つたのが、花田清輝である。彼も特徴のある笑い方をしたが、その笑いは、あまりデモクラチックとは言いがたかつた。口をかくして、恥ずかしげに笑うのは、単に歯が悪いのを隠すためらしく、しかし、歯にむくいる歯のかわりに、眼には眼をきかせればいいわけで、たぶんその眼のせいだつたのだろう、彼との対話は、ほとんど成り立たなかつた。それでもべつに差し支えはなかつたので在る。おかげで、ぼくの印象には、彼のただ一つの面しか残らなかつた。それも、ただ、卓越した芸術家としての、なめし皮のような魂のマチエールだけが.....。そして、その印象は、今も一貫して鮮明なままで続いている。ぼくが彼から受取つたものは、たぶん影響以上のものだつたにちがいない。」 (『玩具箱』全集第20巻、363ページ) (傍線引用者)

H植物園長の提供する植物園内の、コモン君がデンドロカカリヤといふ植物に変形するための空間は、上記の安楽死を考へる会の立候補者の唱へる法制化された場所と同じです。H植物園長がコモン君に出した手紙から引用します。

「(略) つまり、私は、あなたにH植物園の一室を呈供しようっていうわけなんですよ。そりゃ、母島の気候と寸分異わないように、十分な設備がととのえてありますとも。まあ極楽ですな。それに、政府から保証されています。どんな危害をこうむることもありません。現に植物になった沢山の人が、私のところで一番平穩に暮らしています。」 (全集第2巻、251ページ上段) (傍線引用者)

「(略) さあ、デンドロカカリヤさん。こうなつた以上、あまり手間取らせないで下さい。植物にとっての晴れの日じゃないですか。絶対にあなたの為です。政府の保証つきですよ。」

信じ難いことに、今のNHKは東京渋谷の本社内部に中国共産党の宣伝工作機関たる中央電視台の日本支局を置かせてある通りの日本に於ける中国共産党工作機関の巢窟の一つとなり果ててあるが、当時は「政府の保証つきですよ」といはれるほどに「皆様のNHK」といふ (私の記憶にもある) 当時の謳ひ文句通りの、逆に共産党と共産主義の検閲の厳しい政府の宣伝広告機関としての、文字通りの日本の公共放送NHKであつたことは、この作品で安部公房は「政府の宣伝広告機関としての、文字通りの日本の公共放送NHK」を密かに揶揄し風刺してあることから判りますし、当時NHK職員として安部公房と共に仕事をした長与孝子さんの日記に、NHKの検閲のことは詳しい。当該箇所をもぐら通信第19号より再掲します。日記中「安部公房の名前が出るのはまずい」のは、当時安部公房は日本共産党員であつたからです。

「1959年(昭和34年)

3月 いよいよ半年にわたる安部公房氏作連続ドラマ「ひげの生えたパイプ」の提案が通った。もつとも、この時にも一悶着あった。毎年、会長が年度初めの前に、国会で予算と放送内容の報告を行うことになっているが、そこで安部公房の名前が出るのはまずいと言うのである。再び「キッチン クッチュ ケッチュ」の時のようなやりとりがあったあげく、それでは放送を5月に延ばせと上層部から言ってきた。4月からだと放送一覧表に載せなくてはならないが、5月の開始なら載せなくともすむからと言うのである。随分姑息な手段だと笑ったが、安部氏は率直に受入れて下さった。そして、取材にはダム工事の現場が見たいと言われた。建設省や電力会社などに問い合わせた結果、四国愛媛県の鹿野川ダムにきめた。松山放送局に電話し、かねて知り合いの一戸局長にすべての手配を頼んだ。帰りは高知に寄るつもりだったので、そちらへも連絡した。女性ディレクターが男性作家と何日も一緒に出張するのは初めてとのことで、ここでも又一騒動あったが、何とか許可が出て、3月27日から4月2日まで安部氏と同行取材。」（『安部公房氏との打ち合わせ記録（3）』もぐら通信第19号）

さて、本題に戻れば、この立候補者の主張はまさしくH植物園長のいふところの「現に植物になった沢山の人が、私のところで一番平穏に暮らしています」といふ天国であり極楽である。文字通りに安楽であり極楽であれば、安楽死であり極楽死でありませう。ここで此の立候補者の訴へてゐるのは、H植物園長と同じ実に逆説的な主張であると思はれますが、しかし何が問題かといふと此の方は至極真面目に、といふことは安楽に、此の安楽死を唱へてゐるといふところなのです。ここには安部公房のいふ「せめて自分だけのオリジナルな死を死ぬために、一般的な死を拒絶」するといふ自由は影も形もない（『シャボン玉の皮』全集第24巻、419ページ上段）。ないどころか、この「政府のおすみつき」の制度は、お守りであるとする言つてゐる。死んだあとにも保険が適用できますから、どうぞ国民の皆様ご安心下さいと言つてゐるのである。ここまでくれば安部公房の最初の戯曲『幽霊はここにいる』の世界である。

1. 「耐え難い痛みや辛い思いをしえまで延命したくない」
2. 「家族などに世話や迷惑をかけたくない」

といふ此の二つの主張の柱を次のやうに変形したら、マスメディアの嘘か誠か報じる今の日本の国と日本人の姿そのものではないか。

1. 「耐え難きを耐え、忍び難きを忍んでまでして延命したくない」といふ乞食根性
2. 「後世の若者たちに世話や迷惑をかけたくない」といふ偽善的なやはり乞食根性

上記1はいふまでもなく昭和天皇の終戦の詔勅のパロディーであり、上記2は政府の借金を国民の借金とすり替え、尚財務省自らの公表してゐるバランス・シートを見れば政府の財政は健全であることを嘘偽つて赤字であるといふ共産主義財務省の国民を馬鹿にしたプロパガンダの言葉そのものであることとなります。従ひ、これらの問題の解決策は結局、

1. 「耐え難きを耐え、忍び難きを忍んで」生き延びること、といふ昭和天皇の遺勅を守り、
2. 「後世の若者たちに世話や迷惑をかけたくない」といふならば、もつと勉強して財務諸表の読み方を学び、権力の嘘を見抜くだけの理性を我がものと、日本国民が、すること

といふ平凡なる結論二つが処方箋となるのではないだろうか。あなたの御考へは如何に。

マイネッケといふドイツの政治学者の著した『国家論』の開巻第一行、「序論 国家理性の本質」は次の言葉で始まるのです。国家理性の前提は国民一人一人の理性であり、国家は其の理性的な働きのために教育制度を整備して国民に教育を施すといふのが本来の近代国家のあり方ですが、さて其の国家理性や如何に。

「国家理性とは、国家行動の基本原則、国家の運動法則である。それは、政治家に、国家を健全に力強く維持するためにかれがなさねばならぬことを告げる。また、国家は一つの有機的組織体であり、しかも其の有機体の充実した力は、なんらかの方法でさらに発展することができるばあいにもみ維持されるがゆえに、国家理性は、この発展の進路と目標をも指示する。」（『近代史における国家理性の理念』中央公論者『世界の名著54 マイネッケ』49ページ上段）

この近代国家論の冒頭を読むと、近代国家（の筈であつた）今の日本といふ国は、あのお笑ひ国会議事堂の中に国民の理性を代表する即ち国家理性の名に値する議員の何びとが何人あるものか、疑ふまでもなく自明であることに、愕然とすらしないといふところが誠に、げにげに恐ろしき世の中である。今の国会議事堂の中にゐる選良ならぬ選悪を主語にすると、マイネッケの言葉は次のやうになるであらう

「国家痴性とは、国家不作為の基本原則、国家の怠惰懶惰の法則である。それは、政治家に、国家を不健全に力弱く維持するためにかれがなさねばならぬことを告げる。また、国家は一つの無機的組織体であり、しかも其の無機物体の衰弱した力は、なんらかの方法でさらに衰弱することができるばあい以外にのみ維持されるがゆえに、国家痴性は、このマイナスの発展の進路と目標をも一層に指示する。」

と読み替へれば、この選挙の大きな争点の一つである消費税10%の導入、中国共産党の内外共に亘る侵略から国民の生命・財産・安全を守るといふ政治家〔註2〕になりたいといふ立候補者に必須不可欠の其の使命と気概はどこにもなく、確かに国民一人一人が死ぬ前に国家が死んでしまつてゐて（私はこれが言葉の上での隠喩（メタファ）としてからうじて文学の内側に留まつてゐることを願ふが、しかし、それ故に、さうであればこそ）、恐らくは安楽死協会に一票を入れる国民はゐないものと思はれる。

[註2]

神聖にして犯すべからざる誤訳偽装偽善の日本国憲法第13条にかうあるぞ：

「〔個人の尊重と公共の福祉〕

第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」 (<http://www.syuppan.net/kyoto/s2-kan-05.htm>) 呵々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

これが、私の此の政党に対する選挙結果予想である。外れれば良いが、多分当たるだらう。

最初はこんな話をするつもりは毛頭なく、安部公房の遺作『カンガルー・ノート』の話をするつもりであつたのである。この安楽死の会から議員が出るためには、やはり「新交通体系研究所」からも立候補者が出るやうになつて、老人たちが信号機を横断する時に、信号機の色点灯を意図的に誤表示されるやうな交通システム上の工夫をして、老人を公共の道路上で殺すことが広く認知されなければならないだらう。さうなつた暁には、「日本安楽死クラブ設立準備会」は「日本安楽死クラブ」となり、「安楽死制度を考える会」は「安楽死党」と晴れて名乗ることができよう。それから、安楽死制度化の環境を整備するためには、サンドラッグといつたかデスドラッグといつたか、マツモトキヨシといつたかマツゴキヨシといつたか、薬局の業界団体の設立せる「日本トリカブト一服盛り党」からも立候補者が出なければならないであらう。

さて、しかし、ここまで来ると、今回の此の政党はカルトである。更にしかし待てよと辺りを見廻せば、何と！自民党以下野党全てこれ皆カルト政党ではないか！かうなれば、いよいよ擬似イヴェント国家日本である。天皇陛下万歳！消費税を10%に上げて益々民を窮乏に追ひやり、緊縮財政の虚報プロパガンダで防衛費の増額もままならぬやうに謀略をめぐらして民草の生命も財産も安全も守らぬといふのであれば、いつそのこと政府の肝いりで「中国共産党観光旅行御一行様株式会社」といふ会社を戦略特区に設立し（勿論金は中国共産党に出させるのだ）、広く痴性豊かな国会議員や目玉に\$マークの輝いてゐる経団連の懲りない面々に呼びかけて「JAPパック」といふ名前のツアーを組んで、全体主義ファシズム国家に喜んで隷属するための素晴らしい観光立国に邁進しては如何か。天安門広場で日本人の狂気を発散させて、阿波踊りを踊るツアーである。エライコッチャ、エライコッチャといふ事で人民解放軍の戦車隊が出動して、国を深く憂ふる国会議員、民の竈（かまど）を自分の出世よりも大事に思ふ行政官僚、自分の利益を全く考へることなく私利私欲と無縁の傑出せる経団連の経営者たちは、我ら日本国民の無念やる方なく、嗚呼哀れなるかな、全員轢死するのであります。これを古人曰く万死と云ひ、この死に方を万死に値する死といふのである。

余りに狂気に満ちたわが国であるので、流石の私も、これ以上何を書いて良いものかわからなくなつてしまつた。ここから先は益々わが狂気の筆は走ることに必定なので、今日は、これでお仕舞ひにして、ガルガンチュアの如く呵々大笑して、正気の世界に戻ります。呵々々々

そこで、国家を担ふ人罪たる公僕たちの大量殺戮されたる其の人生悉（ことごと）くを憐れみて我が詠める歌一首：

日の本に ガルガンチュアの出づるらむか 余りに酷き国会議事堂

このガルガンチュアが、戦後直ぐの1954年（昭和29年）に登場したゴジラといふ怪物であつたといふ事と次第が今、かうして知られるのである。それ故にゴジラは繰り返し、NYやWashinton D.C.ではなく、東京を破壊して来た。其処で吾が詠める一首：

日の本に GODZILLA現れ 議事堂も 霞ヶ関も 綺麗サツパリ

呵々々々

これ位の狂気がなければ、安部公房を論ずることなど出来ないのである。否、これでもまだまだ狂気が足りない。



Gargantua

フ
ラ
ン
ス
製
の
ゴ
ジ
ラ



初代ゴジラ

かく見れば、ゴジラの目は奈良の東大寺の運慶の彫つた仁王像か金剛力士像の目玉、あるひはむしろ俵屋宗達の描いた風神雷神の目玉に似てゐる。

連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～*
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライプニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉册伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデgger理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエイター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
 - ①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
 - ②安部公房とライプニッツ：汎神論的存在論
 - ③安部公房とジャック・デリダ：郵便的 (postal) 意思疎通と差異
 - ④安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
 - ⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人 (strangers in the night)
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 () [] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公公安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと産霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をほらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（ほらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

●初期安部公房新発見書簡三通と其の解説：うすぼてちさんのツイートをみて、提供をお願いし、この転載となりました。今まで誰にも知られていなかった奉天での友人のことが明らかになりましたので、貴重な書簡です。うすぼてちさんどうもありがとう。本名を知らないといふのが、安部公房の世界らしい。私も興味が無いが、あなもさうではないか？時代は変はり、マス・メディアからネット・メディア主流の時代となつたのである。捏造マス・メディアの諸君、メインストリーム・メディア（主流メディア）なる呼称はネット・メディアに献上奉れ。

●全自動ベビーカーのデッドヒート：第二回 死んだ少女とそれぞれのうたげ：ベビーカーがベビーカーらしく快調に滑走し始めました。かうしえデッドヒートとつけた題のデッド（dead）の意味もヒート（heat）の意味も段々と明らかになる。註釈を付すことの判断は編集部に一任されましたが、安部公房の読者には不要と思ひました。作中に名前が出るSF作家も読者羞恥でせう。本当に連想の仕方も、連想の連鎖の繋ぎ目そのものもあれこれと繋いでしまふ仕方も、安部公房の読者らしい。きつと世界中の安部公房の読者つて、間違いなく、この文体で表現される人間たちなのだと思ひながら思ひました。そのうちベビーカーが日本を飛び出して、世界中を接続してくれないかな。そして、ジャンル横断的に。そこで一句：今回も乗つて楽しきベビーカー

●『周辺飛行』論（18）：ゴム人間のことなど——周辺飛行15：安部公房の論理は小説も詩文も戯曲も舞台の演出も何もかも実に合理的で、首尾一貫してゐることがますますわかります。それも決して理屈一辺倒ではなくて、むしろ全く逆に非合理である夢を問題にし、大切にす。この二つは矛盾ではなく同じものだと思ふと安部公房は考へてゐる。虚構の中で空を飛ぶのに理屈はゐらないだらうとインタヴューの小説家に説明する安部公房の言葉がある。

●リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（48）：第2部 XXIII：“お前に絶えず反抗しているお前の時間に、わたしを呼びなさい。”：まさか、この詩から『R6 2号の発明』を想起すると思ひがけぬ展開でした。第二部は29篇からなる。といふことはあと7篇の詩を読んでおしまひになる予定。

●ネット・メディア論（1）：国家とは何か：これも相当に確実に論じましたので、お読みくださるとありがたい。本当はこのやうなことをお互ひに論じて総合的な解決をチームで図るのが専門家ではないのだらうか。私、ズブの素人です。ただ、世の中には余りにも問題が多すぎて、さて一体どうやつて解決したら良いのかを考へて生きてきただけ。冒頭に提示したあの国家モデルの箱が、実はあれは箱男の箱だと最後に種明かしをしたら日本中が引つくり返るだらうな。と、妄想をたくましくしてゐる。怒り神道に発す。古代が現代に追いついたのか、現代二十一世紀が古代に追いついたのか？夜の競技場を周回遅れで孤独に走り続ける箱男の論理では、明らかに後者です。

●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（1）：今回は目次だけです。しかし内容については目次を見るとお判りの通りです。さあ、日本人自身が日本の国に決着をつけようぜ。といふことです。外国人にあだかうだ言はれる筋骨ひはねえだらう。といひたいが、これを怠つて来たツケを払ふことになつたのだ。さあ、借金取りの鬼の名前はなんといふのだ？それも20世紀で終りにしようといふことです。あとはプラスの世紀としたいものです。要するに自分のことは自分で始末をしろといふこと。何だか子供のころ年寄りによく言はれてゐたやうな記憶があるなあ。少なくとも平成の30年間日本人はお襦袢（むつ）をしたままウチをしたいといつて、さう生きてきたのだ。アメリカのトランプ大統領はもうオムツは支給しないので、独立してくれと言つてゐる。お前にもオチンチンがあるのだらう？と。オシッコも自分で始末してくれ、70余年前に我が軍のマッカーサー將軍が言つたあの12歳の年齢位には戻つてくれ、と。

●Mole Hole Letter（22）：「日本安楽死クラブ設立準備会」参議院選挙に立候補す：安楽死の政党が出てきたので、さすが安部公房！といふ私のいつもの反応でした。『カンガルー・ノート』を読んでもらひたい、この政党の立候補者たちには。それに老人の人口を減らすための信号機の積極的な設置してもらひたい。あつ、私も数にはいつてゐるのか？これからの時代は死んだら三途の川を渡るのではなくて、三途の横断歩道といふのがあの世へとあるのではないか？これはAI搭載で顔認識し、国家に登録された管理台帳で瞬時に個人の年齢が特定できて、国家に定義された老年期の老人のために交通信号機の色が点灯を変へるのである。道路交通法も修正されて、この場合の交通事故死に関する加害者の罪は一切免除されるのだ。さて、横断歩道で轢死して、また三途の横断歩道を渡つて向かう側へ辿り着くと、閻魔大王が待つてゐて、さあ『カンガルー・ノート』の地獄巡りの読書会を開催しようと誘はれる。閻魔大王も『カンガルー・ノート』の愛読者なのだ。勿論、参加しても断つてもあなたは自由だ。どつちにしても地獄へ落ちるのだから。安部公房の世界だ、行くのはいつでも地獄しかないのだ。閻魔大王の後ろに並んでゐる裁判の判例集は勿論皆安部公房全集全30巻である。私たちがそれを見て、安心して地獄巡りができるわけだ。

●ではまた、次号

差出人：

廣安部公房

〒182-0003東京都調布

市若葉町「閉ざされた無限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

1. 『周辺飛行』論（20）
2. 安部公房の縄文紀元論（1）：一般論
3. 私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
4. 哲学の問題101（11）：愛（Liebe：リーベ）
5. 大久保房雄を読む（1）：文壇とは何であつたか
6. リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む（54）
7. サンチョ・パンサを求めて（3）：ドーナツの穴になつた話

【本誌の主な献呈送付先】

本誌の趣旨を広く各界にご理解いただくために、安部公房縁りの方、有識者の方などに僭越ながら本誌をお届けしました。ご高覧いただけるとありがたく存じます。（順不同）

近藤一弥様、池田龍雄様、中田耕治様、宮西忠正様（新潮社）、北川幹雄様、加藤弘一様、平野啓一郎様、巽孝之様、鳥羽耕史様、友田義行様、内藤由直様、番場寛様、田中裕之様、中野和典様、坂堅太様、ヤマザキマリ様、小島秀夫様、頭木弘樹様、高旗浩志様、島田雅彦様、赤田康和様（朝日新聞社）、富田武子様（岩波書店）、待田晋哉様（読売新聞社）

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。

4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

